

# 大倉幕府周辺遺跡群 (No.49)

二階堂荏柄 76 番 8 地点

## 例 言

1. 本報は鎌倉市二階堂荏柄76番8地点に所在する遺跡の発掘調査報告である。
2. 発掘調査は個人専用住宅に係る建築範囲35㎡を対象とし、平成18年2月17日から平成18年4月24日にかけて実施した。
3. 現地での調査体制は以下の通り。

担当者	伊丹まどか
調査員	宇都洋平・鍛冶屋勝二・本城裕
作業員	河原龍雄・清水政利・田島道夫・(社)鎌倉市シルバー人材センター
4. 本報作成は以下の分担で行った。

遺構図版作成	岡田慶子・田畑衣理・渡辺美佐子
遺物実測	岡田慶子・田畑衣理・渡辺美佐子・伊丹まどか
遺物図版作成	岡田慶子・田畑衣理・渡辺美佐子
観察表	田畑衣理
遺構写真	宇都洋平・鍛冶屋勝二
遺物写真	須佐仁和
写真図版作成	田畑衣理
執筆・編集	松吉大樹(歴史的環境)・田畑衣理(グリッド配置図)・伊丹まどか
5. 出土品等発掘調査資料は、鎌倉市教育委員会が管理している。
6. 本報図版の遺構・遺物の縮尺は次のとおりである。

遺構全測図	： 1 / 60	個別遺構図	： 1 / 40	実測遺物図	： 1 / 3	銭	： 1 / 1
-------	----------	-------	----------	-------	---------	---	---------

なお各挿図にはスケールを表示してある。
7. 検出した遺構の計測値・実測遺物観察表および、実測できなかつた遺物の破片数は表にまとめて掲載した。
8. 出土した遺物及び、調査資料は鎌倉市教育委員会が保管している。
9. 発掘調査及び報告書作成に関しては下記の方々よりご教授、ご協力を賜りました。記して深く感謝いたします。(敬称略・五十音順)  
太田美智子・沖元道・押木弘巳・菊川英政・齊木秀雄・汐見一夫・原廣志・馬淵和雄

# 目次

## 本文目次

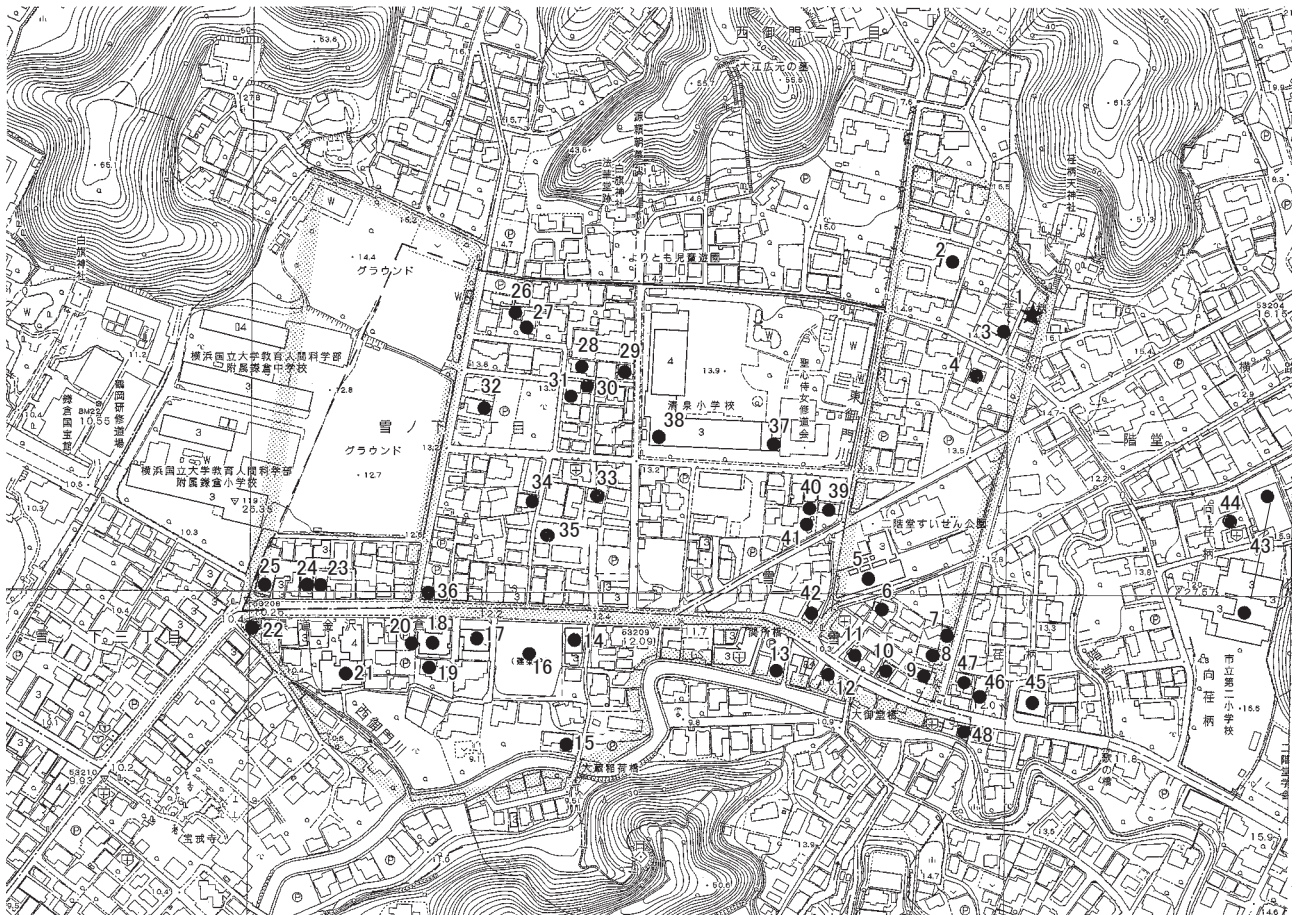
第一章 遺跡の位置と歴史的環境 .....	59
1. 調査地の位置と歴史的環境 (図1)	
2. 調査の経過 (図2)	
3. 堆積土層 (図3)	
第二章 発見された遺構と遺物 .....	66
1. 第1面の遺構と遺物 (図4～図14)	
2. 第2面の遺構と遺物 (図15～図21)	
3. 第3面の遺構と遺物 (図22～図29)	
4. 第4面の遺構と遺物 (図30～図32)	
5. 第5面の遺構と遺物 (図33～図36)	
6. 第6面 (図37)	
第三章 まとめ .....	108

## 挿図目次

図1 調査地点と周辺の遺跡図 .....	57	図20 第2面面上出土遺物(2) .....	85
図2 調査区の位置とグリッド配置図 .....	58	図21 第2面構成土出土遺物 .....	86
図3 堆積土層図 .....	62	図22 第3面全測図 .....	87
図4 第1面全測図 .....	65	図23 第3面各遺構(1) .....	89
図5 第1面各遺構(1) .....	67	図24 第3面各遺構(2) .....	90
図6 第1面各遺構(2) .....	68	図25 第3面各遺構出土遺物(1) .....	91
図7 第1面各遺構出土遺物(1) .....	69	図26 第3面各遺構出土遺物(2) .....	92
図8 第1面各遺構出土遺物(2) .....	70	図27 第3面各遺構出土遺物(3) .....	93
図9 第1面各遺構出土遺物(3) .....	71	図28 第3面各遺構出土遺物(4) .....	94
図10 第1面各遺構出土遺物(4) .....	72	図29 第3面面上・構成土出土遺物 .....	95
図11 第1面面上出土遺物(1) .....	73	図30 第4面全測図 .....	96
図12 第1面面上出土遺物(2) .....	74	図31 第4面各遺構 .....	98
図13 第1面構成土出土遺物(1) .....	75	図32 第4面各遺構・遺構外出土遺物 .....	99
図14 第1面構成土出土遺物(2) .....	76	図33 第5面全測図 .....	101
図15 第2面全測図 .....	79	図34 第5面各遺構・出土遺物(1) .....	102
図16 第2面各遺構 .....	80	図35 第5面各遺構・出土遺物(2) .....	103
図17 第2面各遺構出土遺物(1) .....	81	図36 第5面面上・構成土出土遺物 .....	104
図18 第2面各遺構出土遺物(2) .....	82	図37 第6面全測図 .....	105
図19 第2面面上出土遺物 .....	83	図38 試掘坑・表採出土遺物 .....	107

## 図 版 目 次

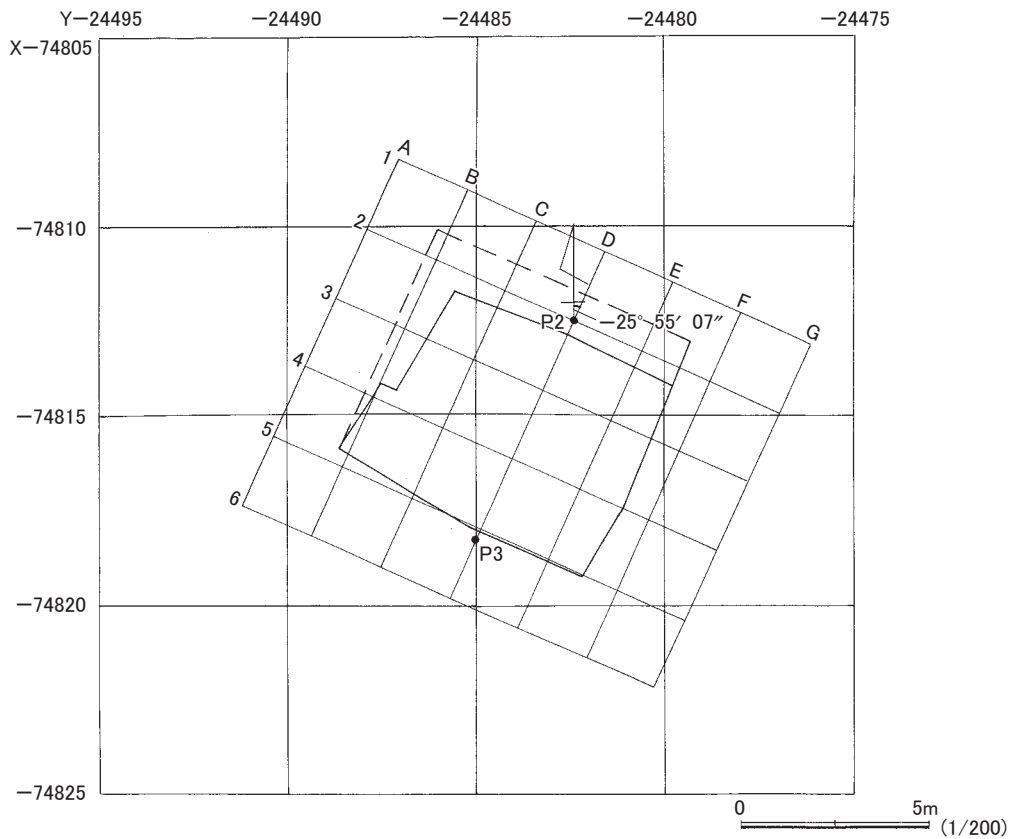
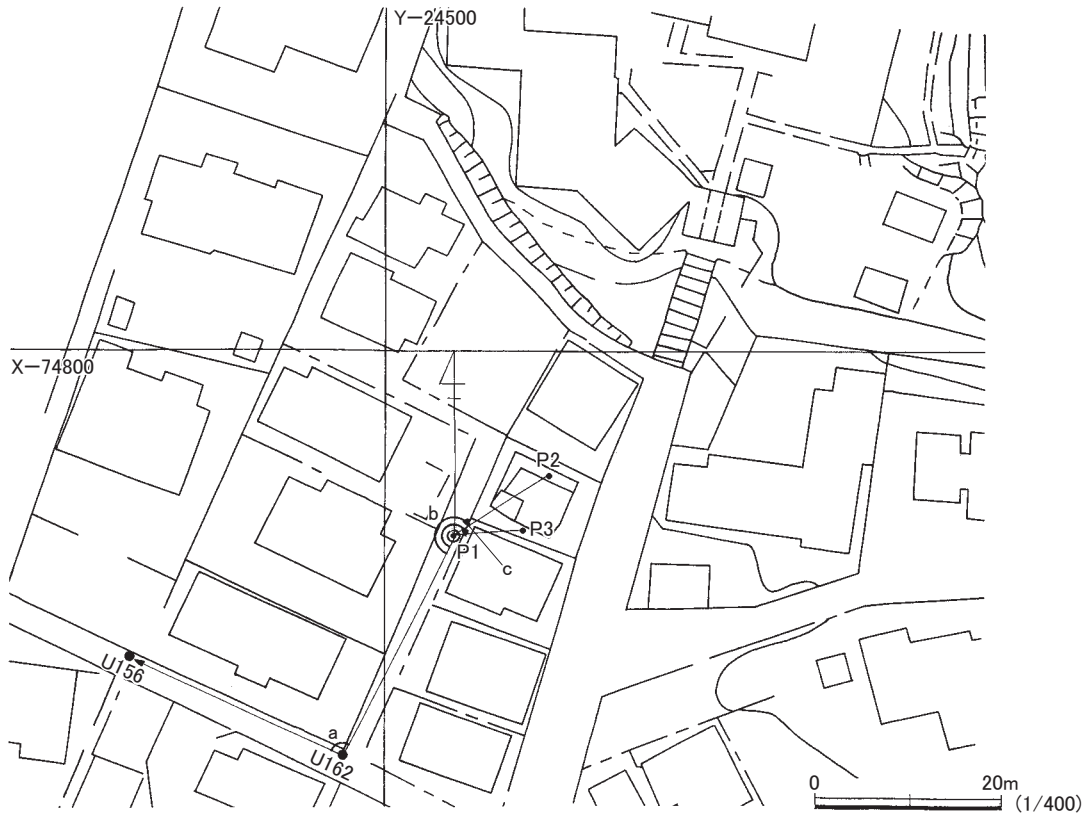
<p>遺構写真図版 1 ..... 125</p> <p style="padding-left: 2em;">荏柄天神社</p> <p style="padding-left: 2em;">第1面全景(北から)</p> <p style="padding-left: 2em;">第1面調査区東側遺構群(北から)</p> <p>遺構写真図版 2 ..... 126</p> <p style="padding-left: 2em;">第1面遺構62 鬼瓦出土状況(西から)</p> <p style="padding-left: 2em;">第1面遺構82(南から)</p> <p style="padding-left: 2em;">第2面全景(東から)</p> <p style="padding-left: 2em;">第3面全景(北から)</p> <p>遺構写真図版 3 ..... 127</p> <p style="padding-left: 2em;">第3面全景(東から)</p> <p style="padding-left: 2em;">第3面遺構162 完掘状況(北から)</p> <p style="padding-left: 2em;">第3面遺構162 板草履出土状況(北から)</p> <p style="padding-left: 2em;">第3面遺構162 南東隅検出束柱(西から)</p> <p>遺構写真図版 4 ..... 128</p> <p style="padding-left: 2em;">第3面遺構136 礎板検出状況(北から)</p> <p style="padding-left: 2em;">第4面全景(北から)</p> <p style="padding-left: 2em;">第5面全景(北から)</p> <p style="padding-left: 2em;">第5面遺構346 完掘状況(南から)</p> <p>遺構写真図版 5 ..... 129</p> <p style="padding-left: 2em;">第5面遺構335 完掘状況(南から)</p> <p style="padding-left: 2em;">第5面遺構331・338・340 完掘状況(東から)</p> <p style="padding-left: 2em;">第6面全景(東から)</p>	<p>遺物写真図版 1 ..... 130</p> <p>遺物写真図版 2 ..... 131</p> <p>遺物写真図版 3 ..... 132</p> <p>遺物写真図版 4 ..... 133</p> <p>遺物写真図版 5 ..... 134</p> <p>遺物写真図版 6 ..... 135</p> <p>遺物写真図版 7 ..... 136</p> <p>遺物写真図版 8 ..... 137</p> <p>遺物写真図版 9 ..... 138</p> <p>遺物写真図版 10 ..... 139</p> <p>遺物写真図版 11 ..... 140</p>
---	---



<調査地点一覧>

- 大倉幕府周辺遺跡群 (No.49) 1. 二階堂字荏柄76番8 (本調査地点) 2. 二階堂字荏柄58番4外 (原2002『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 (以下、市緊急報告書)18-1』) 3. 二階堂76番4 (宮田2007 未報告) 4. 二階堂字荏柄27番3の一部 (原2006『市緊急報告書22-1』) 5. 二階堂字荏柄38番1 (原馬淵1993『市緊急報告書9-2』) 6. 雪ノ下字天神前562番30 (馬淵2007 未報告) 7. 二階堂字3番6外 (原2006 未報告) 8. 二階堂字荏柄13-6 (山口2008 未報告) 9. 雪ノ下字大倉耕地565番4 (原1991『市緊急報告書7』) 10. 雪ノ下字天神前562番29 (福田1996『市緊急報告書12-1』) 11. 雪ノ下字大倉耕地562番16 (福田2001『市緊急報告書17-2』) 12. 雪ノ下四丁目567番7 (馬淵2004『市緊急報告書20-2』) 13. 雪ノ下四丁目573番4 (馬淵2006 未報告) 14. 雪ノ下四丁目581番2 (松尾1983 未報告) 15. 雪ノ下四丁目580番10ほか (原2001『市緊急報告書17-2』) 16. 雪ノ下四丁目581番5 (斉木2007『大倉幕府周辺遺跡群発掘調査報告書』) 17. 雪ノ下四丁目620番5 (馬淵1998『市緊急報告書14-2』) 18. 雪ノ下四丁目620番1 (河野1980 未報告) 19. 雪ノ下四丁目620番2 (赤星1983 未報告) 20. 大倉南御門B (1983・1984 市教委立会調査 未報告) 21. 雪ノ下四丁目610番2 (玉林1983・1984 未報告) 22. 大倉御門 (手塚1980 未報告) 23. 雪ノ下三丁目607番1 (降矢2004『市緊急報告書20-2』) 24. 雪ノ下三丁目607番ほか (菊川1994『市緊急報告書10-1』) 25. 雪ノ下三丁目606番1 (菊川1993『市緊急報告書9-3』)
- 大倉幕府跡 (No.253) 26. 雪ノ下三丁目693番8 (押木2009 未報告) 27. 雪ノ下三丁目693番1 (滝沢2010 未報告) 28. 雪ノ下三丁目701番3 (馬淵2005『市緊急報告書21-1』) 29. 雪ノ下三丁目704番3外 (福田2011『市緊急報告書27-2』) 30. 雪ノ下三丁目701番3 (馬淵2005『市緊急報告書12-1』) 31. 雪ノ下三丁目701番14 (宮田2005『市緊急報告書21-1』) 32. 雪ノ下三丁目694番18 (宮田2009 未報告) 33. 雪ノ下三丁目648番31 (山口2009 未報告) 34. 雪ノ下三丁目651番8外 (汐見1999『市緊急報告書15-2』) 35. 雪ノ下三丁目648番31 (山口2009 未報告) 36. 雪ノ下三丁目618番4 (汐見2002『市緊急報告書18-1』) 37. 雪ノ下三丁目・清泉小学校内 (松尾1983『市埋蔵文化財調査年報1』) 38. 雪ノ下四丁目707番1 (宮田1990『埋蔵報告34』) 39. 雪ノ下三丁目637番4 (熊谷2011『市緊急報告書27-2』) 40. 雪ノ下三丁目637番6外 (伊丹2008 未報告) 41. 雪ノ下三丁目635番2外 (熊谷2008 未報告) 42. 雪ノ下字大倉耕地569番1 (馬淵1990『大倉幕府周辺遺跡群雪ノ下字大倉耕地569番1地点発掘調査報告書』)
- 横小路周辺遺跡 (No.253) 43. 二階堂字荏柄880・874番 (馬淵1985『向荏柄遺跡発掘調査報告書』) 44. 二階堂字荏柄875-4 (斉木2008 未報告) 45. 二階堂字荏柄9番1 (菊川1990『市緊急報告書6』) 46. 二階堂字荏柄10番6ほか (福田2000『市緊急報告書16-2』) 47. 二階堂字荏柄10番1 (原2003『市緊急報告書19』) 48. 雪ノ下五丁目557番1 (手塚1998『市緊急報告書14-2』)

図1 調査地点と周辺の遺跡図



国土座標数値 (世界測地系第Ⅲ系)  
鎌倉市4級基準点

U156	X=-74831.0327	Y=-24526.9686	P1 ⇔ U162	26.008m	a:103° 31' 10"
U162	X=-74841.8461	Y=-24504.1434	P1 ⇔ P2	11.960m	b:211° 13' 20"
P1 (任意点)	X=-74818.5785	Y=-24492.5131	P2 ⇔ P3	7.378m	c:239° 37' 50"
P2 (任意点)	X=-74811.6820	Y=-24482.7420			
P3 (任意点)	X=-74817.6975	Y=-24485.1351			

図2 調査区の位置とグリッド配置図

# 第一章 遺跡の位置と歴史的環境

## 1. 調査地の位置と歴史的環境（図1）

本調査地点は現在の荏柄天神社の門前に位置する。『和名類聚鈔』に、相模国鎌倉郡七郡の一つとして「荏草郷(えがやのごう)」があり、奈良期から平安期に名が見える郷名で、天平七(735)年閏十一月十日付相模国封戸租交易帳には「荏草郷伍拾戸 田壹伯肆拾玖町肆段貳伯参拾陸歩」と、某親王のものと思われる食封もあった(註1)。中世では「荏草(えがや)」が転じて「荏柄(えがら)」となったという説もある(註2)。郷の範囲は、現在の荏柄天神社附近から名越まで及んでいたと推定されているが詳細は不明(註3)

荏柄天神社の祭神は菅原道真。相殿に八雲大神・熊野三柱神を祀っている。勧請については未詳であるが、長治元(1104)年頃には開かれていたとされる。天神に対する畏敬の念は、天神信仰として平安時代から今日に至るまで脈々と続いており、多方面の分野に影響を及ぼしている(註4)。『新編相模国風土記稿』は、源頼朝が幕府鬼門の鎮守として当社を崇敬したと伝え、『吾妻鏡』建仁二(1202)年九月十一日条では、將軍頼家が当社祭に大江広元を奉幣使として派遣していることから知れる。室町期には鎌倉公方の保護を受けていたらしく、足利成氏は毎年正月廿三日の例祭、同二五日の千句の催しに参詣。二月廿三日朝から廿五日までの参籠するのを例としていたようである(註5)。建保元(1213)年二月廿五日、和田義盛の乱で捕えられた渋谷刑部六郎兼守は、自らが処刑されることを聞き及び「不堪其愁緒」して和歌十首を当社に献じた。その日の夜から当社に「参籠」していた工藤藤三祐高は、翌朝退出する際に、その兼守の歌を取って將軍実朝に見せたところ、実朝は賞賛して兼守を赦してしまう(註6)。『吾妻鏡』はその続きを「已預天神之利生、亦蒙將軍之恩化、凡感鬼神、只在和歌者歟」と結んでいる。実朝の和歌に対する造詣の深さが窺われる例でもあるが、天神に和歌を捧げること、それに伴って享ける功德など、中世における天神信仰の一端も垣間見ることができよう。工藤藤三祐高は当社に「参籠」していたのであるが、寛元二(1244)年七月廿日には、落合蔵人泰宗が七日間参籠し、不義密通に対して潔白の起請文を書いている(註7)。北野天満宮の事例ではあるが、『吾妻鏡』元仁元(1224)年十二月十六日条に「就地頭所務以下事、被定条条」として「一 諸社神官并神人等令書起請文時於他社不可書由事、於京都令書者、不嫌自他社、於北野可書也」とあることから、起請文は天神社で書くものであったのだろう。となれば同建仁三(1203)年九月二日条、いわゆる比企氏の乱に際して、北条時政が天野民部入道遠景と仁田(新田)四朗忠常に「於荏柄社前」その企てを話したと態々記載されているのも、ある意味で天神に対しての意思表示、願掛けのようなものを感じてしまう。

荏柄天神社は大倉幕府周辺地域一帯としても捉えられる。治承四(1180)年十二月十二日、源頼朝は大倉へ移徙。御家人達は幕府周辺に宿館を構えている(註8)。大倉幕府周辺は御家人等の屋敷が多く建っていたようである(註9)。『吾妻鏡』建保元年三月廿五日条では、和田平太胤長の「荏柄前」の屋敷が没収され、その屋敷を胤長の父義盛が所望していたが、北条義時が同地を拝領することになり遺恨となった。これが和田義盛の乱の原因の1つとも伝えられる。また、同建長三(1251)年十月七日条では、薬師堂谷から出た火が「宇佐美判官荏柄家」まで延焼しているのが分かることから、將軍御所が若宮大路へ移った後も荏柄天神周辺に御家人の屋敷が建っていたようである。『吾妻鏡』文暦二(1235)年九月一日条に「右大将家法華堂前湯屋失火、風頻吹、法華堂頗難免此災之処、諏方兵衛尉盛重一人最前馳向、令壞中間民屋敷十字之間、火止訖」とあり、大倉法華堂前には「湯屋」があったことが分かる。この場合の「湯屋」が風呂屋を指すのか、寺院に伴う齋戒沐浴などをする建物なのかは判断つかない。『吾妻鏡』

建長三年十二月三日条は、鎌倉における商業取引の場所を「大町、小町、米町、亀谷辻、和賀江、大倉辻、気と飛坂山上」の七箇所にて特定する旨の触れであるが、「大倉辻」は現在の関取橋付近に推定されている(註10)。幕府が若宮大路へ移った後の大倉幕府周辺は、町屋と御家人の屋敷が混在していた様相だったのかもしれない(註11)。鎌倉幕府滅亡後は、残っている史料も断片的で周辺の様相は分からない。荏柄天神社は天正十八(1590)年四月と同十九年十一月に、それぞれ豊臣秀吉・徳川家康によって保護・寄進されているのが分かる(註12)

(松吉大樹)

### 【註】

(註1)『神奈川県史』資料編1古代「正倉院文書」58号

(註2)『鎌倉市史総説編』など。『新編相模国風土記稿』は荏柄天神は所在地名から称したとしている。

(註3)高柳光寿「二尺度郷・荏草郷」(『鎌倉市史総説編』、1976)

(註4)真壁俊信『天神信仰の基礎的研究』(日本古典籍註釈研究会、1984)など。

(註5)「殿中以下年中行事」(『群書類従』第22輯 武家部)

(註6)『吾妻鏡』建保元年二月廿五日条、同二月廿六日条。

(註7)『吾妻鏡』寛元二年七月廿日条。

(註8)『吾妻鏡』治承四年十二月十二日条。

(註9)幕府周辺における御家人等の居住状況については(秋山2006・山村2009)などに詳しい。

(註10)「(天文十七(1548)年十二月廿七日付)荏柄天神社造営関定書案」(荏柄天神社文書『神奈川県史資料編 古代・中世3(下)』6863号)は、小田原北条氏が荏柄天神社社殿造営のため社前に関を設け、その関銭が寄進されたことを伝える。関取橋はその由来か。

(註11)文永二(1265)年三月五日条でも「一所大町、一所小町、一所魚町、一所穀町、一所武蔵大路下、一所須地賀江橋、一所大倉辻」の七箇所に限る触れが出ている。

(註12)「(天文十八(1549)年四月日付)豊臣秀吉禁制」(浄光明寺文書『神奈川県史資料編 古代・中世3(下)』9717号)。

「(天文十九(1550)年十一月日付)徳川家康社領寄進状案」(荏柄天神社文書『鎌倉市史料編』第一398号)。

### 【引用・参考文献】

秋山哲雄『北条氏権力と都市鎌倉』(吉川弘文館、2006)

石井進・網野善彦編『中世の風景を読む－2 都市鎌倉と坂東の海に暮らす』(新人物往来社、1994)

石井進・大三輪龍彦編『よみがえる中世3 武士の都 鎌倉』(平凡社、1989)

石井進『中世史を考える－社会論・史料論・都市論』(校倉書房、1991)

奥富敬之『鎌倉北条氏の基礎的研究』(吉川弘文館、1980、第3版1988)

鎌倉考古学研究所『中世都市鎌倉を掘る』(日本エディタースクール出版部、1994)

『鎌倉市史総説編』(吉川弘文館、1976)

『鎌倉市史社寺編』(吉川弘文館、1976)

河野真知郎『中世都市鎌倉－遺跡が語る武士の都－』(講談社選書メチエ49、1995)

斉藤利男「「宿館」「宿所」と「本宅」」(『国立歴史民俗博物館研究報告』78、1999)

高橋慎一郎『中世の都市と武士』(吉川弘文館、1996)

高橋慎一郎「中世鎌倉における将軍御所の記憶と大門寺」(『年報都市史研究』11、2003)

原廣志「大倉幕府周辺遺跡群 二階堂荏柄58番4外地点(No.49)」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18』(第1分冊)鎌倉市教育委員会、2002

原廣志「大倉幕府周辺遺跡群 二階堂荏柄27番3の一部地点(No.49)」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22』(第1分冊)鎌倉市教育委員会、2006

細川重男『鎌倉政権得宗専制論』(吉川弘文館、2000)

貫達人・川副武胤著『鎌倉廃寺事典』(有隣堂、1980)

山村亜紀『中世都市の空間構造』(吉川弘文館、2009)

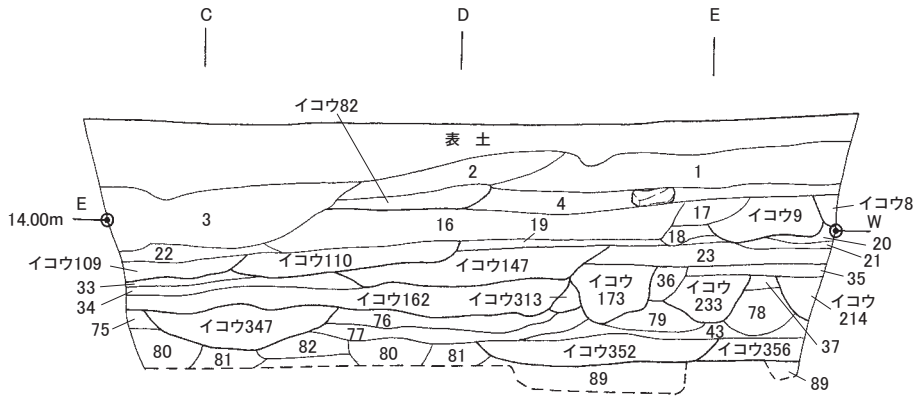


## 2. 調査の経過（図2）

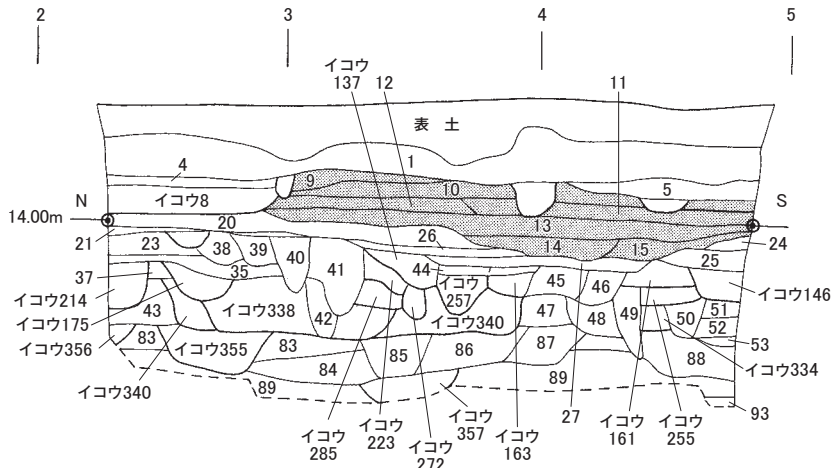
調査を開始するにあたっては調査区にほぼ平行した任意の方眼軸を設け、P2（D-2杭）と見返り点P3を設定。後日鎌倉市4級基準点U156とU162を用いて光波測量機によるトラバース測量を行い、P2（D-2杭）と見返り点P3に国土座標上の数値を移動した。しかし整理作業時に測量不備がみつき、測量の際のデータを基に計算し座標値を算出したために、数値に若干のずれが生じてしまっている。測量軸は2m方眼による軸線を用い、南北軸線には北から算用数字の1～6、東西軸線には西からアルファベットA～Gとした。南北軸線は真北に対して25°55′07″東にずれる。現地調査では日本測地系（座標AREA9）の国土座標数値を使用した。本報告作成にあたって国土地理院が公開する座標変換ソフト「web版TKY2JGD」で世界測地系第IX系に変換し、図2に表記した。

## 3. 堆積土層（図3）

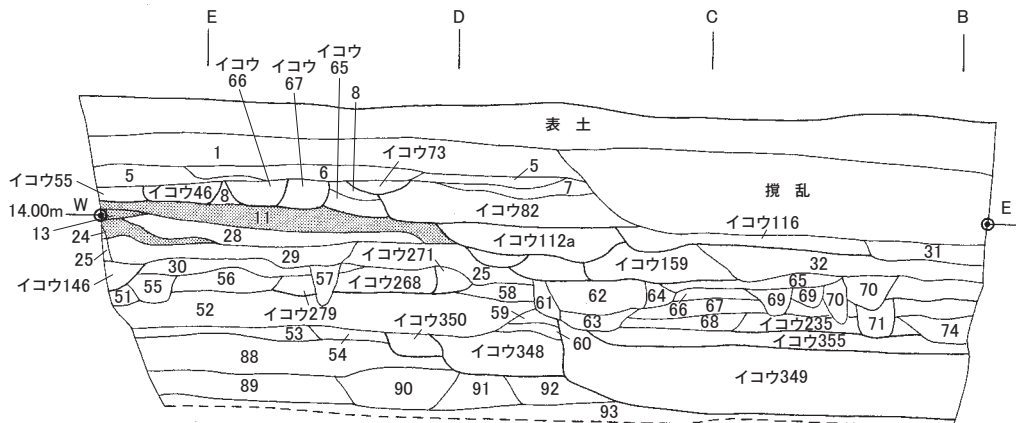
調査前現地表は海拔14,90mを測る。約30cmの厚さで堆積していた現代埋土を取り除くと、第1面として報告している中世の生活面までの間に、明茶褐色砂質土の近世遺物を含む堆積層が約40cmの厚さで堆積していたが遺構の検出には至らなかった。第1面は比較的しっかりとした暗茶褐色弱粘質土上で確認したが（海拔約14,20m）、上層の現代埋土に大きく削平を受けており、遺構の検出は調査区の東半分のみである。第1面確認面から10cm下方の明茶褐色砂質土上で第2面の遺構を検出したが、地業を確認することはできなかった（海拔約14,10m）。第3面は破碎泥岩を含む堅く締まった黒褐色粘質土上で確認し（海拔13,80m）、建物址の存在を示唆する礎板が遺存するピットなどを発見したが、生活面を造成する地業の確認はできなかった。第4面は褐鉄を多く含む茶褐色弱粘質土上で遺構を確認した（海拔13,50m）。遺構は多く発見したが、遺物の出土量は大幅に減少する。第5面は褐鉄を多く含む暗青褐色粘質土上で遺構を確認したが、調査区南東部一部に、泥岩・泥岩粒・砂礫を含む青灰色砂質土の地業層が遺存していた（海拔13,30m）。第6面は黒褐色粘質土上で遺構を確認した（海拔13,00m）。第6面の遺構確認した標高では湧水が激しく、調査区全域を掘り下げての調査が困難となったため、調査区東壁・南壁に沿ってL字状に掘り下げて遺構を確認した。本報告では、第1面から第6面までを、それぞれa・bの2期に分けて報告しているが、遺構は同じ場所で重複して検出され、短期間に生活面の造り替えを行った様子が分かる。



調査区北壁土層堆積図



調査区東壁土層堆積図



調査区南壁土層堆積図

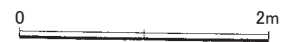
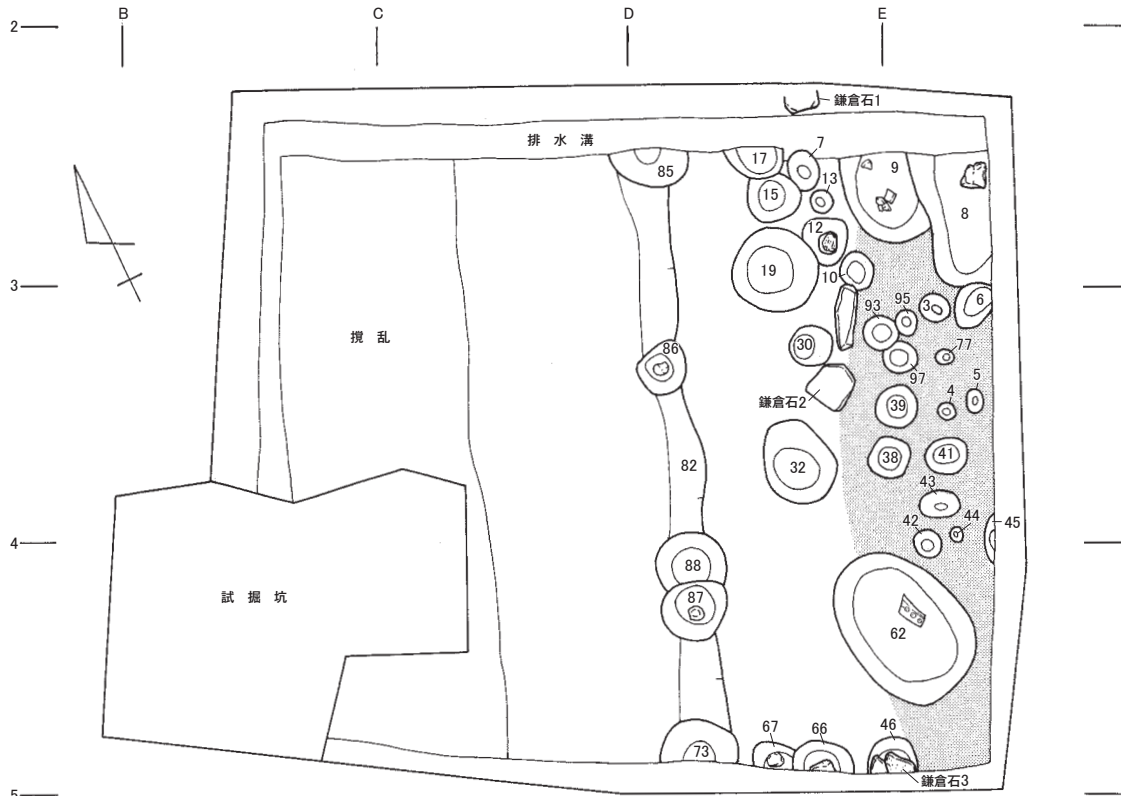


図3 堆積土層図

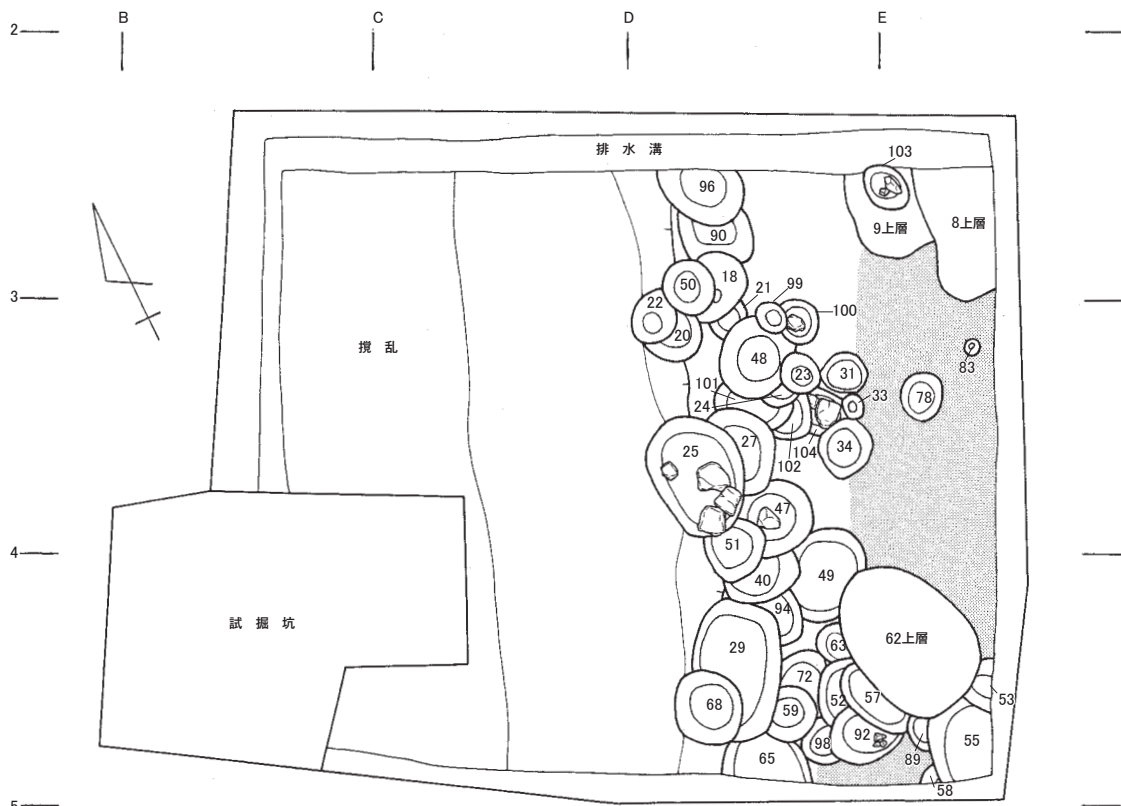
## 土層注記

1. 明茶褐色弱砂質土 (近現代)
2. 暗褐色弱粘質土 (近現代)
3. 灰褐色弱粘質土 (近現代)
4. 明灰褐色弱粘質土 鉄分多量、粒~拳大の泥岩少量、炭化物・砂粒・かわらけ粒・かわらけ片微量、締まりあり
5. 灰茶褐色粘質土 茶灰色粘土多量、炭化物・小石大泥岩・かわらけ粒微量
6. 明灰茶褐色弱粘質土 5と同質でやや粘性弱い、締まりあり
7. 暗褐色粘質土 粒~拳大の泥岩密、鉄分・炭化物・かわらけ片少量、明茶色粘土混じる、締まりあり
8. 灰褐色弱粘質土 茶灰色調強い、粒~小石大の泥岩微量、かわらけ片・炭化物・礫ごく微量、締まりあり
9. 明茶褐色砂質土 褐鉄化した砂岩質・泥岩・砂粒密、かわらけ粒・かわらけ片少量
10. 明茶褐色砂質土 9より砂粒土密につまる、かわらけ粒・炭化物少量、礫・拳~半人頭大の泥岩ごく微量
11. 明茶褐色砂質土 10と同質で拳~半人頭大の泥岩少量
12. 灰茶褐色砂質土 9と同質で灰褐色弱粘質土多量
13. 明茶褐色砂質土 10と同質で小石~人頭大の泥岩多量、礫少量
14. 灰茶褐色弱粘質土 灰褐色粘質土中に褐鉄砂密につまる、粒~人頭大の泥岩・かわらけ粒少量
15. 明茶褐色弱粘質土 14と同質でより褐鉄砂密につまる、粒~小石大の泥岩・かわらけ粒少量、礫・炭化物ごく微量
16. 明灰褐色弱粘質土 拳大泥岩・炭化物・鉄分・泥岩粒・礫極微量 やや締まりあり
17. 明灰褐色弱粘質土 鉄分多量、泥岩粒・礫極微量 やや締まりあり
18. 明灰褐色弱粘質土 17と同質でより鉄分・炭化物・泥岩粒・かわらけ片多い
19. 明灰褐色弱粘質土 18と同質で鉄分・小石大の泥岩・炭化物・かわらけ片ごく微量
20. 黄茶褐色砂質土 砂利状・泥岩粒・砂岩密、明灰褐色弱粘質土多量、拳~半人頭大の泥砂岩・炭化物・かわらけ粒・遺物片・礫ごく微量
21. 明灰色弱粘質土 鉄分・泥砂岩粒多量、炭化物・かわらけ粒少量、黒褐色粘土粒・遺物片・礫ごく微量
22. 明茶褐色砂質土 20と同質で褐鉄化の激しい砂利密、小石大の泥岩少量、かわらけ片・炭化物微量
23. 黒褐色粘質土 炭化物・泥岩粒・かわらけ粒少量混入、灰色砂粒ごく微量、粘性強く締まり良い
24. 黒褐色粘質土 23と同質で炭化物・かわらけ粒・灰茶色粘土微量、やや締まりあり
25. 黒褐色粘質土 23と同質で底部褐鉄化して固く締まる
26. 灰茶褐色砂質土 砂岩質・砂粒密、灰色砂粒・泥岩粒多量、小石大の泥岩・炭化物少量、褐鉄化激しい
27. 明青灰色弱砂質土 粒~拳大の泥岩・かわらけ粒・炭化物・礫少量
28. 明灰褐色粘質土 粒~拳大の泥岩やや多量、かわらけ片微量、粘性強く締まり弱い
29. 黄茶褐色砂質土 褐鉄砂利・粒~人頭大の破碎泥岩密、明灰色粘土・炭化物・かわらけ粒・礫少量
30. 黒褐色粘質土 灰褐色粘土・灰色砂・泥岩粒・炭化物少量、鉄分微量、締まり弱い
31. 明灰褐色粘質土 粒~小石大の泥岩粒少量、炭化物・鉄分・かわらけ粒・礫微量、締まり良い
32. 灰褐色粘質土 拳大の泥岩・炭化物・鉄分・かわらけ粒微量、固く締まる
33. 明灰褐色粘質土 泥岩粒・炭化物・かわらけ粒・木片ごく微量 きめ細やかな砂質土若干混じる、粘性強くやや締まる
34. 暗青灰色弱砂質土 褐鉄砂・泥岩粒・炭化物微量、きめ細やかな砂質土と粘質土(16と32)混入
35. 黒褐色粘質土 23と同質でより含有量多、褐鉄・茶灰色粘土少量混入、小石大泥岩・かわらけ片ごく微量、やや締まりあり
36. 黒褐色粘質土 焼土・炭化物・褐鉄・粒状泥岩少量、やや締まりあり
37. 黒褐色粘質土 23・35と同質で鉄分・炭化物・やや締まりあり
38. 暗茶灰黒粘質土 褐鉄砂、炭化物微量、粘性強くやや締まる
39. 黒褐色粘質土 鉄分、泥岩少量、やや締まりあり
40. 黒褐色粘質土 暗茶灰色粘土混じる、鉄分(腐食)・炭化物少、やや締まりあり
41. 黒褐色粘質土 鉄分、粒~小石大の泥岩微量、やや締まりあり
42. 黒褐色粘質土 小石大の泥岩・遺物片微量、褐鉄化激しく締まり強い
43. 暗茶灰色粘質土 粘性強く締まりやや弱い、炭化物多量で一部褐鉄化する、泥岩微量
44. 黒褐色粘質土 23・35と同質 腐食鉄分やや多、締まり弱い
45. 黒灰褐色粘質土 腐食鉄分・炭化物
46. 黒茶褐色弱粘質土 鉄分(一部腐食化)・暗茶色粘土混入
47. 黒灰色粘質土 褐鉄化激しく固く締まる
48. 灰茶褐色弱粘質土 褐鉄化激しく固く締まる、泥岩粒多、炭化物微量
49. 黒灰色粘質土 暗茶色粘土混じる、炭化物多、鉄分
50. 黒灰色粘質土 鉄分・炭化物・やや締まりあり
51. 暗茶灰色弱砂質土 黒色粘土と52が混じる、炭化物多、固く締まる
52. 茶褐色砂質土 粒~拳大の褐鉄激しい泥岩と砂利が密に

- つまる
53. 明茶色砂質土 きめ細やかな褐鉄砂つまる、52の砂利混入
  54. 暗灰褐色砂質土 きめ細やかな褐鉄砂がつまり固く締まる、黒色粘土・泥岩粒微量
  55. 黒灰褐色粘質土 灰色砂・泥岩粒・炭化物、締まりあり
  56. 黒灰褐色粘質土 炭化物・灰色砂・黒褐色粘土・鉄分、締まりあり
  57. 黒褐色粘質土 炭化物・鉄分・黒褐色粘土・灰色砂、締まりあり
  58. 黄灰褐色粘質土 鉄分・泥岩粒やや多、炭化物少、締まりあり
  59. 青灰色弱砂質土 きめ細やかな砂・小石・砂利・泥岩粒多、炭化物微量
  60. 青灰色弱砂質土 小石大の泥岩多、炭化物・灰色粘土少量
  61. 茶灰褐色弱粘質土 鉄分多く固く締まる、粒~小石大の泥岩やや多、炭化物少量
  62. 黒茶灰色粘質土 褐鉄・腐食鉄分・締まりあり
  63. 暗灰褐色粘質土 含有物59と同質で鉄分微量
  64. 黒茶褐色粘質土 含有物66と同質 締まりあり
  65. 黒灰色粘質土 鉄分・炭化物多
  66. 黄茶褐色粘質土 褐鉄化激しく固く締まる、泥岩粒
  67. 黄茶褐色弱砂質土 褐鉄化激しく固く締まる、黒色粘土・腐食鉄分少量
  68. 暗茶褐色弱砂質土 やや粘性あり、きめ細やかな暗灰色砂多
  69. 黒茶褐色粘質土 褐鉄化進み固く締まる・炭多
  70. 黒褐色粘質土 泥岩粒・かわらけ粒ごく微量、締まりあり
  71. 黒茶褐色粘質土 炭・暗茶灰色粘土ごく微量、締まりあり
  72. 黒茶褐色粘質土 褐鉄化進み固く締まる、腐食鉄分
  73. 青灰褐色弱砂質土 褐鉄化進み固く締まる
  74. 黒灰色粘質土 粘土内に炭多量に混じる、鉄分・遺物片・泥岩粒、締まりやや弱い
  75. 黒灰色粘質土 炭化物ごく微量
  76. 青黄灰色砂質土 きめ細やかな青灰色・黄灰色砂密、黒灰色粘土少、粒~小石大の泥岩・炭化物微量
  77. 青灰色弱粘質土 茶褐色粘土少、泥岩粒・きめ細やかな砂微量
  78. 黒茶褐色粘質土 黒褐色粘土と茶灰色粘土の混合土、炭化物・褐鉄少、泥岩粒ごく微量、締まりあり
  79. 黒茶褐色粘質土 78と同質で褐鉄化激しい、茶褐色粘土・かわらけ片ごく微量、締まりあり
  80. 明青茶灰色粘質土 粘性強くやや締まり弱・泥岩粒ごく微量
  81. 暗茶灰色粘質土 炭化物
  82. 暗青灰色粘質土 粘性強く締まりあり、泥岩粒・茶灰色粘土ごく微量
  83. 黒灰色粘質土 粘性強くやや締まり弱い、暗茶灰色粘土ごく微量
  84. 黒茶灰色粘質土 褐鉄化やや進み固く締まる、泥岩粒・炭
  85. 黒灰色粘質土 泥岩粒・炭・鉄分少量、締まりあり
  86. 茶灰褐色粘質土 褐鉄化激しく固く締まる
  87. 黒茶灰色粘質土 鉄分・砂質土少、腐食鉄分微量
  88. 茶灰褐色粘質土 86と同質で含有量微量
  89. 黒灰色粘質土 褐鉄化激しく固く締まる、腐食鉄分・黒色粘土微量、暗茶灰色粘土ごく微量
  90. 暗青灰色弱砂質土 固く締まる、鉄分
  91. 暗青灰色粘質土 褐鉄化進み固く締まる、90の砂質土混じる
  92. 黒灰色弱粘質土 やや締まる、鉄分
  93. 明青灰色弱砂質土 青灰色と灰色粘土の混合土、海砂質・砂利質密、黒灰色粘土塊・泥粒微量、地山か?



<第1a面>



<第1b面>



図4 第1面全測図

## 第二章 発見された遺構と遺物

調査開始にあたって、表土から約50cm下までは重機による表土掘削を行った。本報告で中世第1面とした生活面上層中に近世遺物の混入を確認したが、遺構の発見・確認はできなかったために、地表面から約70cm下まで人力によって掘り下げて調査を開始した。各面の遺構は複雑に切りあって発見されたため(図3)、同一地業層上で確認した遺構を、切りあいの新旧・覆土観察等からa・bの2時期に分けて報告している。遺構に付した番号は、遺構確認時点で付した番号であり、遺構の新旧を表すものではない。本文内では、各面の特徴的な遺構、および実測遺物出土のあった遺構のみを説明している。また、各期で発見した遺物は出土遺物観察表にまとめ、本文に詳細は記載していない。破片出土遺物も同様に出土数を表にまとめた。

以下、発見した遺構は上層から下層の順に第1面から第6面と分けて報告した。調査開始前現地表の海拔は約14, 90 mである。

### 1. 第1面の遺構と遺物 (図4～図14)

#### ・第1a面(図4)

第1a面で発見した遺構は溝1条・土坑4基・ピット31穴である。調査区西側が近現代の掘り込みによって削平を受けていたため、調査区東側半分に偏って遺構が発見された。調査区東側で確認した破碎泥岩による丁寧な地業は、拳大の破碎泥岩・泥岩粒を使用し固く締まる。遺構の切りあい新旧・覆土の観察から、少なくとも2時期は生活面の造り替えが行われたと考えている。第1面の遺構確認レベルは海拔約14, 20 mである。第1面構成土は炭化物・泥岩粒・泥岩を含む堅く締まった暗褐色弱粘質土。

#### 石列遺構(図4・図5)

調査区東で発見した、南北に並ぶ不整形な鎌倉石(砂質凝灰岩)切石である。鎌倉石1・鎌倉石2はピットを伴わない地業層上で、鎌倉石3はピット底面での発見である。また、鎌倉石1と鎌倉石2の間は225cm。鎌倉石2と鎌倉石3の間は300cmと、それぞれの関係を強く結びつける要素は弱いのだが、後述する溝(遺構82)にほぼ平行に並んでいることや、意図的に石の上面を平らに加工してあったことから図示した。石列の東側で確認した破碎泥岩による地業の一環であったとも考えられるが、石列から西側は地業が切れていたことから、区画を分ける施設の一部であった可能性も考えている。

#### 遺構6(図4・図6・図9)

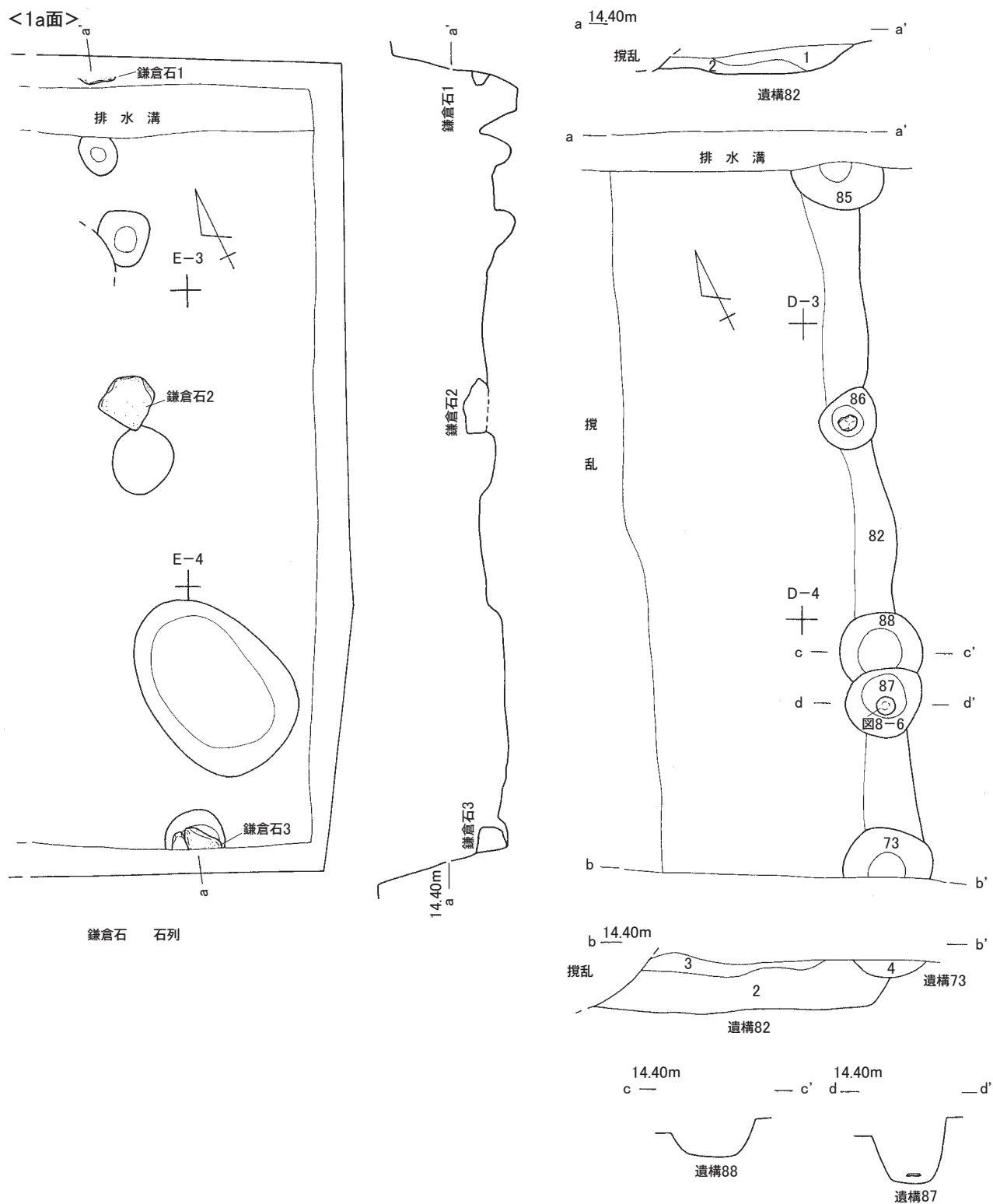
幅39cm×29cm。深さ15cm。ピットである。遺構8を切っている。覆土は暗褐色砂質土・炭化物・泥岩粒を含む。覆土の観察から、第1面上層の遺構の可能性もある。出土遺物は瀬戸小壺。

#### 遺構8(図4・図6・図9)

調査区北東端で発見した。調査区外に遺構が延びてしまっている為に規模・形状は不明。土坑である。覆土内に大小の泥岩塊・泥岩粒が混入する。地業の一環であった可能性もある。深さ約28cm。出土遺物は須恵器坏口縁部片。

#### 遺構9(図4・図6・図9)

調査区外に遺構が延びており規模・形状は不明。遺構8に切られる。土坑である。遺構8同様に覆土内に大小の泥岩塊・泥岩粒が含まれる。破碎泥岩による地業を掘りこんでいるようにもみえるが、遺構



遺構82土層注記

1. 暗灰褐色粘質土：小石大の泥岩・鉄分大量・炭化物・遺物片少量含む、締まりあり
2. 灰褐色弱粘質土：小石大の泥岩少量、遺物片微量含む
3. 暗褐色粘質土：粒～拳大の泥岩密、鉄分・炭化物・かわらけ片・明茶色粘土少量含む、締まりあり
4. 灰褐色弱粘質土：スコリア～粒大の泥岩微量、かわらけ粒・炭化物・礫ごく微量、締まりあり（遺構73）

図5 第1面各遺構(1)





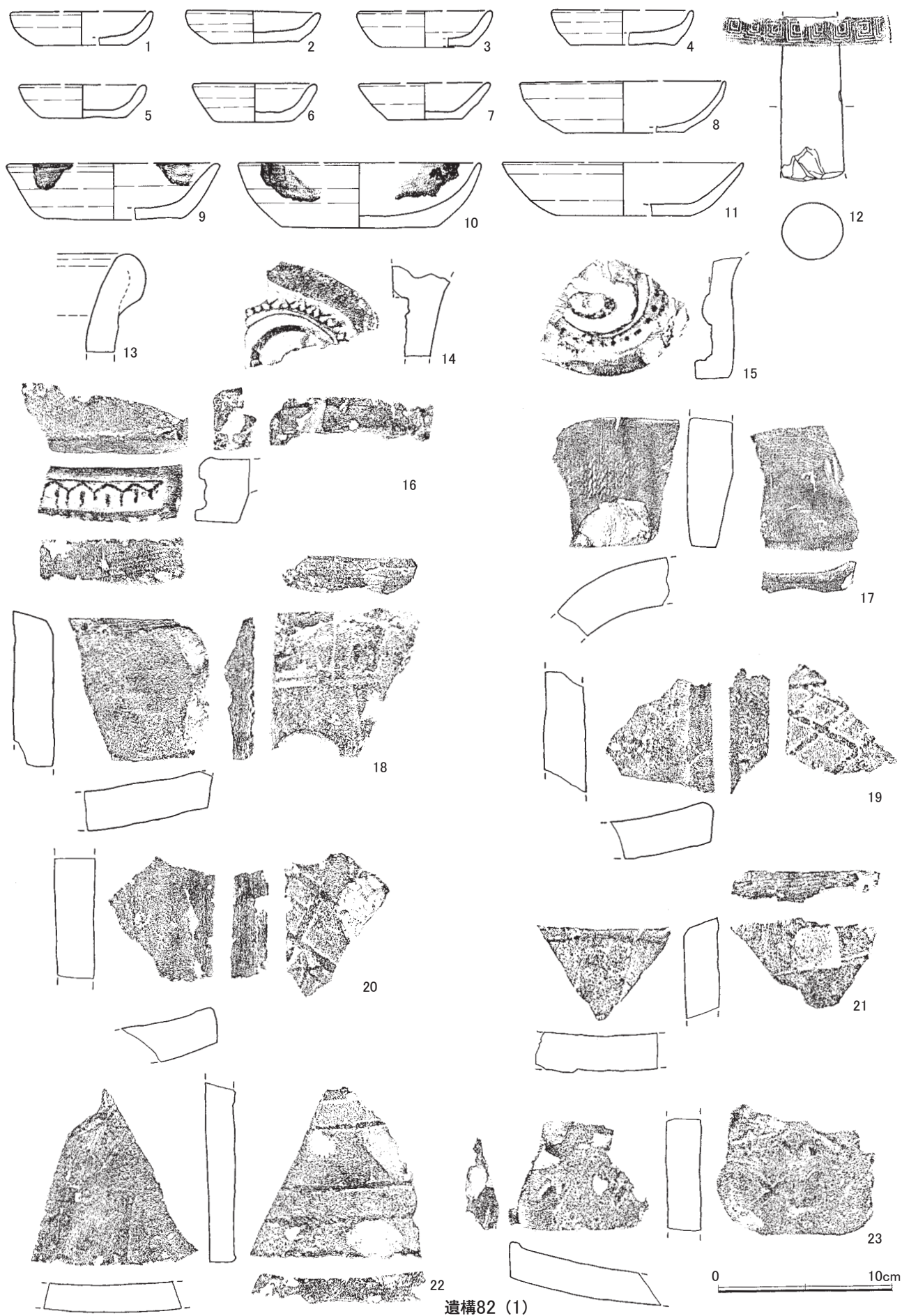


図7 第1面各遺構出土遺物(1)

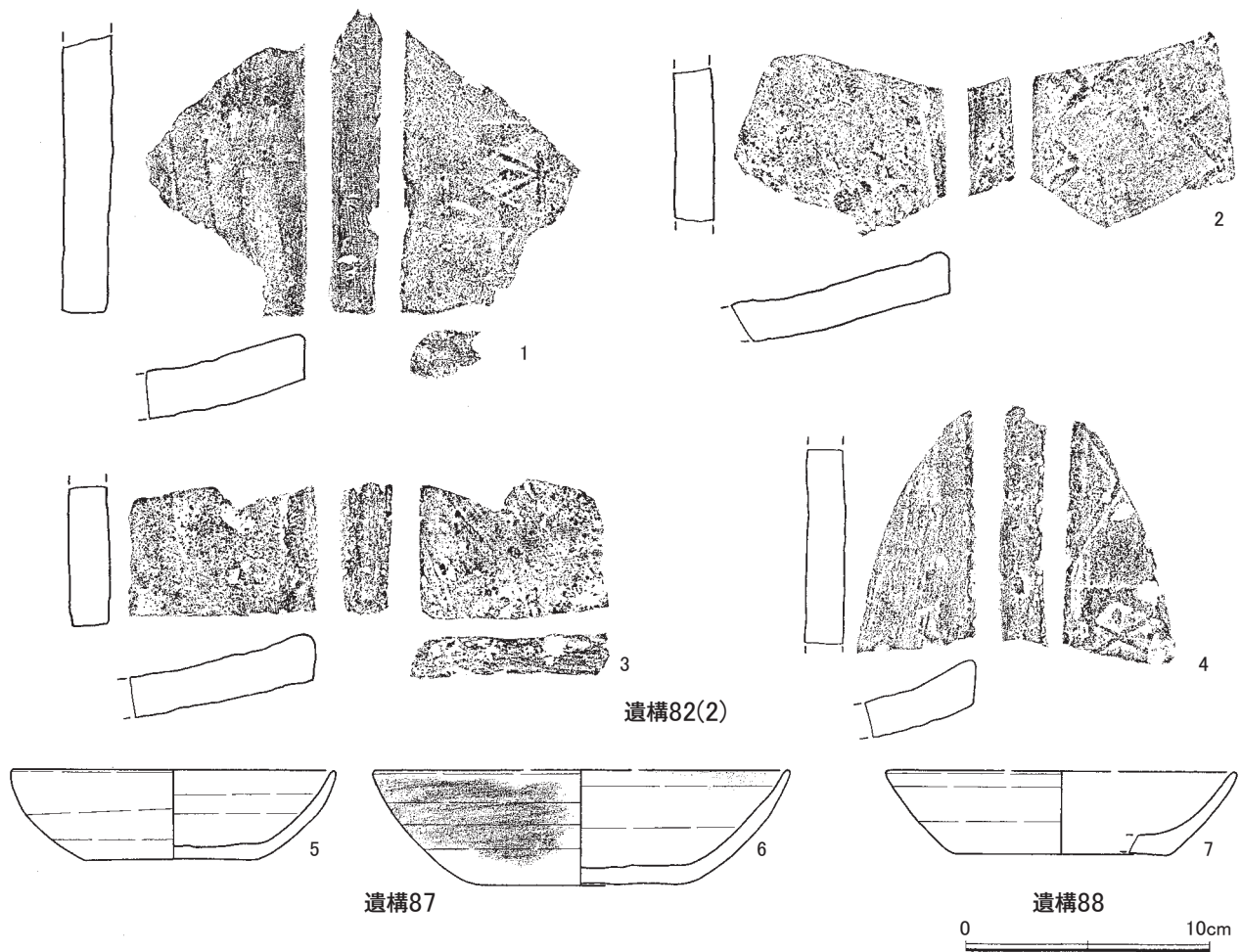


図8 第1面各遺構出土遺物(2)

8と共に地業の一環であった可能性もある。深さ約45cm。報告した遺物の内1点は、復元口径で15, 02cm・底径8, 4cm・器高4, 4cmと大型のかわらけ(図9-4)である。

遺構10(図4・図6・図9)

楕円形のピットである。覆土は暗灰色砂質土。褐鉄・炭化物を含む。幅30cm×20cm・深さ15cm。出土遺物は砥石・中砥。

遺構62(図4・図6・図9)

楕円形を呈する土坑である。幅125cm×90cm。深さ26cm。暗褐色弱粘質土・玉石・泥岩・炭化物を含む。遺構62は第1a面地業層上層の遺構である。出土遺物はかわらけ・瀬戸卸皿・瓦。報告した鬼瓦破片(図9-9)は遺構底面から出土した。その他に破片で女瓦1点出土している。

遺構82(図4・図5・図7・図8)

南北に延びる溝状遺構。調査区外に遺構が延びていたこと、遺構西壁が近現代の攪乱によって壊されていたために、形状・規模は不明となった。確認した長さは490cm。深さ16cm。溝覆土からは報告した瓦のほか、破片ではあるがかわらけ・手づくね・常滑甕・常滑片口鉢・土師器坏等多くの遺物が出土している。覆土は暗灰褐色弱粘質土。小石粒・炭化物・褐鉄を含む堅く締まった土。後述する遺構87・88を含む、遺構73・85・86・87・88は、遺構82東壁に沿って発見されており、柵等の施設があった可能性もある。

遺構87(図4・図5・図8)

溝状遺構(遺構82)を切って検出。ピットである。覆土は灰茶褐色弱粘質土・炭化物・泥岩粒を含む。

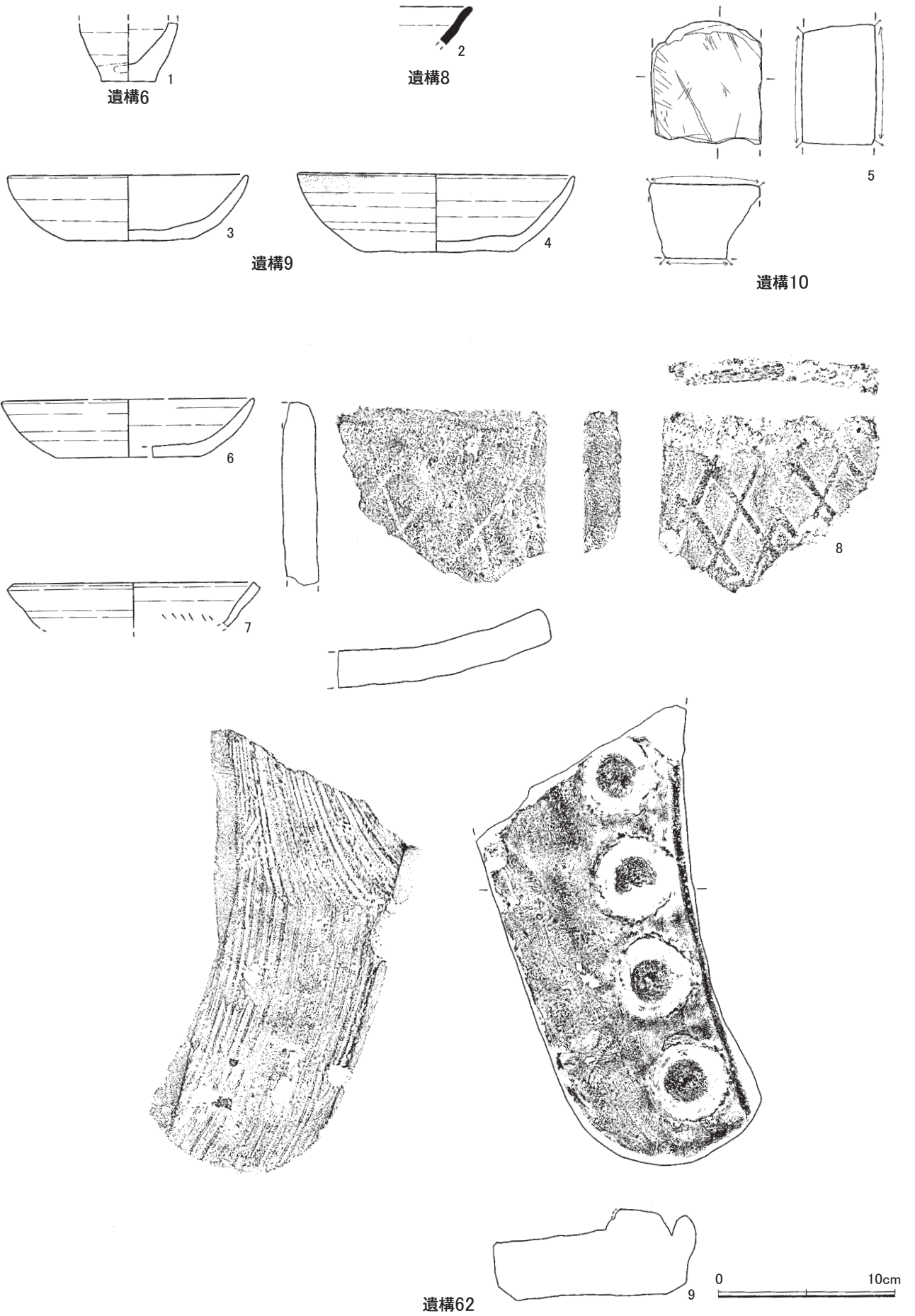


図9 第1面各遺構出土遺物(3)

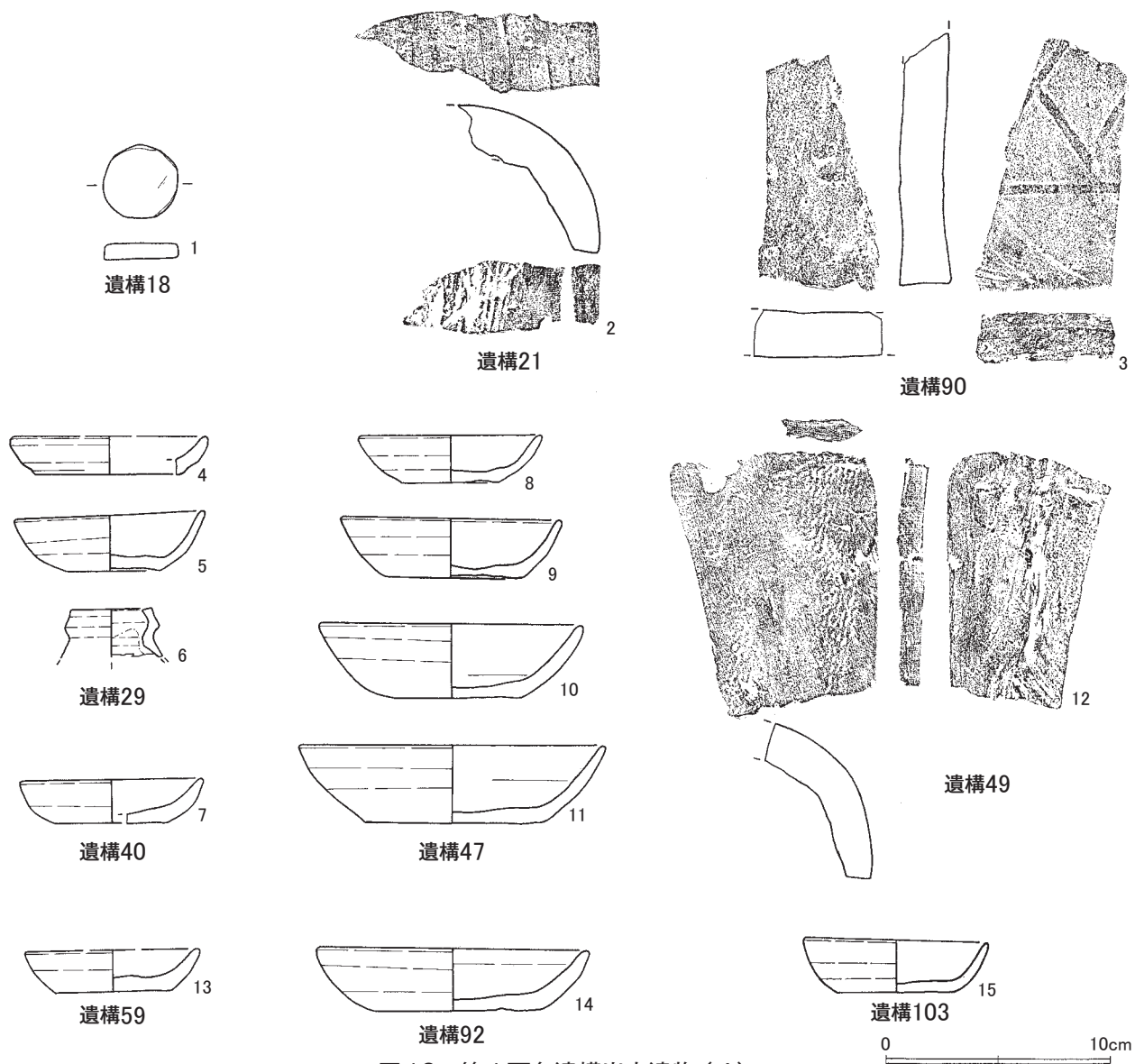


図10 第1面各遺構出土遺物(4)

幅56cm×45cm。深さ25, 5cm。報告した遺物の内1点は、復元口径で16, 5cm・底径7cm・器高4, 8cmと大型のかわらけ(図8-6)である。その他に破片で女瓦が出土している。

遺構88(図4・図5・図8)

遺構87に切られる。ピットである。覆土は灰茶褐色弱粘質土・炭化物・泥岩粒を含む。遺構87覆土に近似。幅54cm×(40)cm。深さ22, 5cm。出土遺物はかわらけ。

・第1b面(図4)

第1b面で発見した遺構は土坑5基・ピット37穴である。第1a面でも示した破碎泥岩による地業層と溝状遺構82の間に4時期の遺構を検出し、短期間に造り替えを行った様子を確認している。ピット底面に泥岩が遺存する遺構を数穴発見し、それぞれ礎石あるいは柱の根固めとして泥岩を使用した可能性を考えたが、調査区内で建物を推定することはできなかった。

遺構18(図4・図6・図10)

楕円形のピットである。覆土は暗褐色弱粘質土・炭化物・泥岩粒・褐鉄を含む。破片で男瓦が出土し

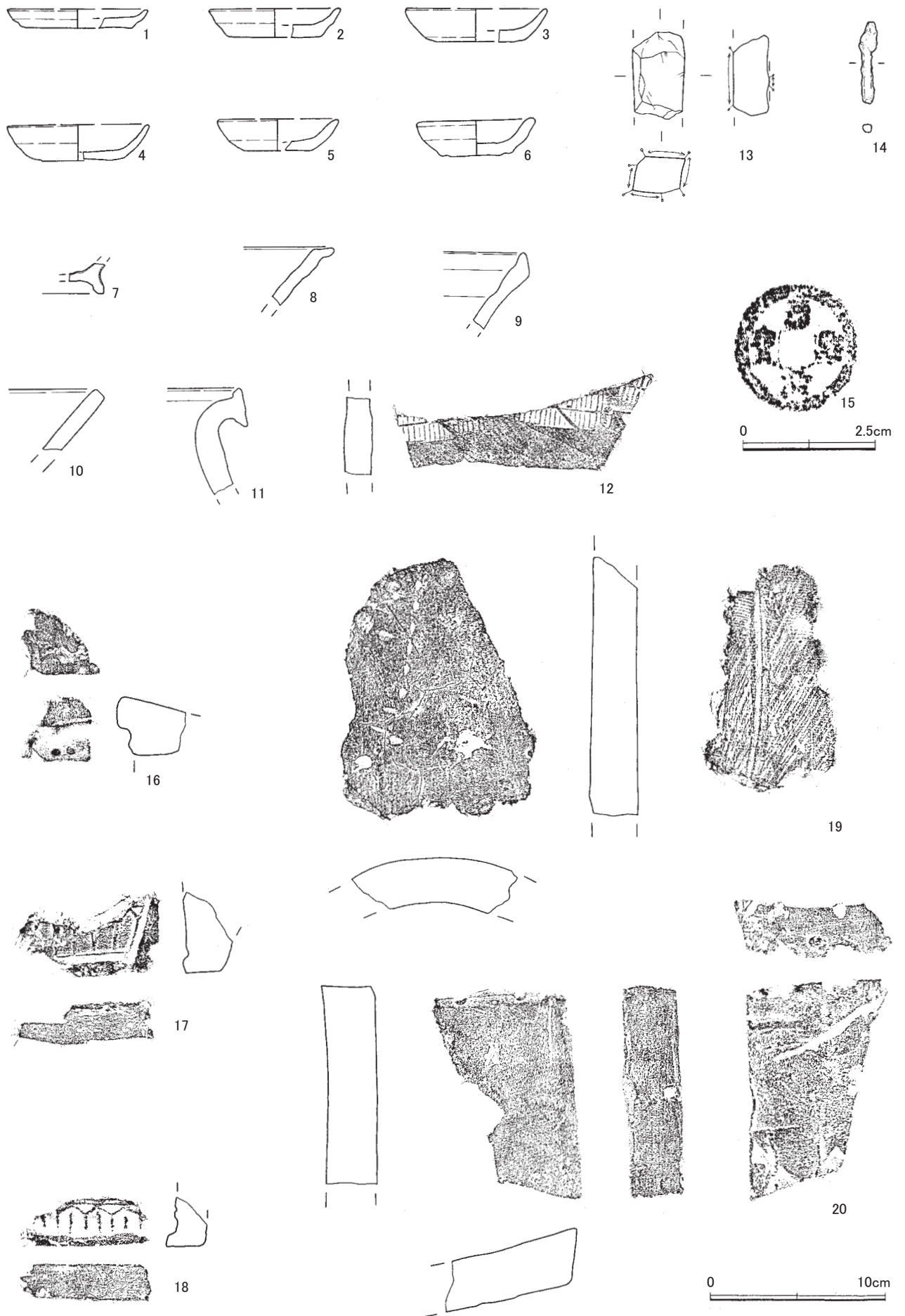


图 11 第 1 面面上出土遺物 (1)

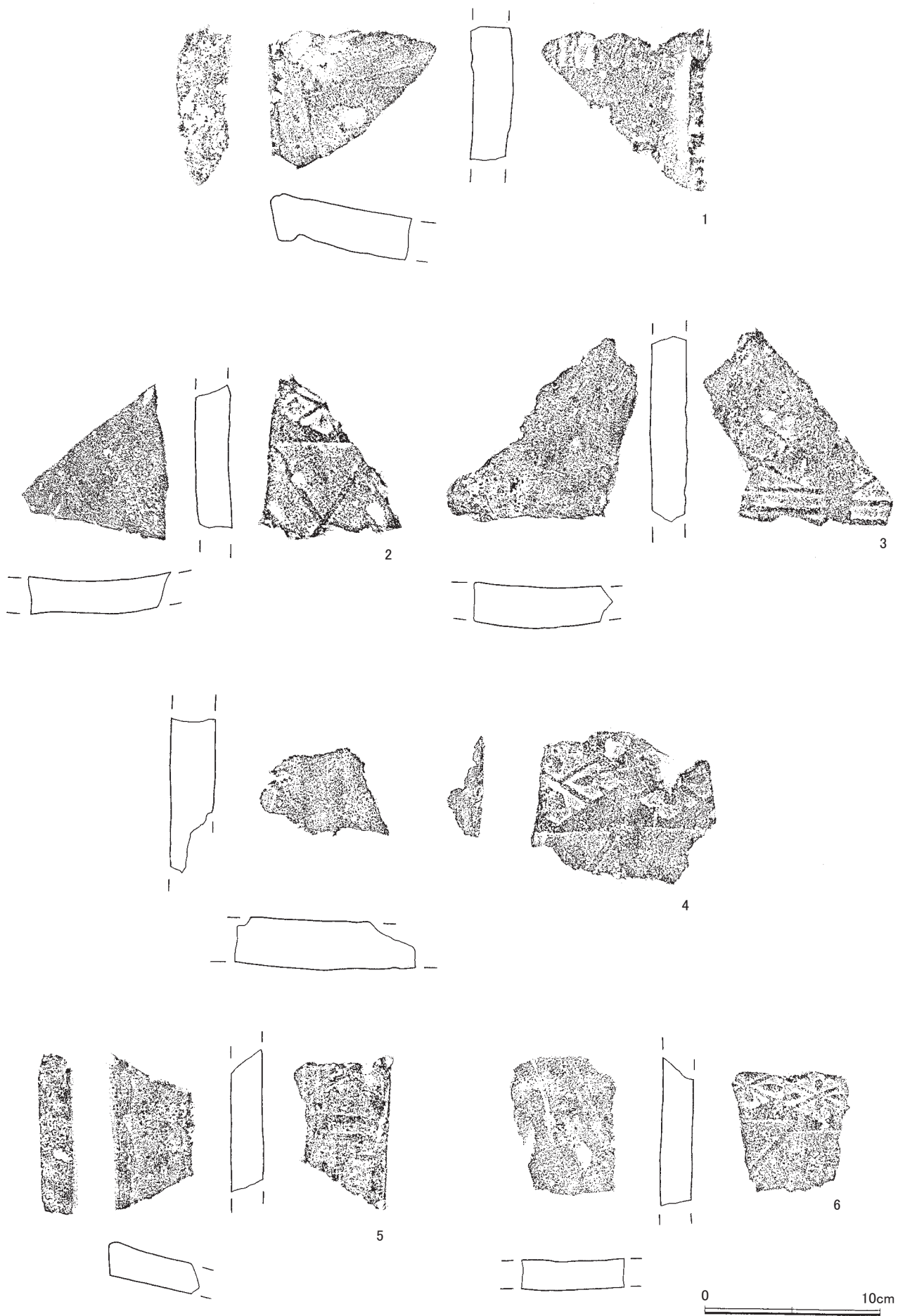


图12 第1面面上出土遺物(2)

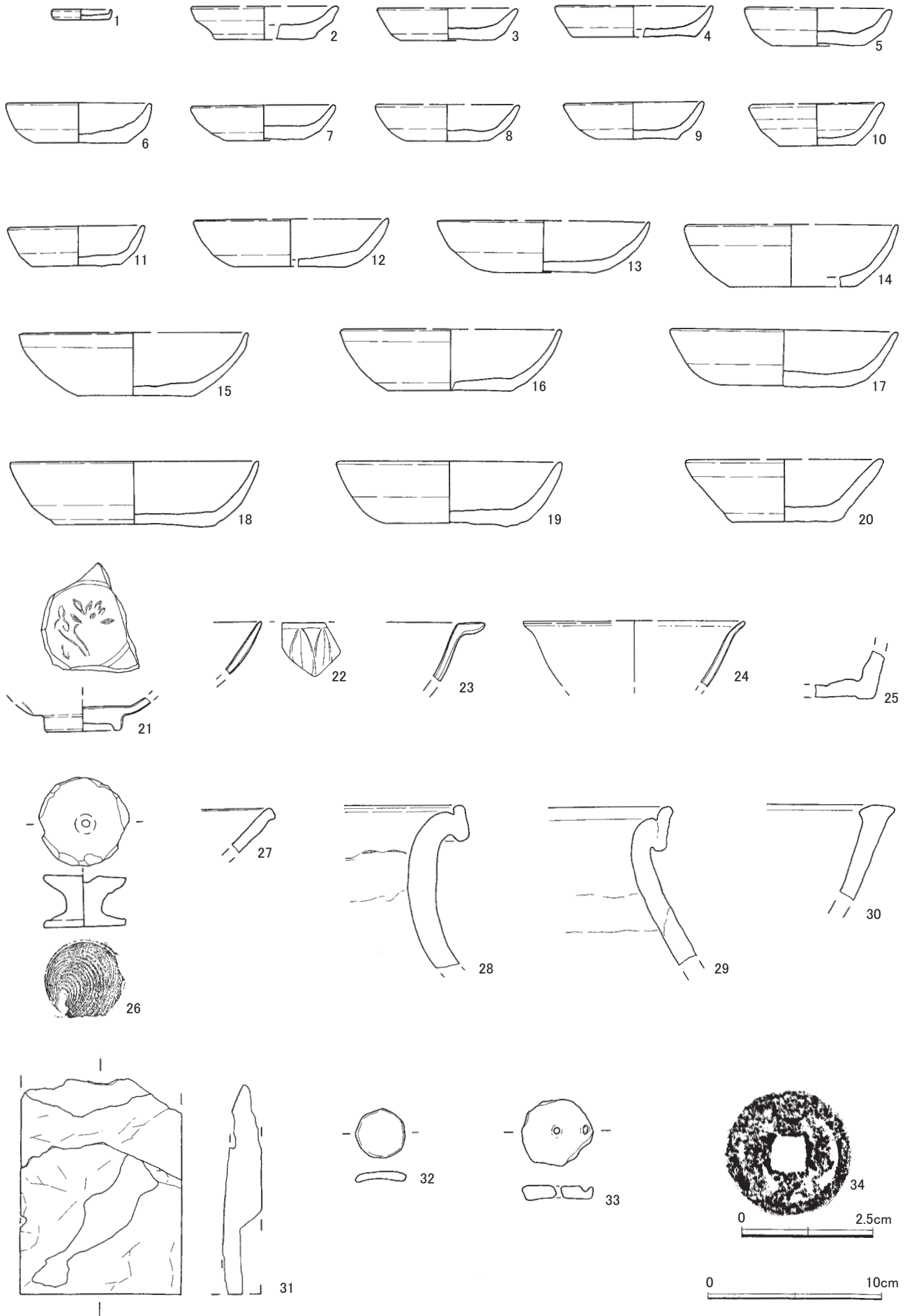


图13 第1面構成土出土遺物(1)

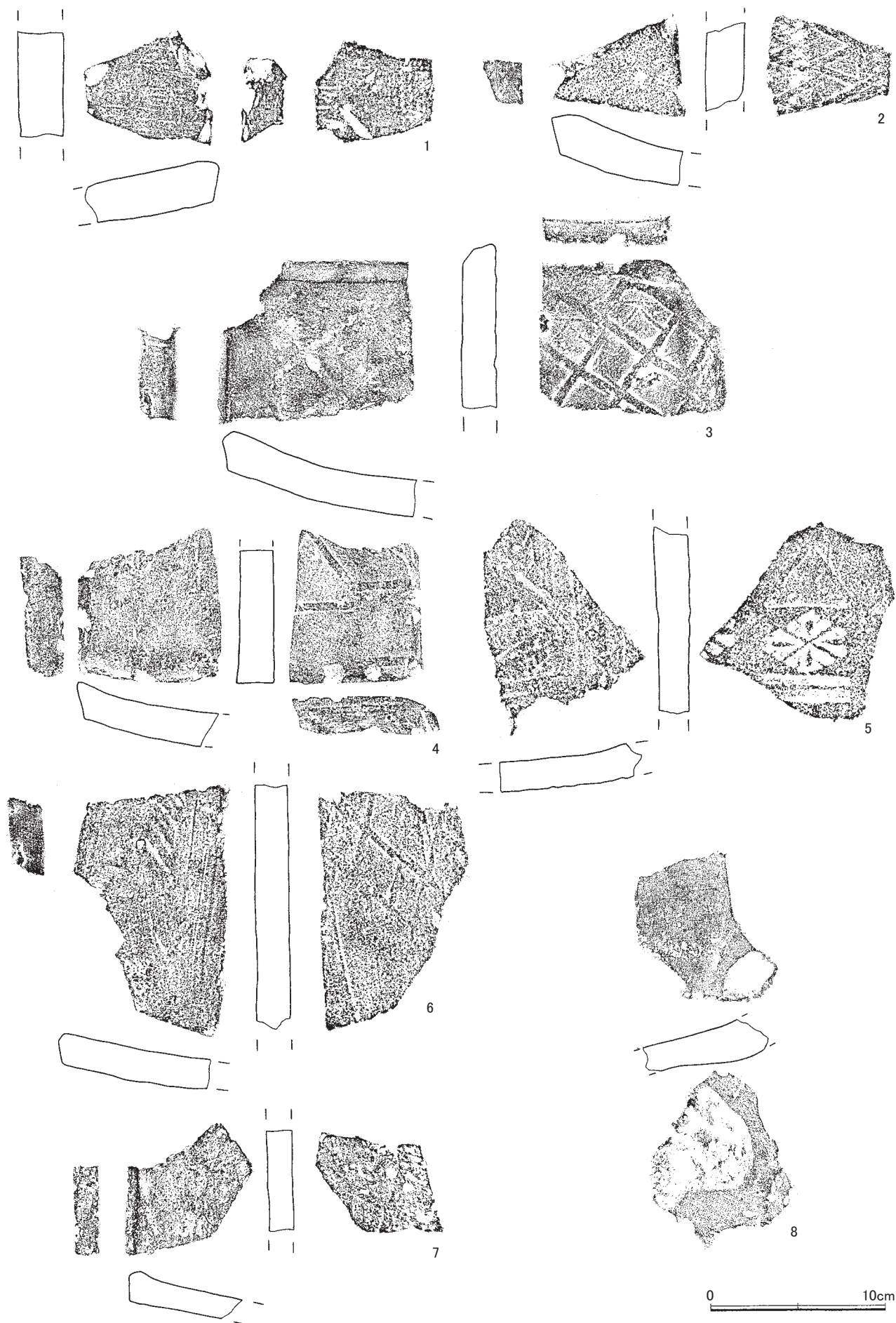


图14 第1面構成土出土遺物(2)



ている。幅55cm×46cm。深さ30cm。出土遺物はかわらけ転用品。

#### 遺構21 (図4・図6・図10)

遺構18に切られる。円形のピットである。覆土は暗褐色砂質土・炭化物・泥岩粒を含む。幅36cm。深さ15cm。出土遺物はない。

#### 遺構29 (図4・図6・図10)

楕円形の土坑である。覆土は茶褐色弱粘質土・泥岩粒を含む。幅110cm×70cm。深さ24cm。出土遺物はかわらけ・青白磁梅瓶。破片で女瓦が出土している。

#### 遺構40 (図4・図6・図10)

楕円形のピットである。覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物・褐鉄を含む。切りあった遺構47・51に壊され規模・形状は不明。幅60cm。深さ25cm。出土遺物はない。

#### 遺構47 (図4・図6・図10)

円形のピットである。覆土は暗灰色砂質土。泥岩粒・砂礫粒含む。遺構底面に不整形な砂質凝灰岩があった。柱の根固めとして使用か。幅65cm×52cm。深さ12cm。出土遺物はかわらけ。

#### 遺構49 (図4・図6・図10)

楕円形の土坑である。覆土は暗灰色砂質土・炭化物・泥岩粒を含む。幅78cm×68cm。深さ20cm。出土遺物は男瓦。その他に破片でかわらけ・常滑甕が出土している。

#### 遺構59 (図4・図6・図10)

円形のピットである。遺構29に切られ規模不明。径約46cm。深さ24cm。覆土は暗褐色弱粘質土・炭化物・泥岩粒を含む。出土遺物はかわらけ。

#### 遺構90 (図4・図6・図10)

楕円形のピットである。遺構18・96に切られ規模・形状不明。幅55cm。深さ29cm。覆土は暗灰色弱粘質土・炭化物・泥岩粒・褐鉄を含む。出土遺物は女瓦。その他に破片でかわらけ・手づくねが出土している。

#### 遺構92 (図4・図6・図10)

楕円形のピットである。遺構57に切られ規模不明。覆土は暗褐色弱粘質土・炭化物・泥岩粒・褐鉄を含む。幅50cm。深さ22cm。出土遺物のかわらけ(図10-14)は遺構底部で発見した。

#### 遺構103 (図4・図6・図10)

楕円形を呈するピットである。幅49cm×29cm。深さ32cm。ピット底面に不整形な砂質凝灰岩とかわらけが正位置で遺存していた。覆土は暗褐色弱粘質土。出土遺物はかわらけ。

### ・第1面面上出土遺物 (図11・図12)

第1面の面上で出土した遺物は、かわらけ・青白磁梅瓶・瀬戸折縁深皿・魚住捏ね鉢・常滑片口鉢Ⅱ類・常滑甕・石製品砥石・鉄製品釘・銅銭・瓦である。出土した瓦は実測遺物、破片ともに永福寺Ⅰ期～Ⅲ期に比定され年代に幅がある。細片の為実測はできなかったが、かわらけが目立って出土していた。その他に破片で手づくね・瀬戸壺・常滑甕・常滑片口鉢Ⅱ類・男瓦・女瓦・鍍瓦・火鉢・土師器甕が出土している。

### ・第1面構成土出土遺物 (図13・図14)

第1面構成土で出土した遺物はかわらけ・青磁鎬蓮弁文碗・青磁蓮弁文折縁鉢・白磁口兀碗・青白磁梅瓶・瀬戸仏供具・常滑片口鉢Ⅰ類・常滑甕・土器質火鉢・石製品硯・かわらけ転用品・瓦である。第

1面の構成土は後述する第2面の基壇状遺構覆土と重なる部分もあるが、灰褐色弱粘質土・炭化物・泥岩粒・褐鉄を含む堅く締まった土である。出土した遺物から概ね14世紀代の年代が比定されるが、外反する厚い側壁を持つかわらけ(図13-20)が1点ではあるが出土しており、15世紀前半代まで年代が下る可能性もある。第1面では遺構覆土内および構成土内からも瓦の出土が目立っているが、第1面面上で出土した瓦同様に年代に幅がある。その他に破片でかわらけ・手づくね・瀬戸壺・常滑甕・常滑片口鉢Ⅱ類・瓦・土師器甕が出土した。

## 2. 第2面の遺構と遺物(図15～図21)

### ・第2a面(図15)

第2面で発見した遺構も、第1面同様にa・bの2時期に分けて報告している。

第2a面で発見した遺構は基壇状遺構・溝状遺構1条・土坑8基・ピット6穴である。繁雑にピットが切りあった第1面とは大きく様相が異なり、やや大型の土坑が中心となる。調査区の東端では逆L字状に基壇状遺構が発見され、方形状の土坑を数基確認した。方形土坑はいずれも浅い形状であったが、上層の遺構に壊されてしまっている可能性がある。2時期の生活面の造り替えを確認した。第2面の遺構確認レベルは海拔約14,10mである。第2面構成土は明茶褐色砂質土・炭化物・泥岩粒・褐色砂を含む。

### 遺構105(図15)

調査区西側で発見した溝状遺構である。遺構の大半は調査区外に延びており形状・規模は不明であるが、遺構東壁に側板が遺存していたこと、遺構覆土に青灰色砂と礫砂を多く含み、泥岩粒が摩耗していたことなどから、遺構遺存部分が溝の東側壁であったと考えている。出土遺物はない。

### 遺構107(図15・図16・図17)

円形のピットである。幅63cm×54cm。深さ14cm。覆土は茶褐色弱粘質土・泥岩・炭化物を含む。遺構底面近くに礎板状の木片が出土したが、遺存状態が悪く採集することはできなかった。出土遺物はかわらけ・常滑片口鉢Ⅰ類。その他に破片でかわらけ・手づくねが出土している。

### 遺構109(図15・図16・図17)

方形状の土坑である。調査区外に遺構が延びてしまっているため規模は不明。遺構114を切る。覆土は茶褐色砂質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。深さ14cm。出土遺物はかわらけ。その他に破片でかわらけ・手づくね・常滑甕が出土している。

### 遺構110(図15・図16・図17)

方形状の土坑である。覆土は灰茶褐色粘質土・泥岩粒炭化物・砂質凝灰岩細片を含む。調査区外に遺構が延びてしまっているため規模は不明。幅161cm。深さ15cm。出土遺物はかわらけ。その他に破片でかわらけ・手づくね・常滑甕が出土している。

### 遺構111(図15・図16・図17)

不正円形のピットである。覆土は茶褐色弱粘質土・泥岩・炭化物・褐鉄を含む。幅47cm×38cm。深さ18cm。出土遺物はかわらけ・かわらけ質の火鉢。

### 遺構112a(図15・図16・図17)

方形土坑である。覆土は図16土層注記を参照。当初、遺構112bを含めた一つの遺構として掘り始めたため、破片数量は一括採集遺物として計測している。破片でかわらけ・手づくね・常滑甕・山茶碗・

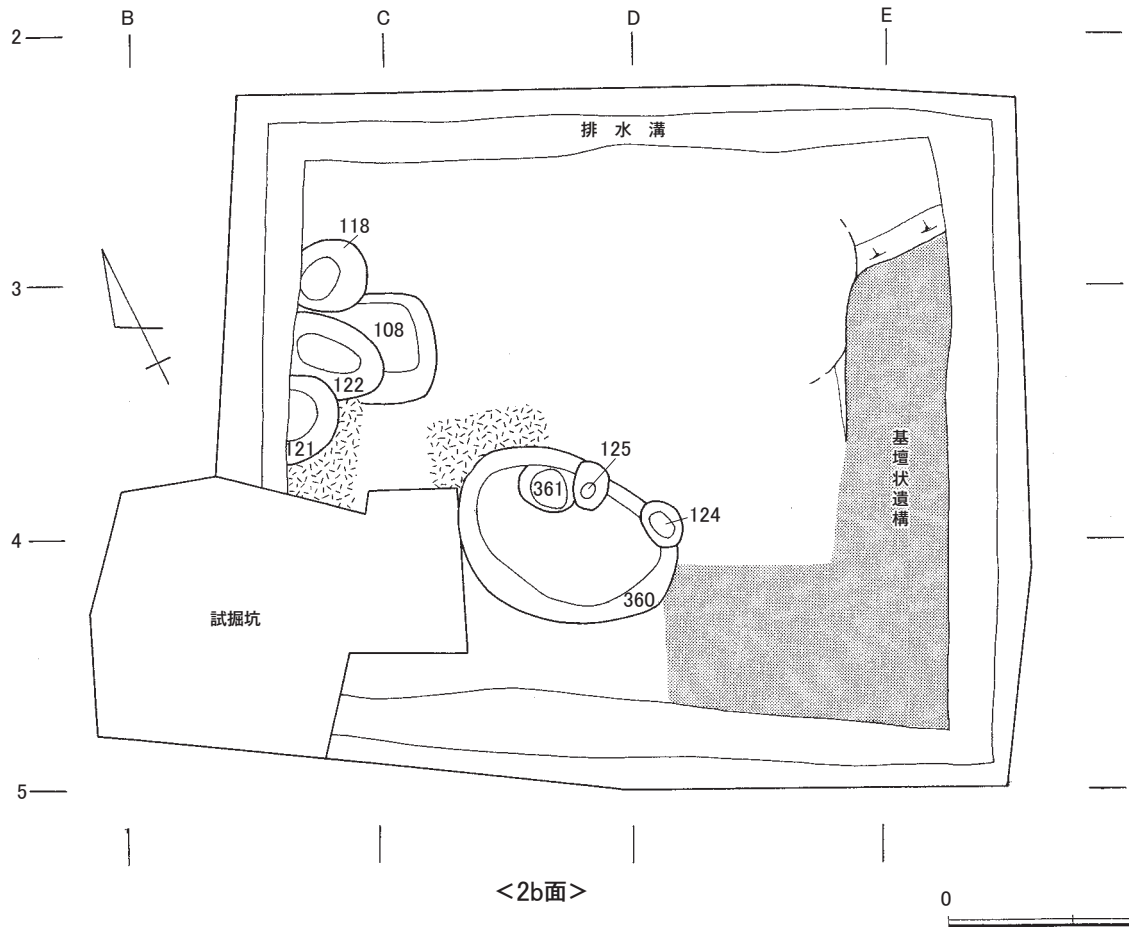
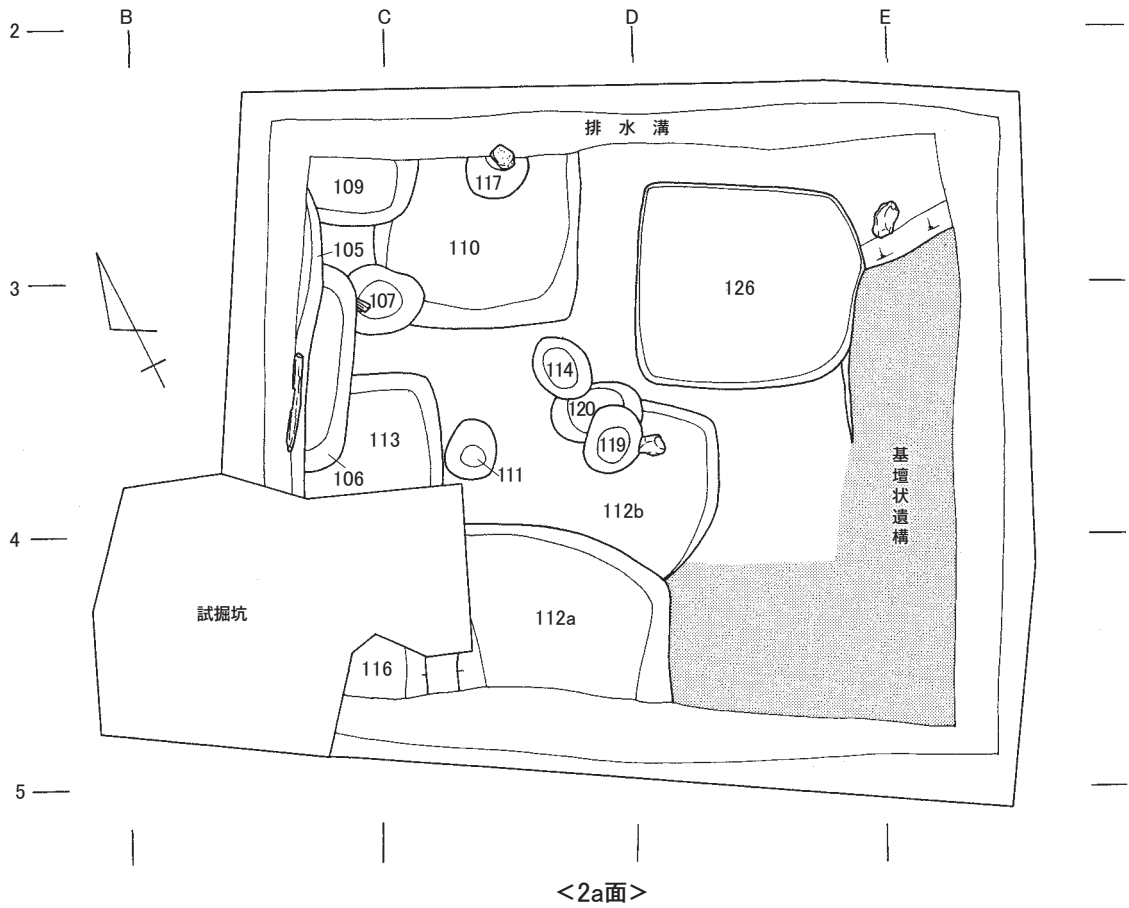
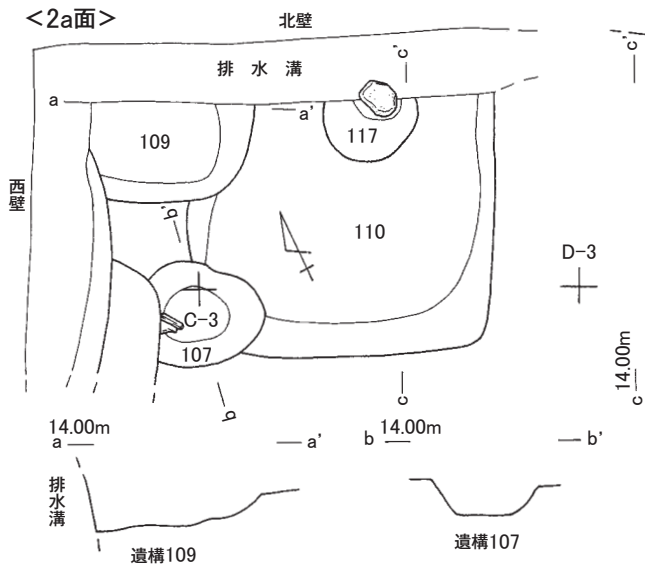
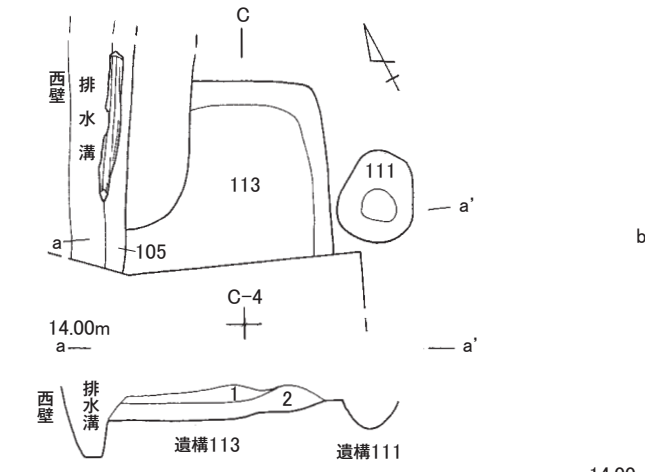


図15 第2面全測図



- 遺構110・117土層注記
1. 灰茶褐色粘質土：鎌倉石砂粒・泥岩粒・炭・かわらけ片多量含む
  2. 茶褐色砂質土：鎌倉石破砕粒多量含む
  3. 明灰褐色粘質土：半人頭大の泥岩・鎌倉石砂粒・炭・かわらけ片含む

- 遺構112a・112b・119土層注記
1. 暗灰茶褐色粘質土：小石～半人頭大の泥岩多量、砂岩粒・砂岩・炭・礫・かわらけ片含む、粘性やや強い
  2. 灰茶褐色砂質土：鎌倉石砂粒・灰色砂岩粒・混在、泥岩・炭・かわらけ片含む
  3. 明灰色弱砂質土：2より鎌倉石粒少なく灰色粘土多い、半人頭大泥岩・砂岩・炭化物・礫・かわらけ片・木片含む
  4. 明灰色砂質土：泥岩粒・かわらけ片含む、粘性強く超軟質
  5. 明灰色粘質土：3と同質で拳大泥岩多量、砂岩粒・炭化物・木片含む
  6. 灰褐色弱砂質土：小石大泥岩が密につまる、砂岩粒多量含む



- 遺構113土層注記
1. 青灰色粘質土：小石～半人頭大の泥岩多量、砂岩・砂岩粒・鉄分・炭化物・礫・かわらけ片含む
  2. 青灰色砂質土：砂岩質の砂利が密につまる、鎌倉石粒・炭化物・かわらけ片・礫多量含む

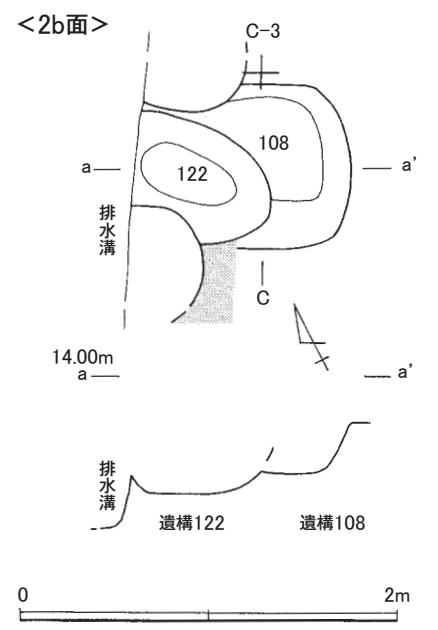
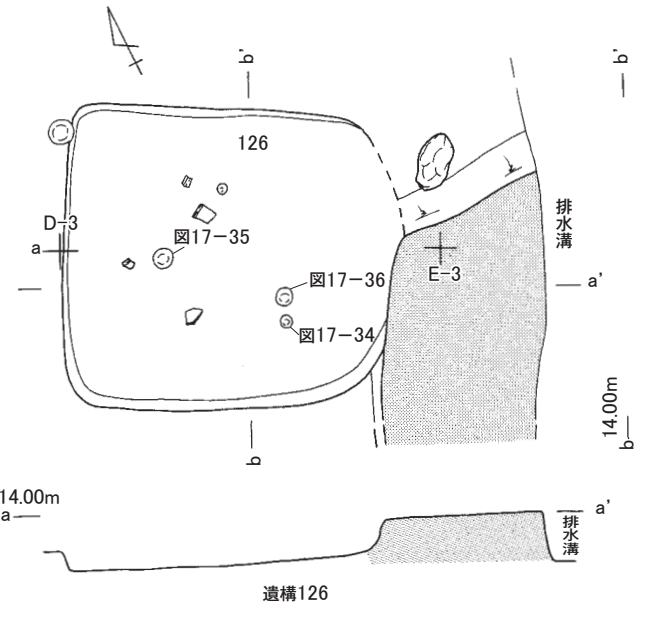
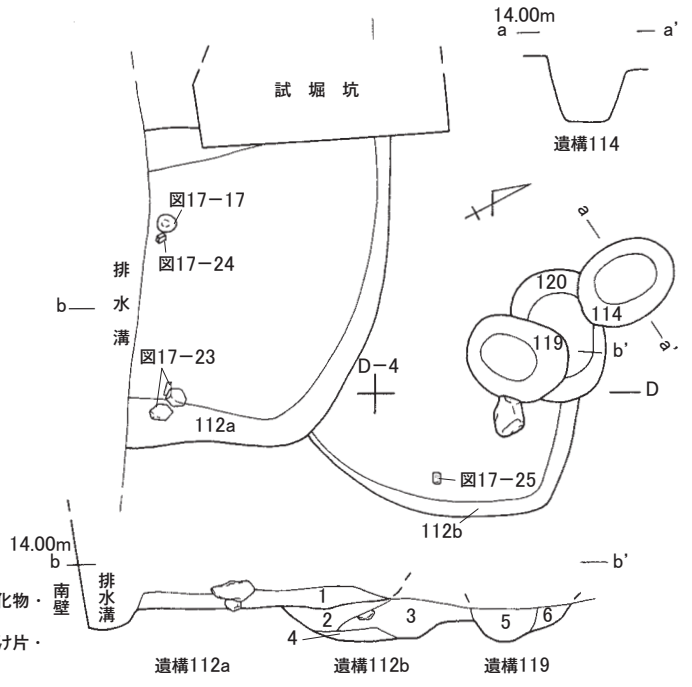


図16 第2面各遺構

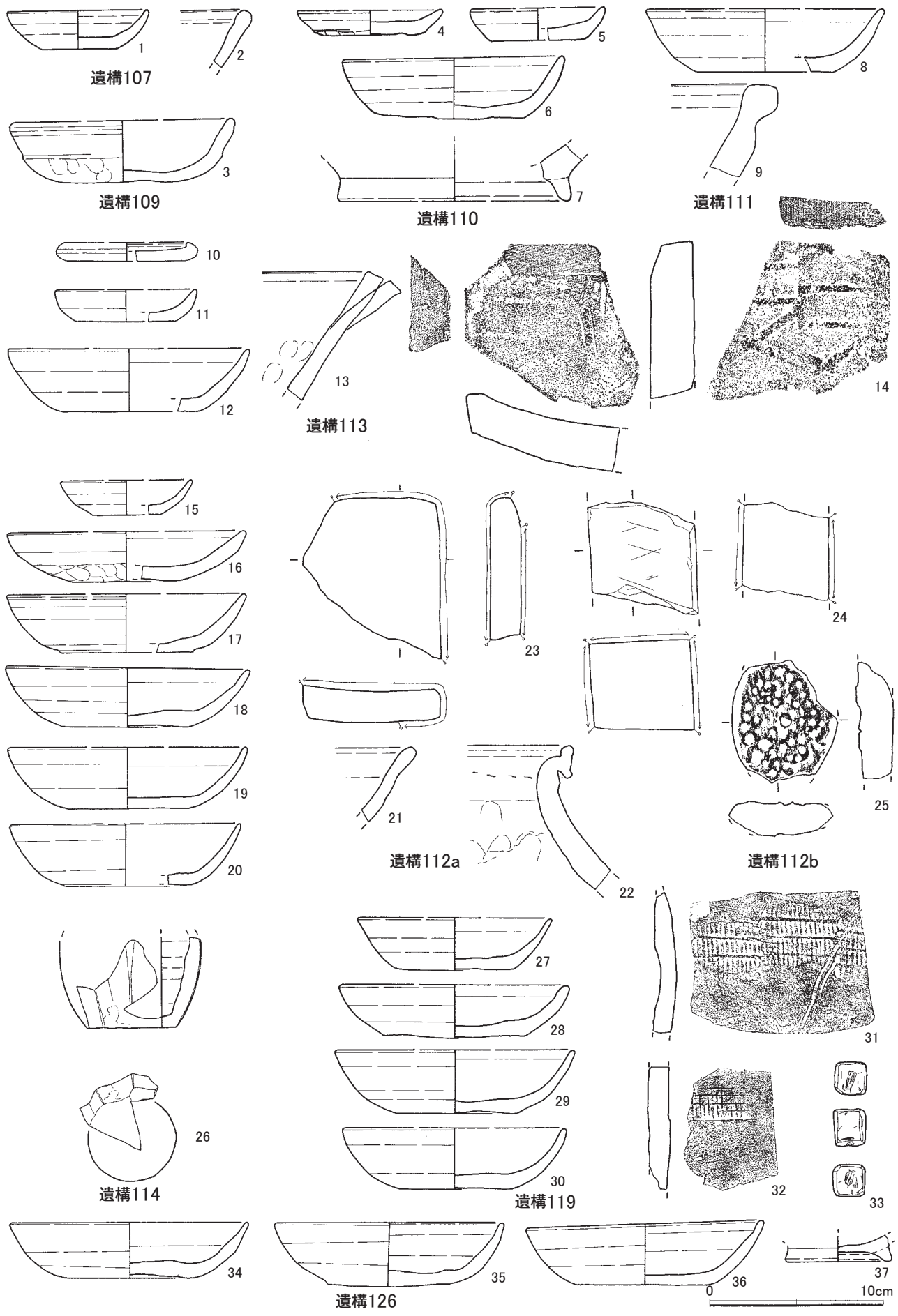


図17 第2面各遺構出土遺物(1)

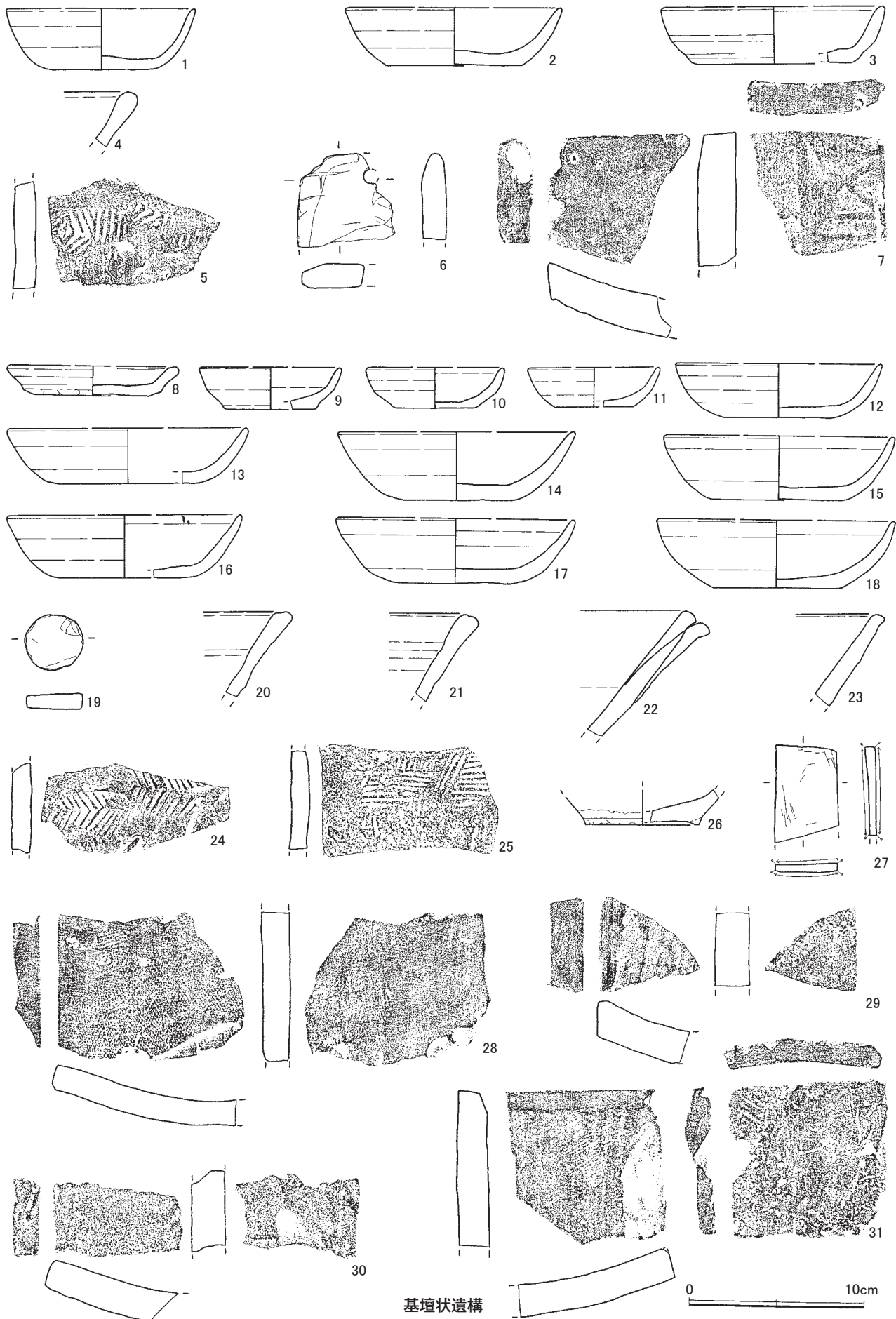


图18 第2面各遺構出土遺物(2)

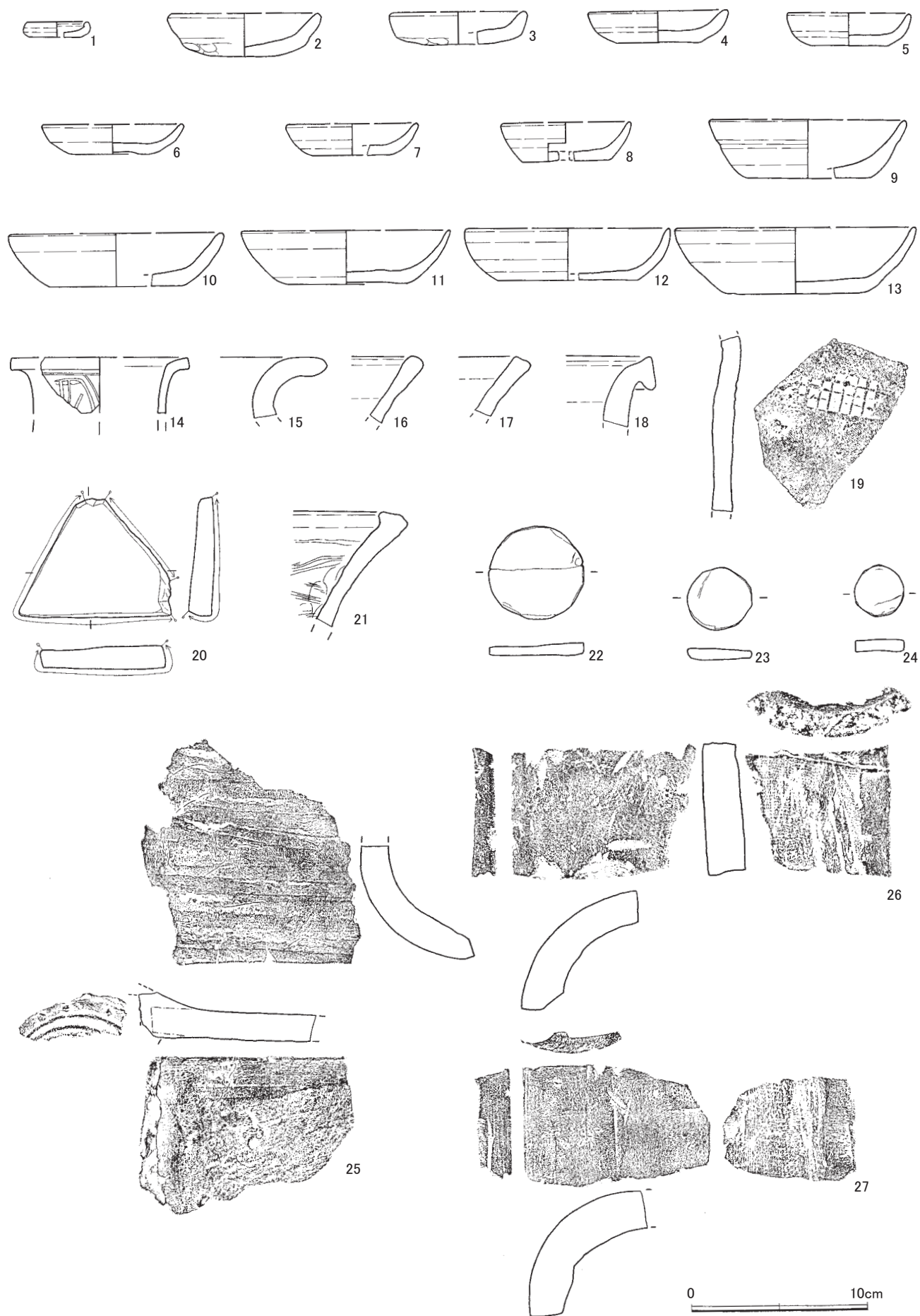


图19 第2面面上出土遺物

男瓦・土師器甕・輪高台の漆椀が出土している。調査区外遺構が延びてしまっている為に規模は不明。深さ10cm。出土遺物はかわらけ・常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・瓦転用品・砥石。

#### 遺構112b (図15・図16・図17)

遺構112a・114・119・120に切られ規模・形状は不明。浅い方形の土坑である。覆土は灰茶褐色砂質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。深さ20cm。出土遺物は泥岩加工品。破片でかわらけ・手づくね・常滑甕・山茶碗・男瓦・土師器甕が出土しており、出土数量は多い。

#### 遺構113 (図15・図16・図17)

方形の土坑である。覆土は青灰色弱粘質土・泥岩・砂質凝灰岩・炭化物・褐鉄を含む。出土遺物はかわらけ・常滑甕・女瓦。その他に破片でかわらけ・手づくね・手づくね白かわらけ・常滑甕・男瓦が出土している。遺構106・試掘坑に切られてしまっていたために規模不明。深さ20cm。

#### 遺構114 (図15・図16・図17)

楕円形のピットである。覆土は青灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・礫を含む。幅180cm×158cm。深さ21cm。出土遺物は白磁水注。

#### 遺構117 (図15・図16)

円形のピットである。径約50cm。深さ約20cm。遺構底面に不整形な砂質凝灰岩が遺存。根固めとして使用か。覆土内から烏帽子の破片が出土したが遺存状態が悪く採集できなかった。その他に破片でかわらけ・手づくね・常滑甕・常滑壺・山茶碗が出土している。

#### 遺構119 (図15・図16・図17)

円形のピットである。遺構110を切る。覆土は明灰褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。幅55cm×43cm。深さ19cm。出土遺物はかわらけ・常滑甕・滑石製品。その他に破片で女瓦が出土している。

#### 遺構120 (図15・図16)

楕円形のピットである。幅70cm×49cm。深さ20cm。覆土は明褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。破片でかわらけが出土している。

#### 遺構126 (図15・図16・図17)

方形の土坑である。覆土は茶褐色弱粘質土・泥岩・炭化物を含む。幅117cm×160cm。深さ16cm。出土遺物はかわらけ・土師器碗。破片でロクロ土師器が出土しているが、図示したロクロ土師器の高台付碗と同一個体の可能性あり。

#### 基壇状遺構 (図15・図18)

調査区東端で発見した。調査区に対して逆L字状に遺存する。調査区壁で観察した土層堆積の様子から基壇状遺構として報告しているが、地業の端部であった可能性もある。覆土は泥岩・泥岩粒・砂礫・炭化物を含む砂質土、弱粘質土の互層で形成され固く締まる。覆土内からはかわらけ細片が多く採集された。地業材として使用したものか。出土遺物はかわらけ・かわらけ転用品・常滑片口鉢Ⅰ類・常滑甕・砥石・女瓦。その他に破片で手づくね・手づくね白かわらけ・瀬戸壺・常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・常滑片口鉢Ⅱ類・男瓦・女瓦が出土している。

#### ・第2b面 (図15)

第2b面で発見した遺構は土坑2基・ピット6穴である。第2a面で確認した浅い方形土坑下層一部に、拳大の破碎泥岩・泥岩・礫・安山岩などで粗く地業した痕跡が残る。発見した土坑・ピットともに建物址の存在をうかがわせる遺構はなかった。



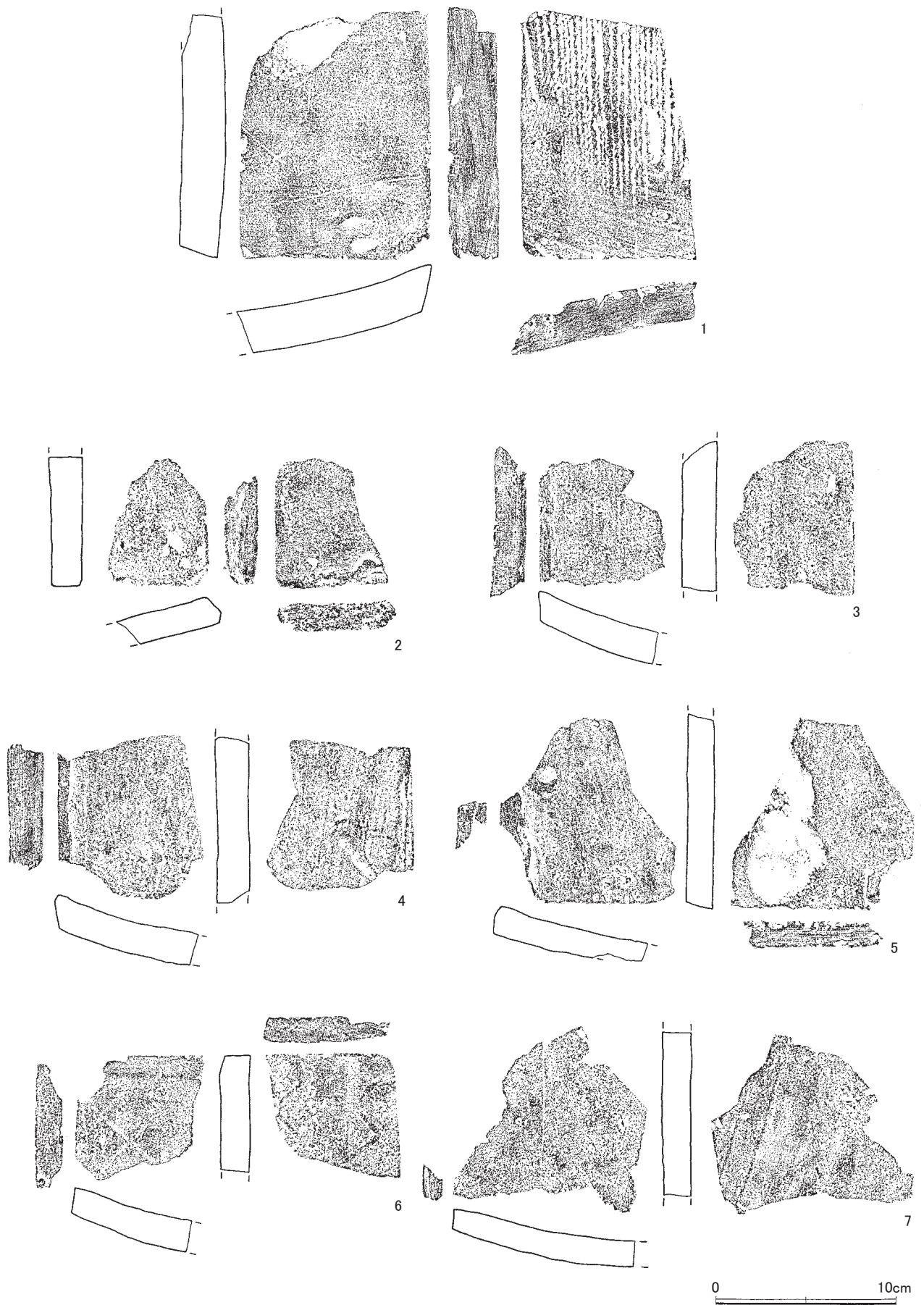


图20 第2面面上出土遺物(2)

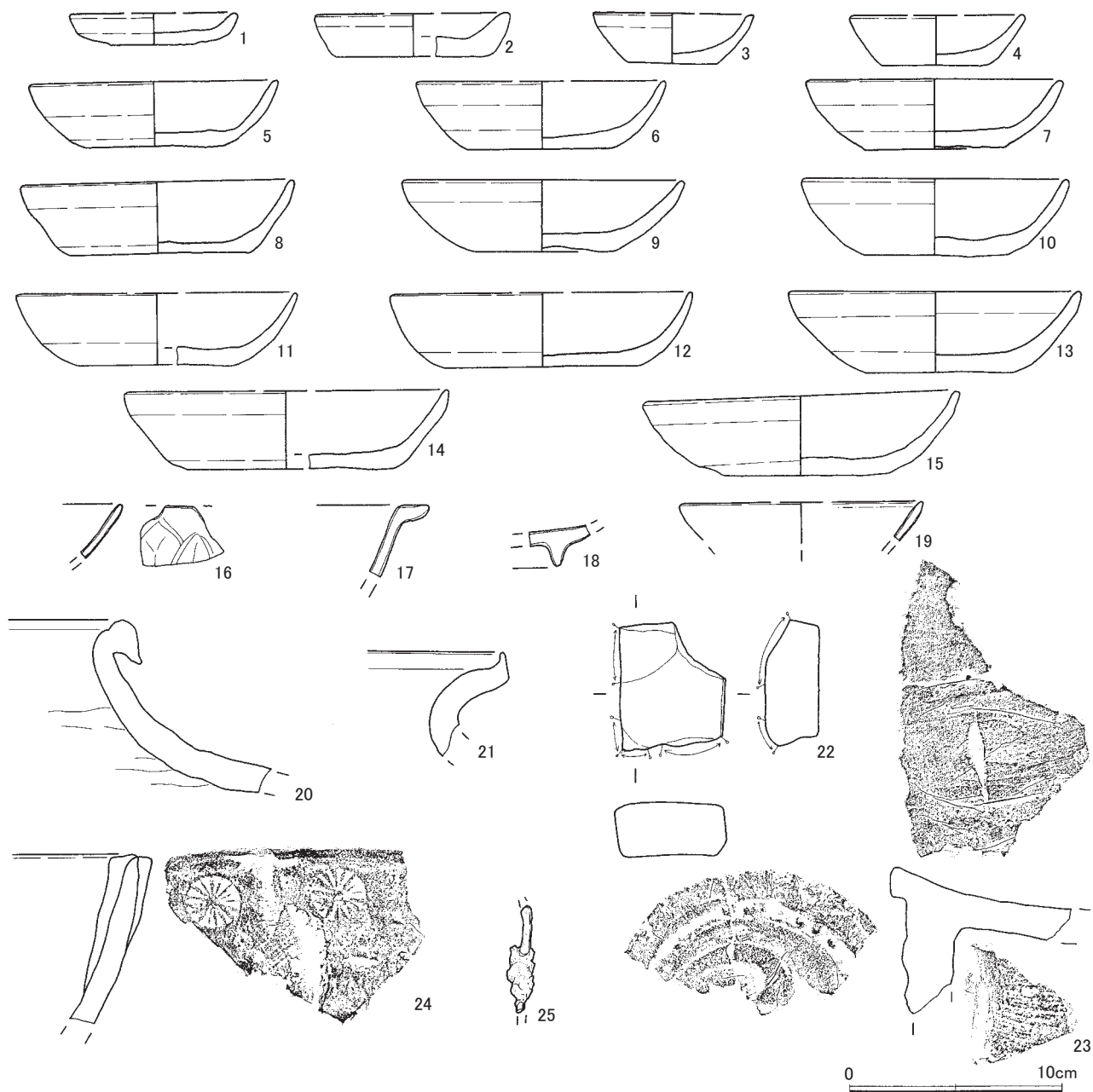


図21 第2面構成土出土遺物

遺構 108 (図15・図17・図18)

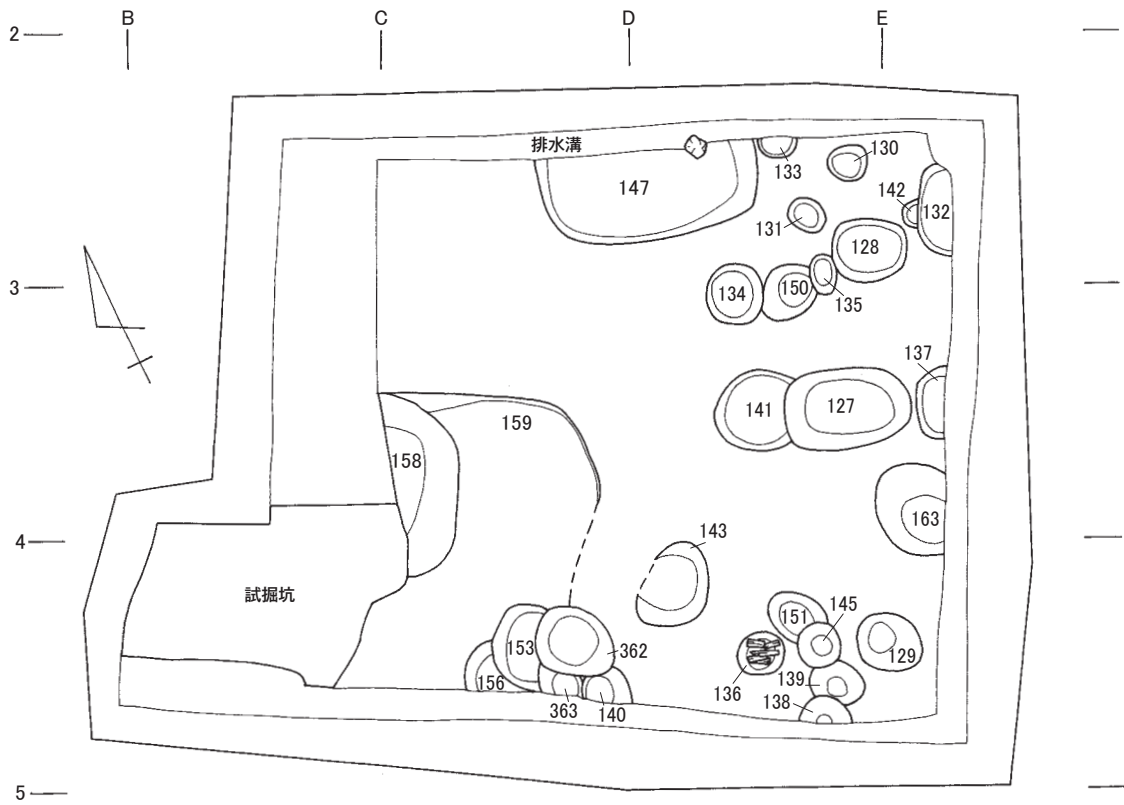
方形の土坑である。覆土は青灰色弱粘質土・炭化物・泥岩粒を含む。遺構 118・122 に切られ規模不明。深さ 25, 5cm。出土遺物はかわらけ・常滑甕・常滑片口鉢 I 類・滑石製温石・女瓦。その他に破片で女瓦が出土している。

遺構 122 (図15・図16)

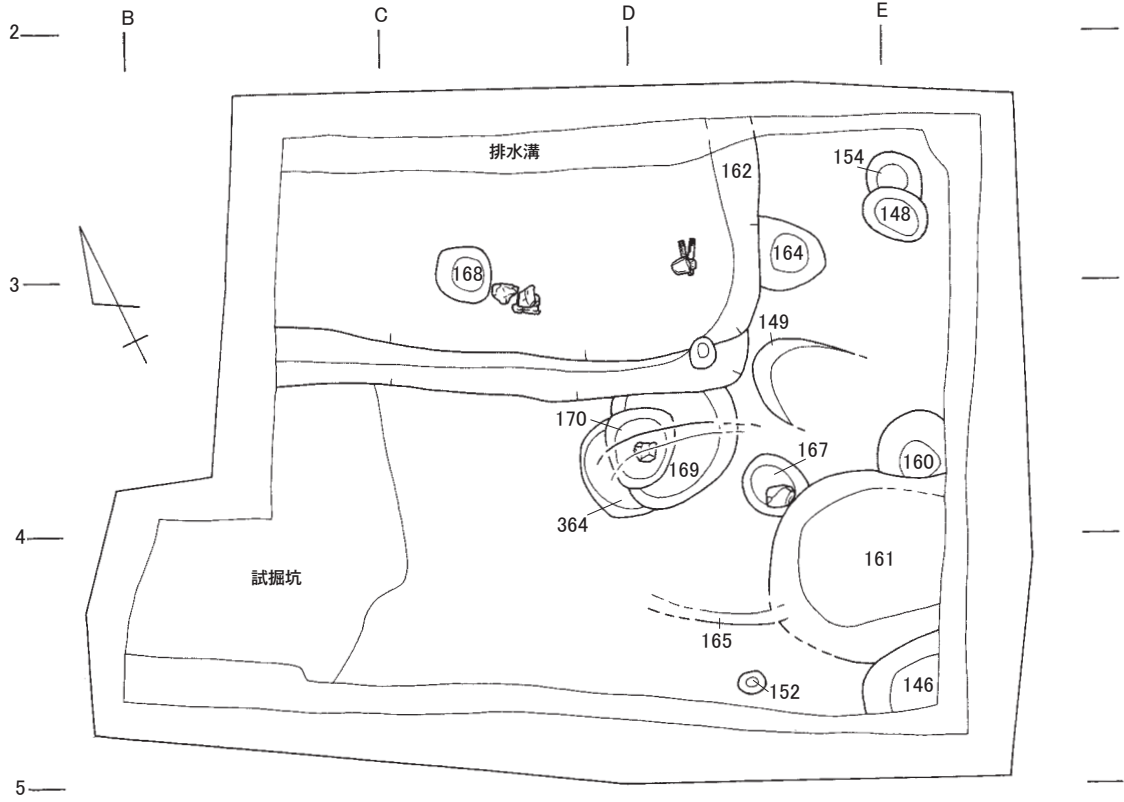
楕円形のピット。覆土は青灰色弱粘質土・泥岩粒を含む。幅 82cm × 65cm。深さ 36, 5cm。出土遺物はない。

・第2面面上出土遺物 (図19・図20)

第2面の面上で出土した遺物は、かわらけ・かわらけ転用品・青白磁梅瓶・渥美甕・常滑片口鉢 I 類・常滑片口鉢 II 類・常滑甕・常滑転用品・土器質火鉢・瓦である。第1面同様に瓦の出土量が多く、同じく年代に幅を持つ。破片ではかわらけ細片・常滑甕が多く出土した。かわらけ細片は地業の際に利用し



<3a面>



<3b面>

0 10cm

図22 第3面全測図

たのかもしれない。その他に破片で手づくね・手づくね白かわらけ・常滑甕・常滑片口鉢Ⅱ類・男瓦・女瓦・須恵器瓶類・灰釉陶器瓶類が出土している。

#### ・第2面構成土出土遺物 (図21)

第2面構成土出土遺物は、かわらけ・青磁蓮弁文碗・白磁口元皿・常滑甕・瓦・瓦転用品・瓦質火鉢である。第2面構成土は明茶褐色砂質土・炭化物・泥岩粒・褐鉄を含む堅く締まった土である。面上出土遺物に比して構成土からの出土数量は大幅に減っている。その他に破片でかわらけ・手づくね・常滑甕・女瓦が出土している。

### 3. 第3面の遺構と遺物 (図22～図29)

#### ・第3a面 (図22)

第3面もa・bの2期に分けて報告している。遺構確認レベルは標高約13,80mである。遺構の確認は破碎泥岩粒を含む固く締まった黒褐色粘質土上で行った。短期間に造り替えが行われたために、生活面を造成した地業は遺存していなかったが、調査区東側に青灰色砂を含む黒褐色粘質土の地業が一部遺存していた。上層の遺構に壊されたためか、礎板が遺存するピットや、柱穴痕と考えられる有機質土が遺存したピットなどを発見したが、建物址を推定することはできなかった。第3a面で発見した遺構は土坑7基・ピット21穴である。2時期の生活面を確認した。湧水量が多いため、堆積土中の水分保有量が増えたこともあり、破片を含めて木製品が多く出土した。

#### 遺構127 (図22・図23・図25)

楕円形の土坑である。覆土は茶褐色砂質土・泥岩・泥岩粒・褐鉄を含む。幅99cm×64cm。深さ12,5cm。出土遺物は木製品の箸・経木折敷・用途不明品。

#### 遺構134 (図22・図23・図25)

円形のピットである。覆土は茶褐色砂質土・泥岩・泥岩粒・褐鉄を含む。幅49cm×45cm。深さ22,5cm。出土遺物はかわらけ・木製品の箸。

#### 遺構136 (図22)

浅い円形のピットである。覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物を含む。幅36cm×32cm。深さ7cm。遺構底面に礎板を確認したが、遺存状態が悪く採集できなかった。出土遺物はない。

#### 遺構141 (図22・図23・図25)

円形のピットである。遺構127に切られる。覆土は青灰色弱粘質土・泥岩・褐鉄を含む。幅62cm×60cm。深さ12cm。出土遺物はかわらけ。

#### 遺構143 (図22・図23・図25)

楕円形のピットである。覆土は茶褐色砂質土・泥岩粒・褐鉄を含む。幅72cm×54cm。深さ30cm。出土遺物はかわらけ。

#### 遺構147 (図22・図23・図25)

方形の土坑である。調査区外に遺構が延びてしまっているために、正確な形状・規模は不明。深さ36cm。後述する第3b面の遺構162の覆土の一部であった可能性もある。覆土は茶褐色砂質土・泥岩・褐鉄を含む。出土遺物はかわらけ・常滑甕・木製品の草履芯。その他に破片でかわらけ・手づくね・常

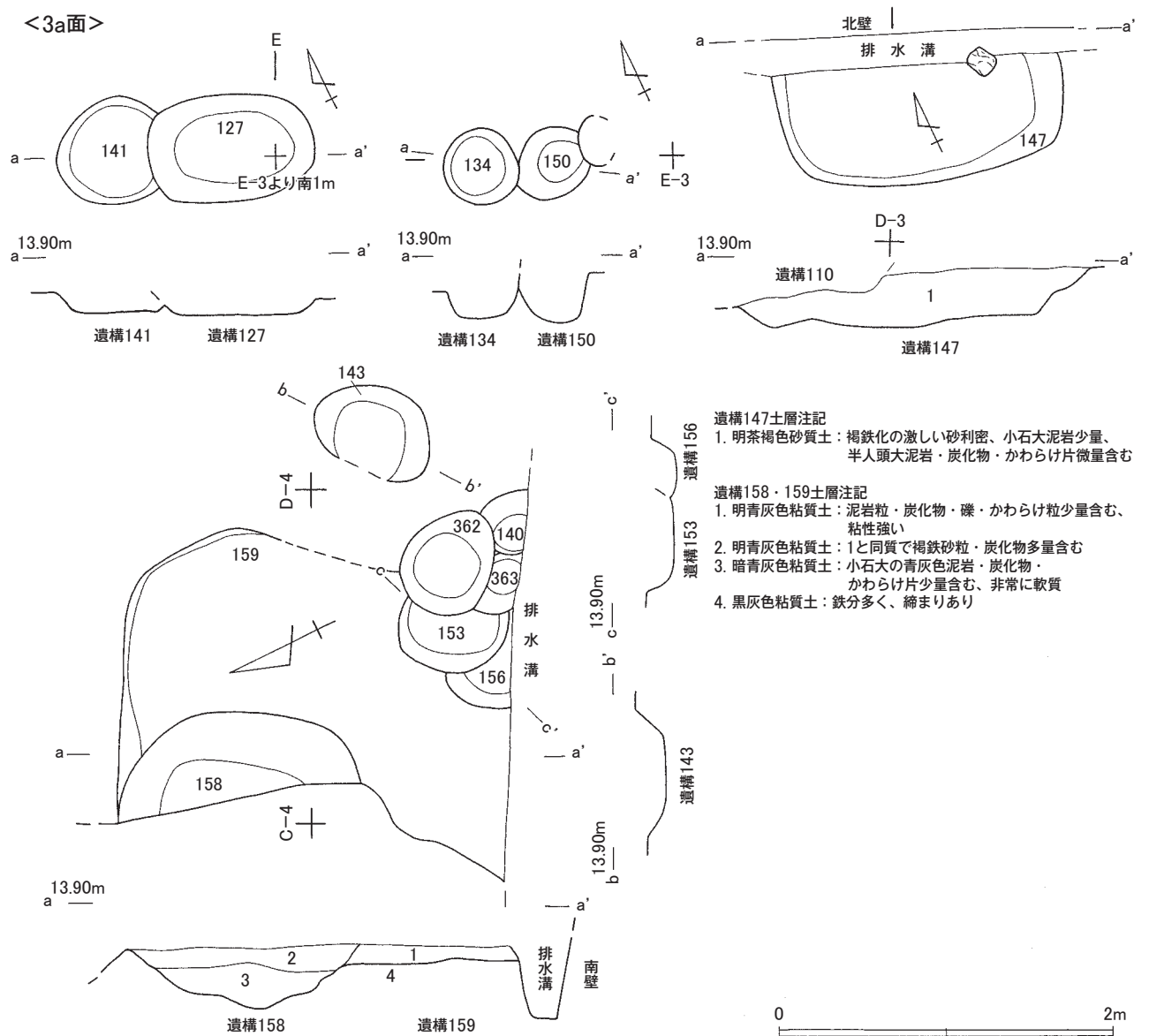


図23 第3面各遺構(1)

滑甕・土師器坏・土師器甕が出土している。

**遺構 150 (図22・図23・図25)**

円形のピットである。遺構134と遺構135に切られる。幅48cm×38cm。深さ27cm。覆土は青灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・褐鉄・有機質土を含む。出土遺物はかわらけ・常滑片口鉢Ⅱ類。

**遺構 153 (図22・図23・図25)**

円形の土坑である。遺構362・363に切られる。幅68cm×53cm。深さ23, 5cm。覆土は茶褐色砂質土・泥岩・褐鉄を含む。出土遺物はかわらけ。その他に破片でかわらけ・常滑甕が出土している。

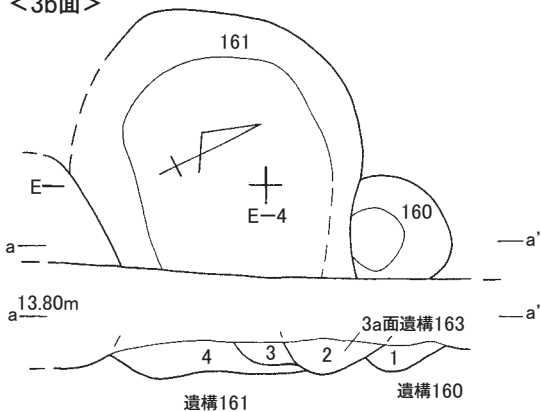
**遺構 156 (図22・図23・図25)**

調査区外に遺構が延びてしまっているために形状・規模は不明。ピットである。深さ23cm。覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩・炭化物を含む。出土遺物はかわらけ。その他に破片でかわらけ・手づくね白かわらけが出土している。

**遺構 158 (図22・図23・図25)**

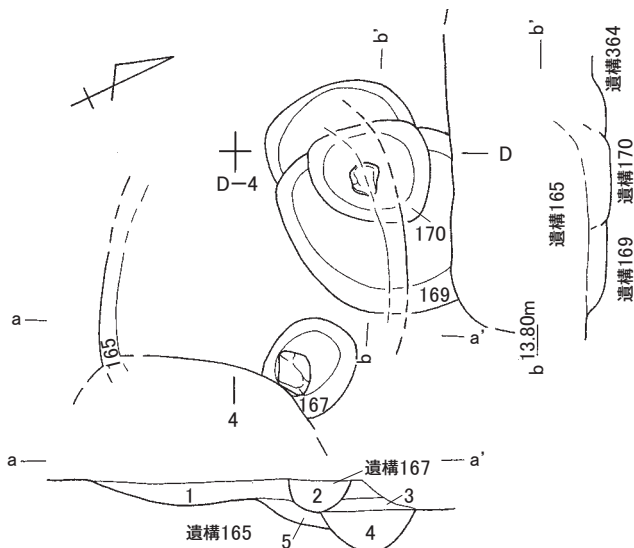
土坑である。調査区外に遺構が延びてしまっているために形状・規模不明。遺構159を切る。深さ31cm。覆土は明青灰色粘質土。出土遺物はかわらけ。

<3b面>



遺構160・161土層注記

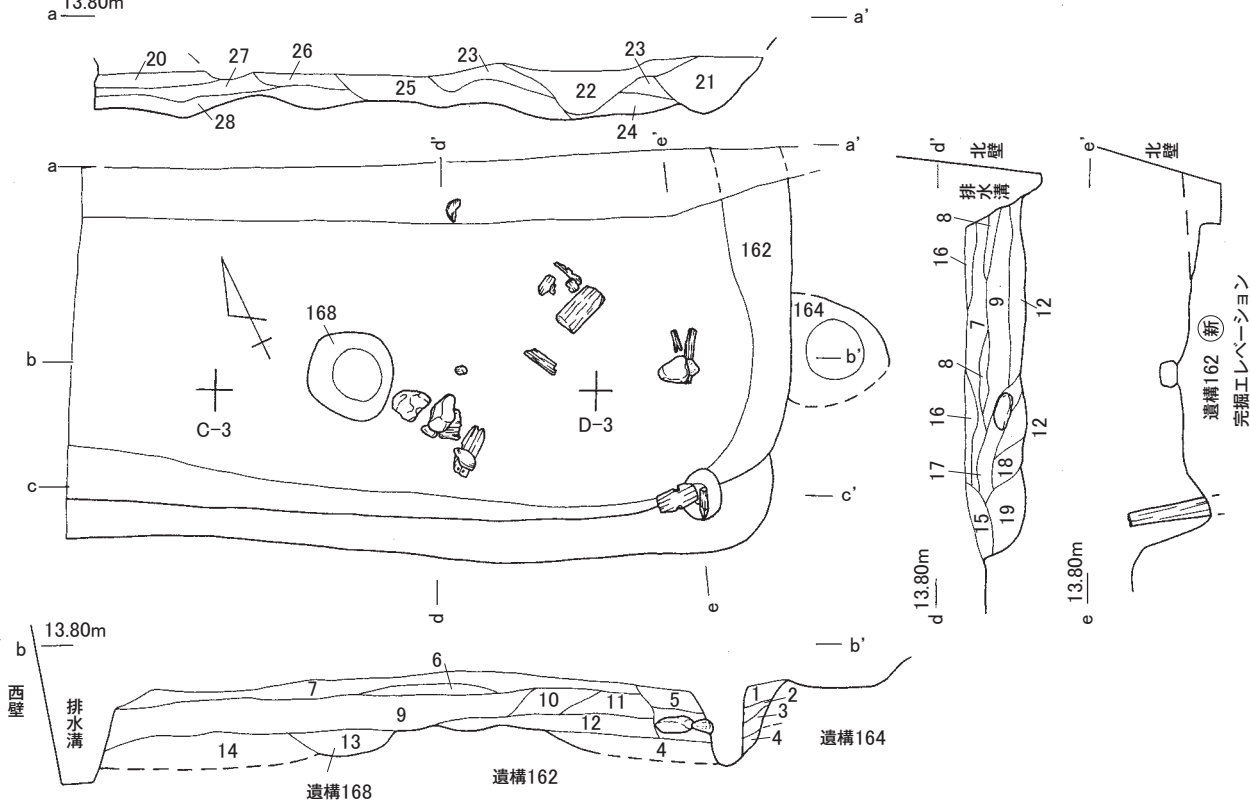
1. 明青灰色粘質土：小石大泥岩・炭化物・鉄分・礫・かわらけ片含む、やや締まりあり
2. 明青灰色粘質土：1と同質で締まり弱い、拳大泥岩・木片やや多い
3. 明青灰色粘質土：2と同質で鉄分やや多い
4. 暗青灰色粘質土：砂質土やや多い、拳大泥岩・炭化物・木片少量含む



遺構165土層注記

1. 明青灰色粘質土：小石大泥岩・鉄分多量、炭少量含む
2. 明青灰色粘質土：泥岩・鉄分・木製品多い
3. 黒灰色粘質土：小石大泥岩・炭微量含む、締まりあり（4面遺構）
4. 黒灰色粘質土：鉄分・泥岩粒・炭を多く含む（4面遺構）
5. 黒灰色粘質土：4に近似・泥岩粒・炭を含む（4面遺構）

13.80m



遺構162土層注記

1. 青灰色砂質土：小石大泥岩を含む砂利質土に木片・鉄分・かわらけ片含む
2. 暗灰色粘質土：木製品多量、小石大泥岩・炭化物含む
3. 暗灰色粘質土：2と同質で、1の砂利を多く含む
4. 暗灰色粘質土：2と同質で、2より色調明るい青灰色、非常に脆弱
5. 暗青灰色粘質土：海砂の様なきめ細かな砂を含む、小石大泥岩・炭化物・木片含む、やや締まりあり
6. 暗青灰色粘質土：5より色調黒い、粘性強く脆弱
7. 青灰色粘質土：粒～拳大泥岩・炭化物多量、鉄分・きめ細かな砂・かわらけ片・礫・木片含む、締まりあり
8. 暗青灰色粘質土：炭化物多量、きめ細かな砂・泥粒微量含む
9. 青灰色粘質土：粘性強く水分を多く含んだ脆弱な土、粒～拳大泥岩・炭化物・砂・木片ごく微量含む
10. 青灰色弱砂質土：きめ細かな砂の混合土、泥粒・炭化物・木片含む
11. 青灰色弱粘質土：10と同質、10より色調黒く木製品多量含む
12. 暗青灰色粘質土：木製品多量に含み粘性強く脆弱、粒～拳大泥岩・炭化物・礫含む
13. 黒灰色粘質土：泥岩粒・炭化物多量含む
14. 青灰色粘質土：きめ細かな砂と砂利混合土、粘質土と粒～小石大泥岩・炭化物多量含む

15. 茶黄色砂質土：粒～拳大泥岩・鉄分化した砂利多量含む（3面遺構）
16. 黄茶褐色弱粘質土：泥岩粒・鉄分多量、炭化物・礫含む、締まりあり
17. 暗青灰色粘質土：粘性強く脆弱、きめ細かな砂・泥岩粒・木片微量含む
18. 青灰色粘質土：拳大泥岩・炭化物・砂・木片含む
19. 暗青灰色粘質土：小石大泥岩・炭化物・木片多量含む（裏込めor壁穴部分）
20. 暗青灰色弱砂質土：きめ細かな砂質土と粘質土、粒～小石大泥岩・炭化物・褐鉄砂微量含む
21. 暗青灰色砂質土：泥砂粒・砂利密、小石大泥岩多量・炭化物・木片・黒褐色粘質土少量含む、締まり弱い
22. 暗青灰色砂質土：21と同質で遺物片・木片多量含む
23. 暗青灰色砂質土：21・22より青灰色のきめ細かな砂多量、木片微量含む
24. 暗青灰色砂質土：泥岩粒・炭化物少量、小石大泥岩ごく微量、粘性土にきめ細かな砂が混入
25. 暗青灰色粘質土：粒～拳大泥岩・炭化物・きめ細かな砂ごく微量含む、粘性強く締まり弱い
26. 暗青灰色粘質土：25と同質、下半部青は灰色のきめ細かな砂多量、炭化物・木片微量含む
27. 暗青灰色弱粘質土：25と同質できめ細かな砂少量含む
28. 暗青灰色粘質土：粒～小石大泥岩・炭化物・遺物片・木片ごく微量含む、粘性強く締まり弱い

0 2m

図24 第3面各遺構(2)

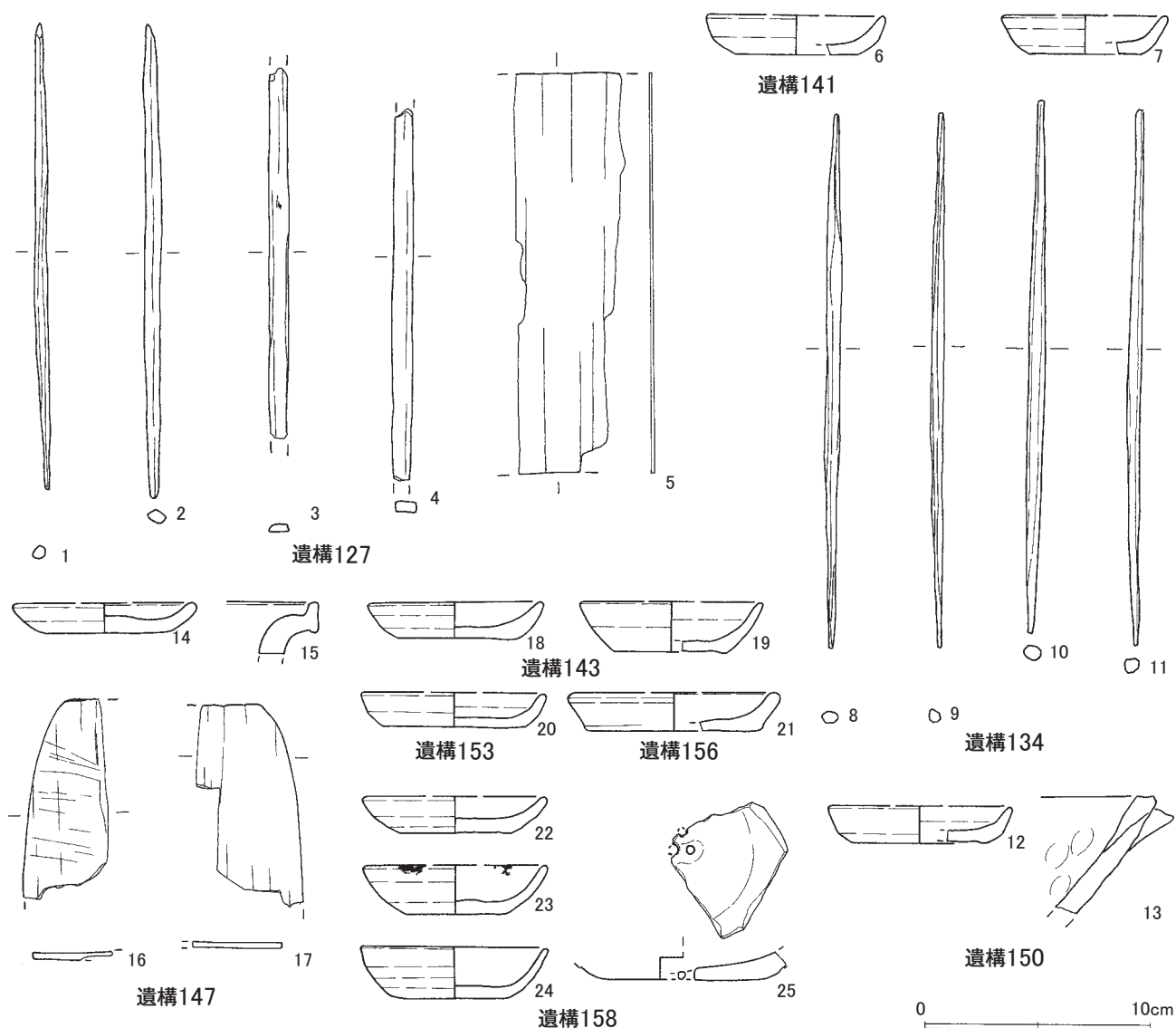


図25 第3面各遺構出土遺物(1)

遺構 159 (図22・図23)

方形土坑である。上層の遺構に壊されてしまっているために規模、形状が不明となったが、後述する第3 b面 で発見した建物址(遺構162)と同様の遺構であった可能性もある。深さ7cm。覆土は黒灰色粘質土・褐鉄を多く含む。出土遺物はない。

・第3 b面 (図22)

第3 a面同様に固く締まった地業層の検出はできなかったが、有機質土を多く含む粘性の強い黒褐色弱粘質土上で2時期の建物址(遺構162) 1軒・土坑7基・ピット7穴を発見した。覆土内に木質痕と考えられる有機質土を含むピットを数穴確認したが、建物を推定することはできなかった。調査区南側は遺構検出が希薄となる。また、調査区東側で発見した遺構は上層の遺構によって壊され、遺存状態が悪かった。2時期の生活面の造り替えを確認した。

遺構 160 (図22・図24・図26)

円形のピットである。径約60cm。深さ12cm。覆土は暗青灰色粘質土・泥岩・炭化物・有機質土を含む。出土遺物は木製品の箸。

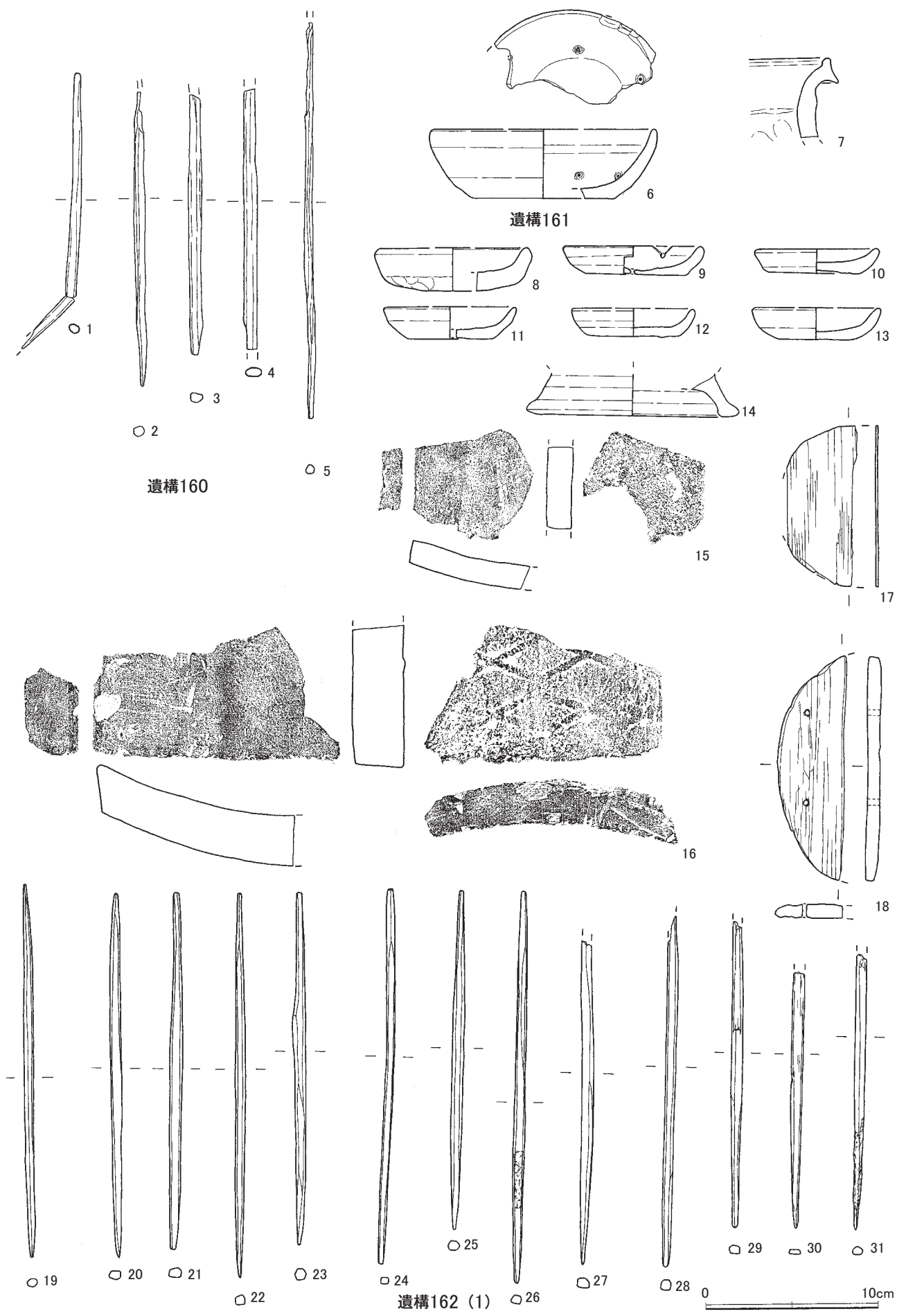
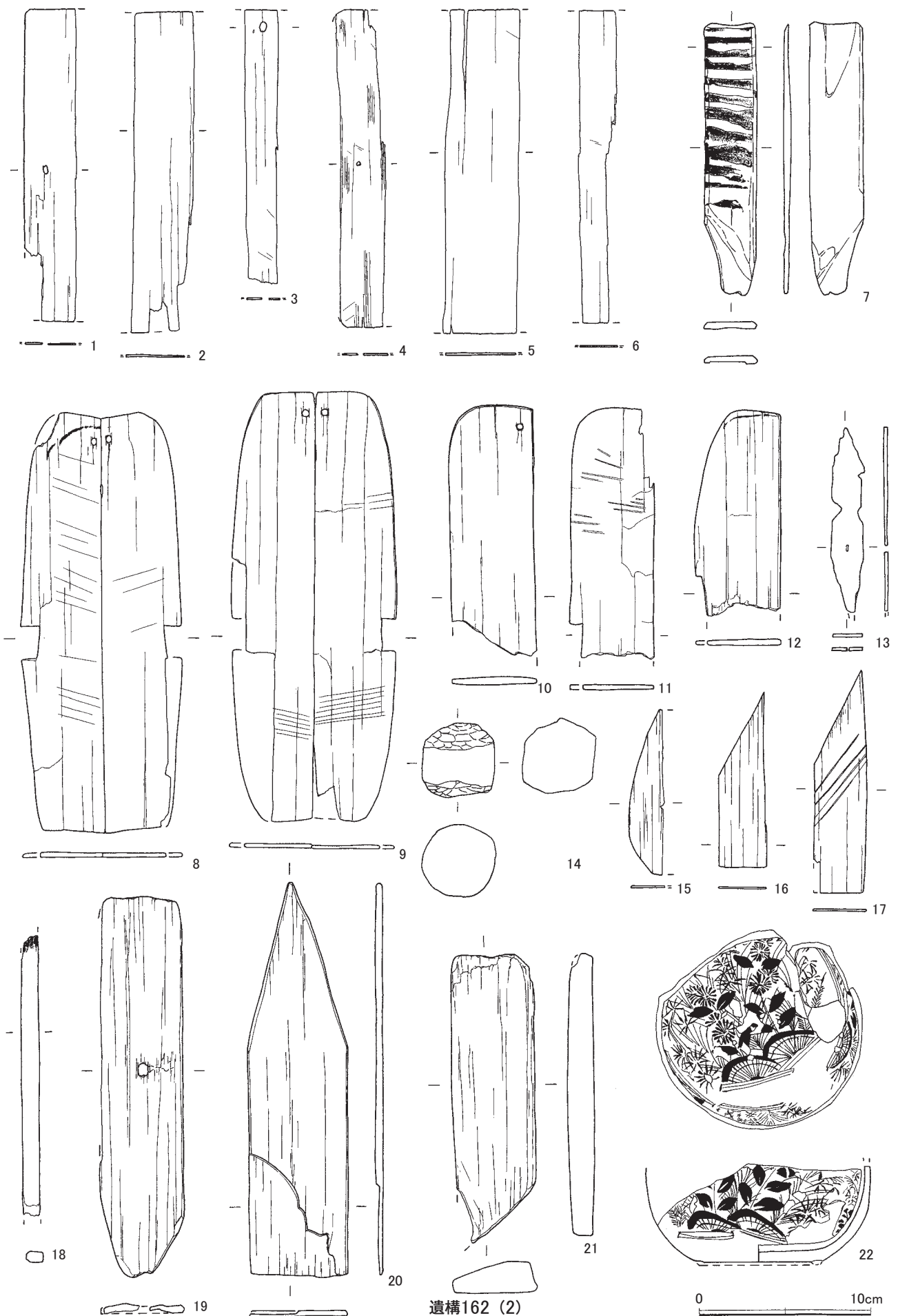


图26 第3面各遺構出土遺物(2)





遺構162 (2)

図27 第3面各遺構出土遺物 (3)

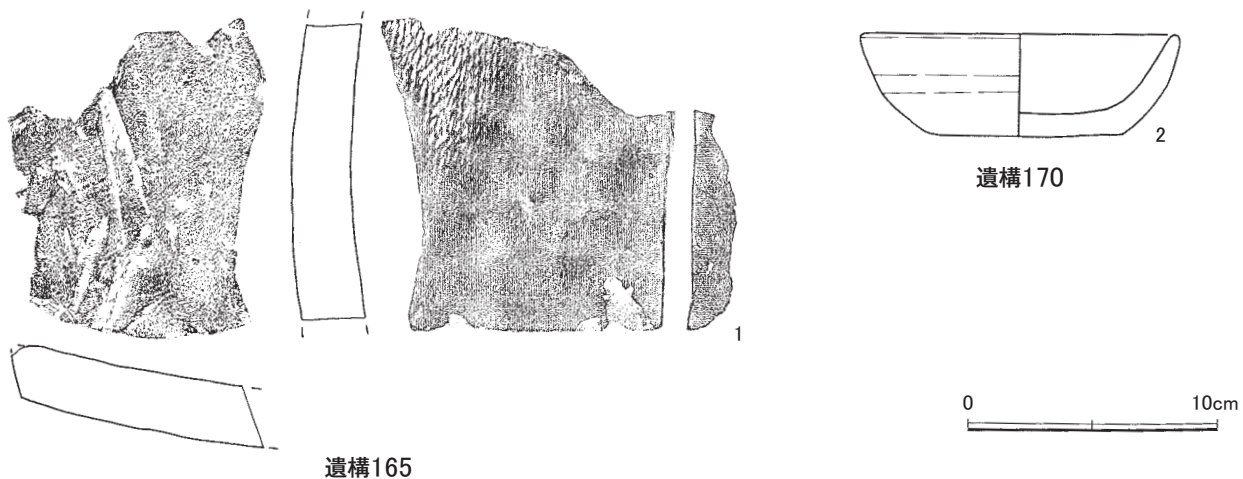


図28 第3面各遺構出土遺物(4)

遺構161 (図22・図24・図26)

円形の土坑である。幅150cm×(146)cm。深さ20, 5cm。覆土は明青灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・礫・褐鉄を含む。出土遺物はかわらけ。その他に破片で字瓦が出土している。

遺構162 (図22・図24・図26・図27)

調査区外に遺構が延びてしまっているため形状・規模は不明であるが建物址と考えている。遺存値で幅365cm×205cm。深さ22cm。覆土は粗い砂粒を多く含む青灰色弱粘質土。上層に泥岩・泥岩粒を多く含む。覆土内には多くの破片を含む木製品が出土した。方形に遺存した形状から方形建物建築址と考えるには、上層の遺構に壊されていると想定しても深さが足りないことや、覆土中に礎板、あるいは礎板状の板材の出土を見ることから、柱建ての建物址であったと考えている。また、遺構南側で確認した遺構の切りあいから2時期の遺構であったと思われる。出土遺物はかわらけ・常滑甕・渥美四耳壺・女瓦・木製品の曲げ物・箸・経木折敷・草履品・形代・漆器椀・用途不明品が出土している。その他に破片でかわらけ・手づくね・常滑甕・山茶碗・男瓦・女瓦・火鉢・土師器甕・須恵器坏・須恵器壺・灰釉陶器碗が出土した。

遺構164 (図22・図24)

円形の土坑である。遺構162に切られる。幅54cm×(54)cm。深さ20cm。覆土は暗褐色粘質土・泥岩粒・褐鉄を含む。出土遺物はない。

遺構165 (図22・図24・図28)

遺構169・170等に遺構に壊され規模は不明だが円形の土坑である。覆土は明青灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・褐鉄を含む。深さ12cm。出土遺物は女瓦。その他に破片でかわらけ・手づくね・常滑甕・土師器甕が出土している。

遺構167 (図22・図24)

楕円形のピットである。幅55cm×47cm。深さ18cm。覆土は明青灰色粘質土・泥岩・褐鉄・木製品破片が多く含まれる。出土遺物はない。

遺構168 (図22・図24)

円形のピットである。径43cm。深さ21, 5cm。覆土は黒灰色粘質土・泥岩粒・炭化物を多く含む。出土遺物はない。

遺構169 (図22・図24)

円形の土坑である。遺構162に切られる。95cm×(105)cm。深さ7, 5cm。覆土は茶褐色粘質土・泥岩・褐鉄・炭化物を含む。出土遺物はない。

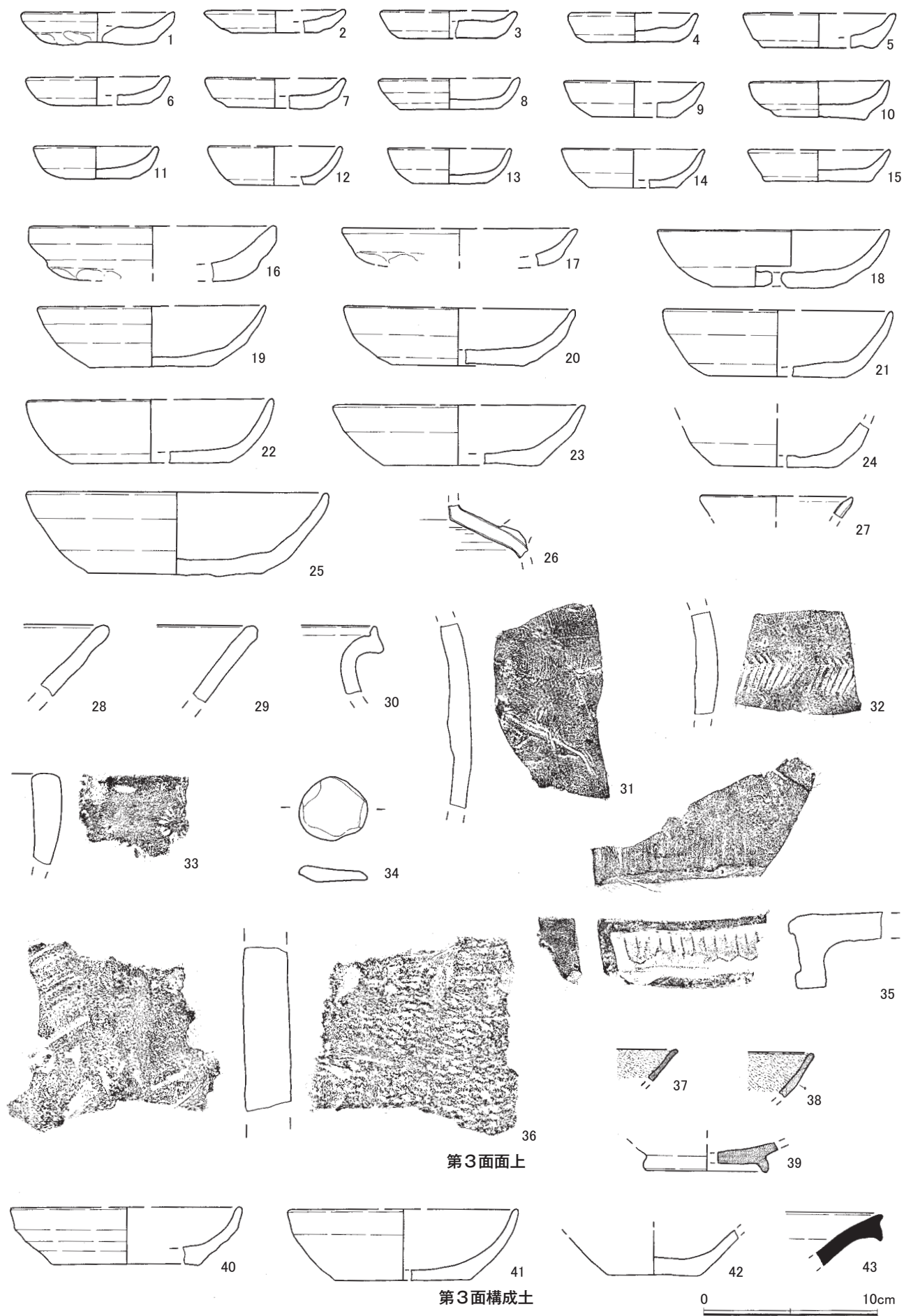
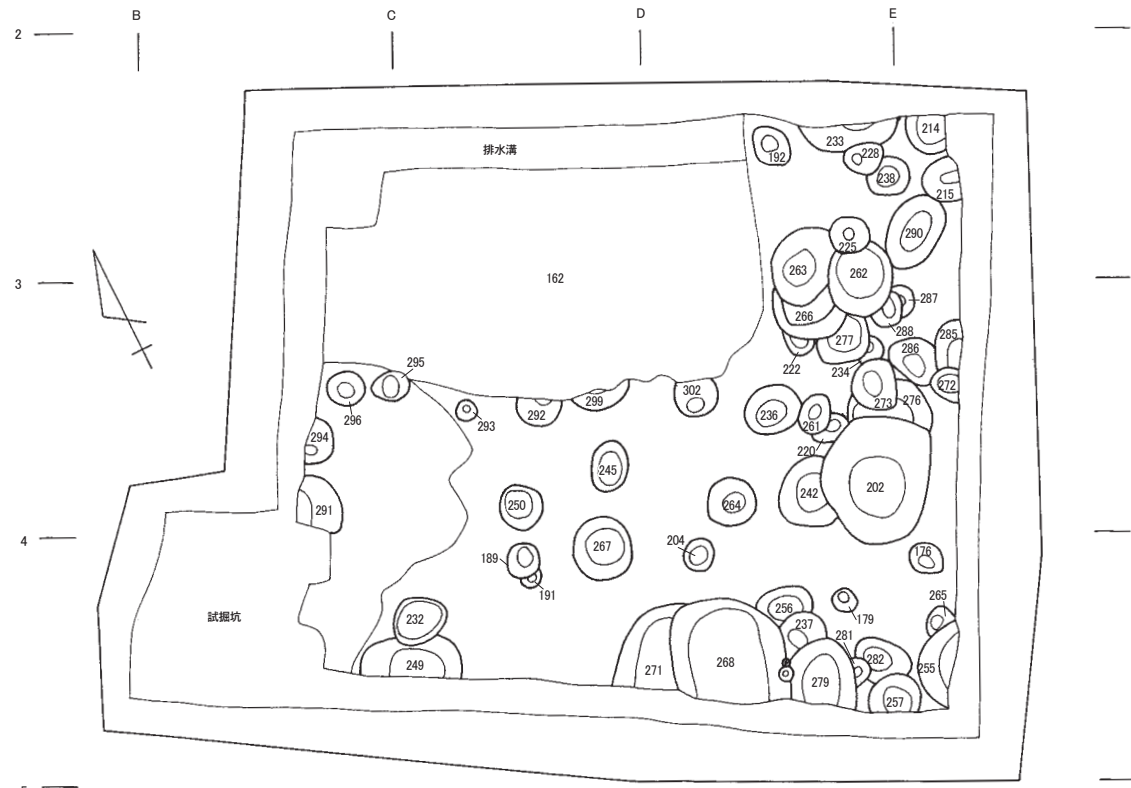


図29 第3面面上・構成土出土遺物



<4a面>



<4b面>



図30 第4面全測図

#### 遺構 170 (図 22・図 24・図 28)

円形のピットである。63cm × 52cm。深さ 16cm。覆土は茶褐色粘質土・泥岩・泥岩粒・褐鉄を含む。出土遺物はかわらけ。

#### ・第 3 面面上出土遺物 (図 29)

第 3 面の面上で出土した遺物は、かわらけ・かわらけ転用品・白磁四耳壺・青磁口兀碗・常滑片口鉢 I 類・常滑甕・瓦質火鉢・瓦・灰釉陶器碗である。破片では常滑甕片が目立って出土していた。その他にかわらけ・手づくね・渥美甕・常滑片口鉢 I 類・山茶碗・男瓦・土師器甕・須恵器瓶類が出土している。

#### ・第 3 面構成土出土遺物 (図 29)

第 3 面構成土から出土した遺物は、かわらけ・ロクロ土師器坏・須恵器甕である。第 3 面構成土は、固く締まった黒褐色粘質土・炭化物。泥岩粒。灰白色砂・黒色粘土を含む。部分的ではあったが薄く黒褐色砂質土が互層に堆積する。第 3 面構成土からは破片でかわらけ・瀬戸壺・常滑甕・山茶碗・土師器坏・土師器甕・ロクロ土師器・須恵器坏身・須恵器瓶類が出土している。

### 4. 第 4 面の遺構と遺物 (図 30～図 32)

#### ・第 4 a 面 (図 30～図 32)

第 4 面は褐鉄を多く含む堅く締まった茶褐色粘質土上で確認した。第 4 面も a・b と 2 枚の生活面に分けて報告している。遺構確認レベルは標高約 13, 50 m。第 4 a 面で発見した遺構は土坑 4 基・ピット 71 穴である。繁雑に切り合った遺構覆土の観察から、第 4 a 面は少なくとも 3 時期の生活面の造り替えがあったことを確認した。また、遺構覆土に柱痕と思われる、茶色有機質土が遺存するピットを数穴確認し、建物址の復元を試みたが遺構の大半は調査区東側に延びている様子で、建物址を復元することは出来なかった。調査区北側一部は、上層の遺構 162 に壊されてしまったため遺構の検出がない。第 4 面になると遺物の総出土量が減少するが、古代遺物の出土量は増加する。

#### 遺構 190 (図 30～図 32)

上層の遺構に切られ規模は不明。楕円形のピットである。幅 44cm × (46)cm。深さ 24cm。覆土は暗青灰色弱粘質土・泥岩粒を含む。出土遺物は土師器長胴甕・ロクロ土師器坏。

#### 遺構 194 (図 30～図 32)

楕円形のピットである。幅 27cm × 22cm。深さ 8 cm。覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩粒・褐鉄を含む。出土遺物の灰釉陶器碗は遺構底部で検出。

#### 遺構 195 (図 30～図 32)

円形の土坑である。幅 48cm × 41cm。深さ 18cm。覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩粒・褐鉄・青灰色砂を含む。出土遺物は須恵器長頸瓶・常滑片口鉢 II 類。その他に破片で、土師器坏・土師器甕・須恵器壺甕瓶類が出土した。

#### 遺構 216 (図 30～図 32)

円形の土坑である。幅 53cm × 48cm。深さ 19cm。覆土は暗褐色弱粘質土・炭化物を含む。出土遺物はロクロ土師器坏。その他に破片で土師器坏・須恵器坏が出土している。

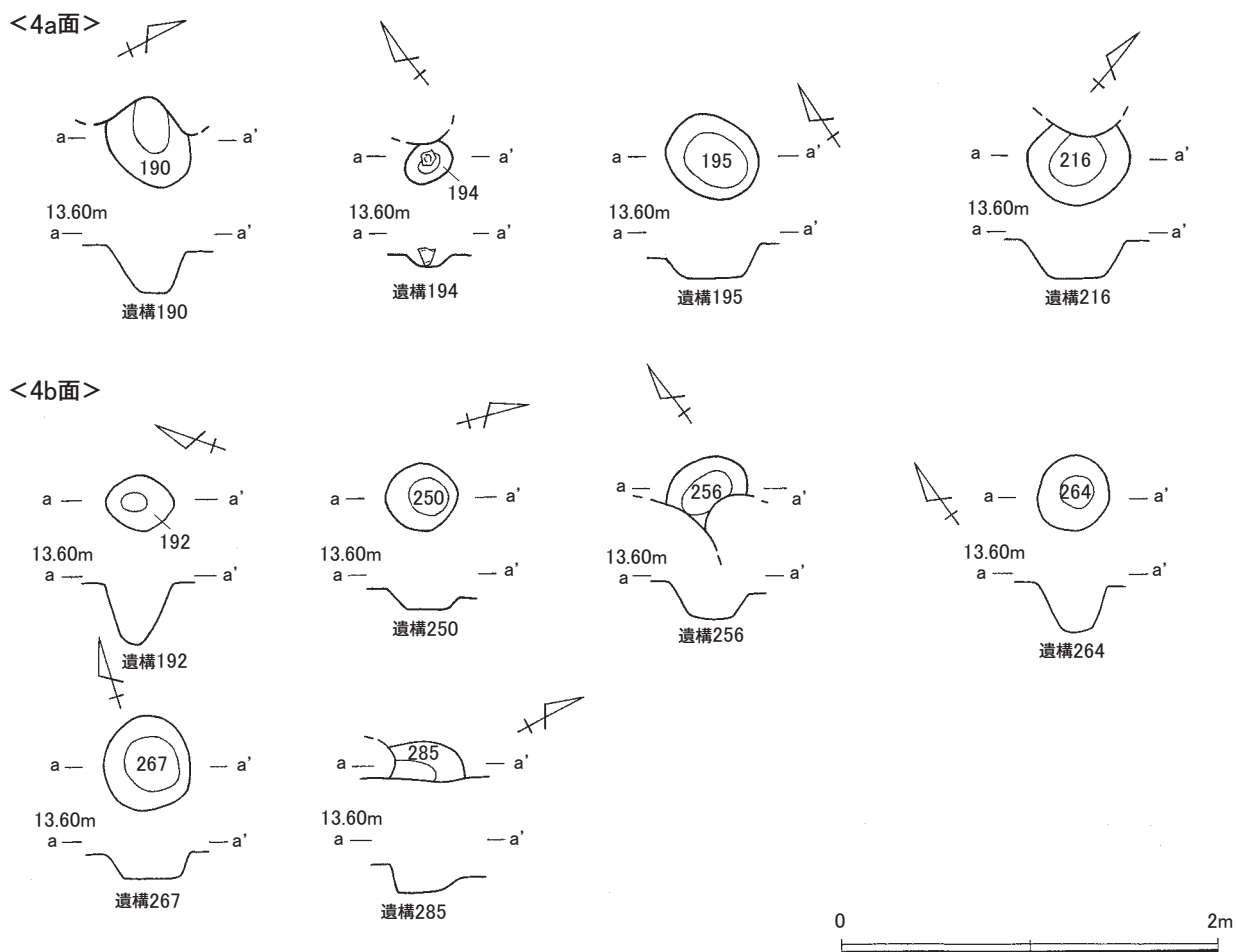


図31 第4面各遺構

遺構219 (図30)

個別に図示はしていない。遺構210・211・218に切られる。円形の土坑である。径52cm・深さ33cm。覆土に炭化物・褐鉄とともに焼土ブロックが多く含まれる。

遺構224 (図30)

円形のピットである。遺構212に切られる。個別の図面は報告していない。径17cm・深さ9,05cm。覆土は暗褐色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土を含む。破片で土師器甕が出土している。

・第4b面 (図30～図32)

第4b面で発見した遺構は土坑6基・ピット50穴である。遺構覆土の観察から3時期の生活面造り替えがあったことを確認している。第4a面と同様に、遺構覆土に柱痕と考えられる木質を含んだピットを確認したが、建物址を推定することはできなかった。

遺構192 (図30～図32)

円形のピットである。幅35cm×28cm。深さ33cm。覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・褐鉄を含む。出土遺物は須恵器蓋・土師器長胴甕。その他に破片で土師器坏・須恵器坏身が出土している。



#### 遺構 225 (図 30)

円形のピットである。径30cm・深さ15cm。個別に図面は報告していない。覆土は暗褐色弱粘質土・炭化物・焼土を含む。破片で土師器甕が出土している。

#### 遺構 250 (図 30～図 32)

円形のピットである。幅38cm×34cm。深さ13cm。覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩粒・青灰色砂・褐鉄を含む。出土遺物は須恵器坏身。破片で須恵器坏身が出土しているが同一個体と思われる。

#### 遺構 256 (図 30～図 32)

円形のピットである。上層の遺構に壊され、規模は不明。深さ20cm。出土遺物は土師器坏。その他に破片で土師器甕が出土している。

#### 遺構 264 (図 30～図 32)

円形のピットである。幅40cm×37cm。深さ27cm。覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩粒・青灰色砂・褐鉄を含む。出土遺物は土師器壺。

#### 遺構 267 (図 30～図 32)

円形のピットである。幅47cm×45cm。深さ12cm。覆土は暗青灰色弱粘質土・泥岩粒・炭化物・青灰色砂を含む。出土遺物はかわらけ・鉄製品・釘。その他に破片でかわらけ・土師器坏・土師器甕・須恵器瓶類が出土している。

#### 遺構 277 (図 30)

土坑である。幅42cm×36cm・深さ16cm。個別に図面は報告していない。覆土は暗褐色弱粘質土・炭化物泥岩粒・焼土を多く含む。破片で土師器坏・土師器甕・須恵器坏が出土している。

#### 遺構 285 (図 30～図 32)

上層の遺構に壊されており、形状、規模は不明。ピットである。深さ15cm。覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩粒・褐鉄・有機質土を含む。出土遺物は土師器坏。その他に破片で土師器甕が出土している。

#### ・第4面面上出土遺物 (図 32)

第4面は明茶褐色粘質土上で確認した。第4面になると中世以前の遺物が多く出土しているが、出土した遺物の年代は幅があり、上層の遺構によって地業および、遺構が攪乱されたと考えている。15は土師器甕。8世紀後葉以降の武蔵型。16は土師器甕の特殊品か。胎土は相模型坏に近似している。17は灰釉陶器碗。K 90号窯式段階と推定される。実測点数は3点と少ないが、破片でかわらけ・土師器坏・土師器甕・須恵器坏身・須恵器瓶類が出土し、出土点数も多い。

#### ・第4面構成土出土遺物 (図 32)

第4面構成土は暗褐色弱粘質土。有機質土・炭化物・青灰色砂を含み、褐鉄が多く混入する固く締まった堆積層である。遺構覆土は大きく3時期に分かれる。18～22は土師器。18は坏。二次焼成によって器壁が炭化。古墳時代後期。19は盤状坏。体部内面に放射状の暗文。20は小型甕。21・22は甕。武蔵型に近い胎土を有するが産地不明。23・24は須恵器。23は坏。内面部分的に自然降灰あり・南武蔵窯 G 5号形式。24は甕。内面に自然降灰が見られた。25・26は灰釉陶器碗。25は内外面回転ナデ・外面灰釉を薄く刷毛塗り・K 90号窯式。26は内底部に擦り・刻線、周辺に削りだしの痕跡残る。O 53号窯式か。破片で土師器坏・土師器甕・須恵器瓶類・緑釉陶器が出土している。構成土からは中世遺物の出土がなく、総体的に出土遺物量が減少する。



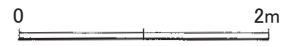
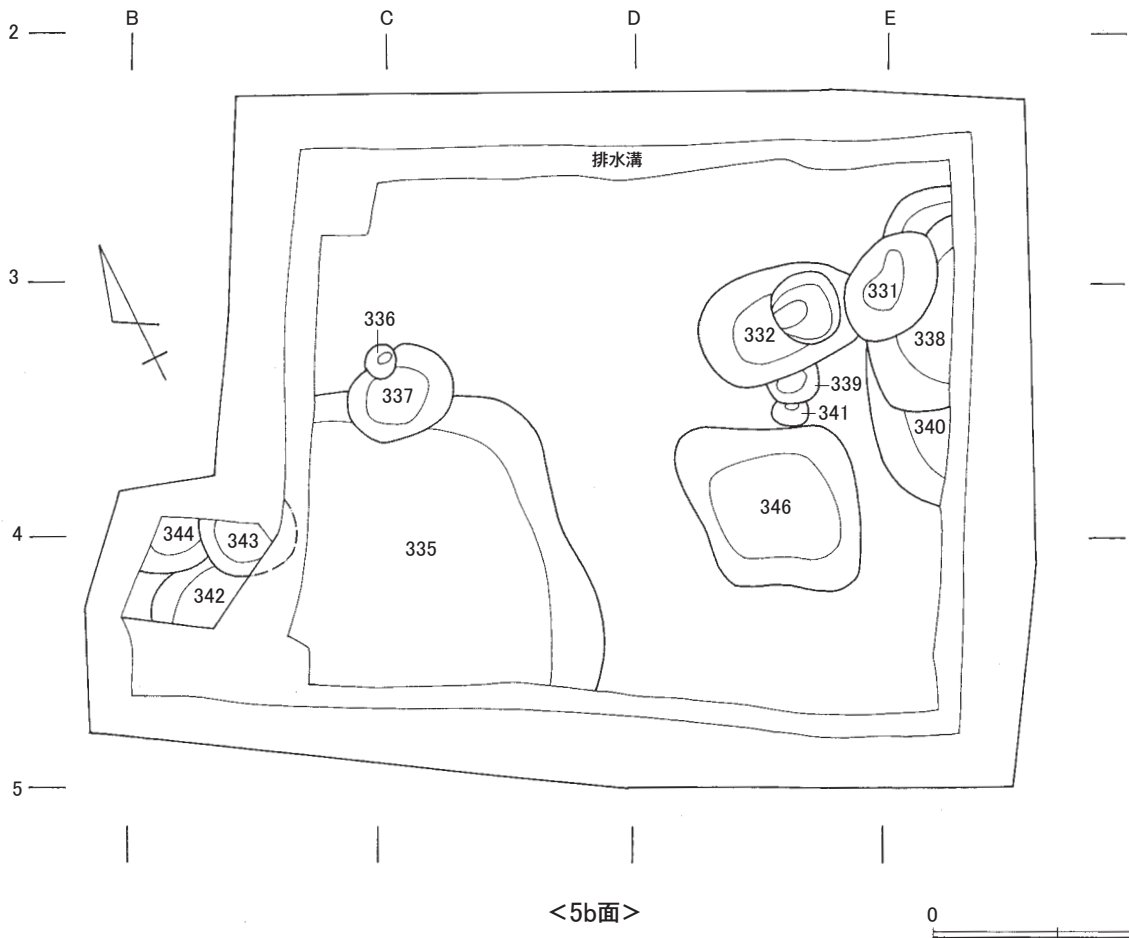
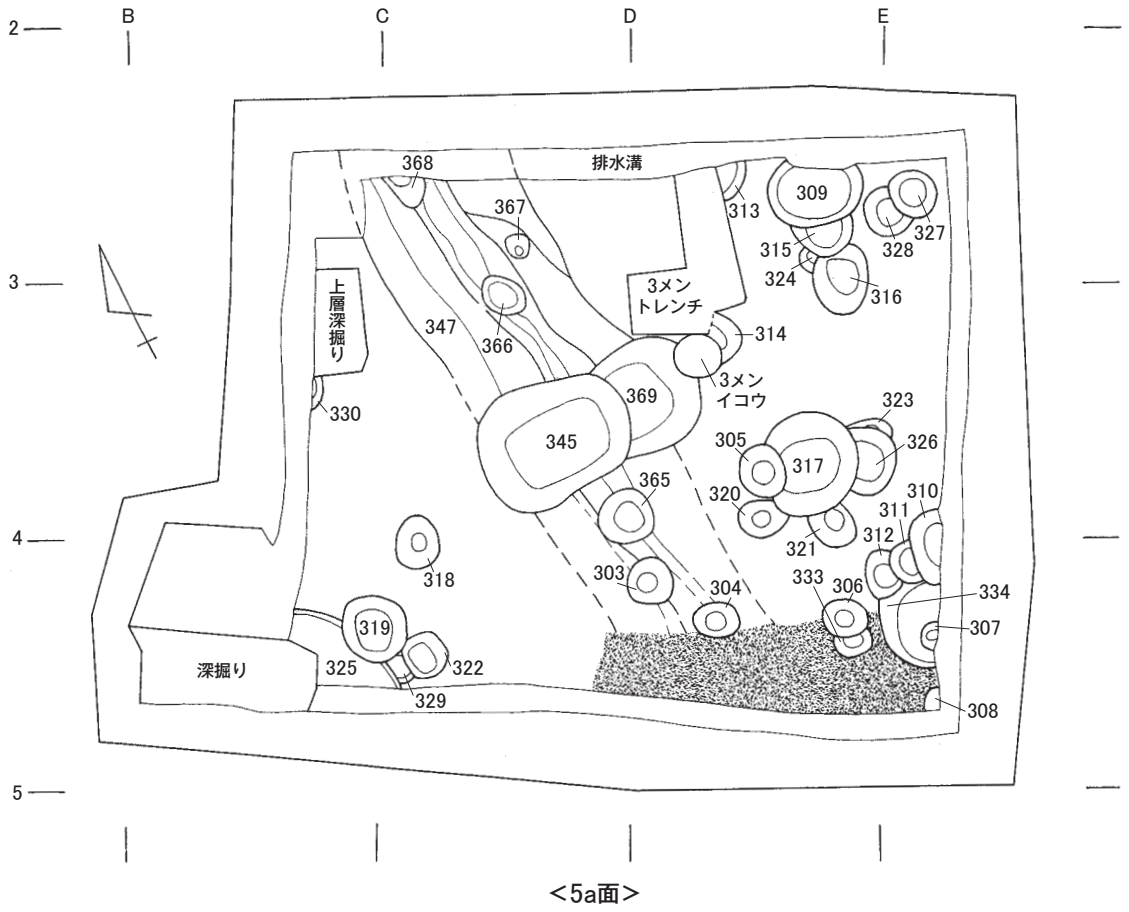


図33 第5面全測図

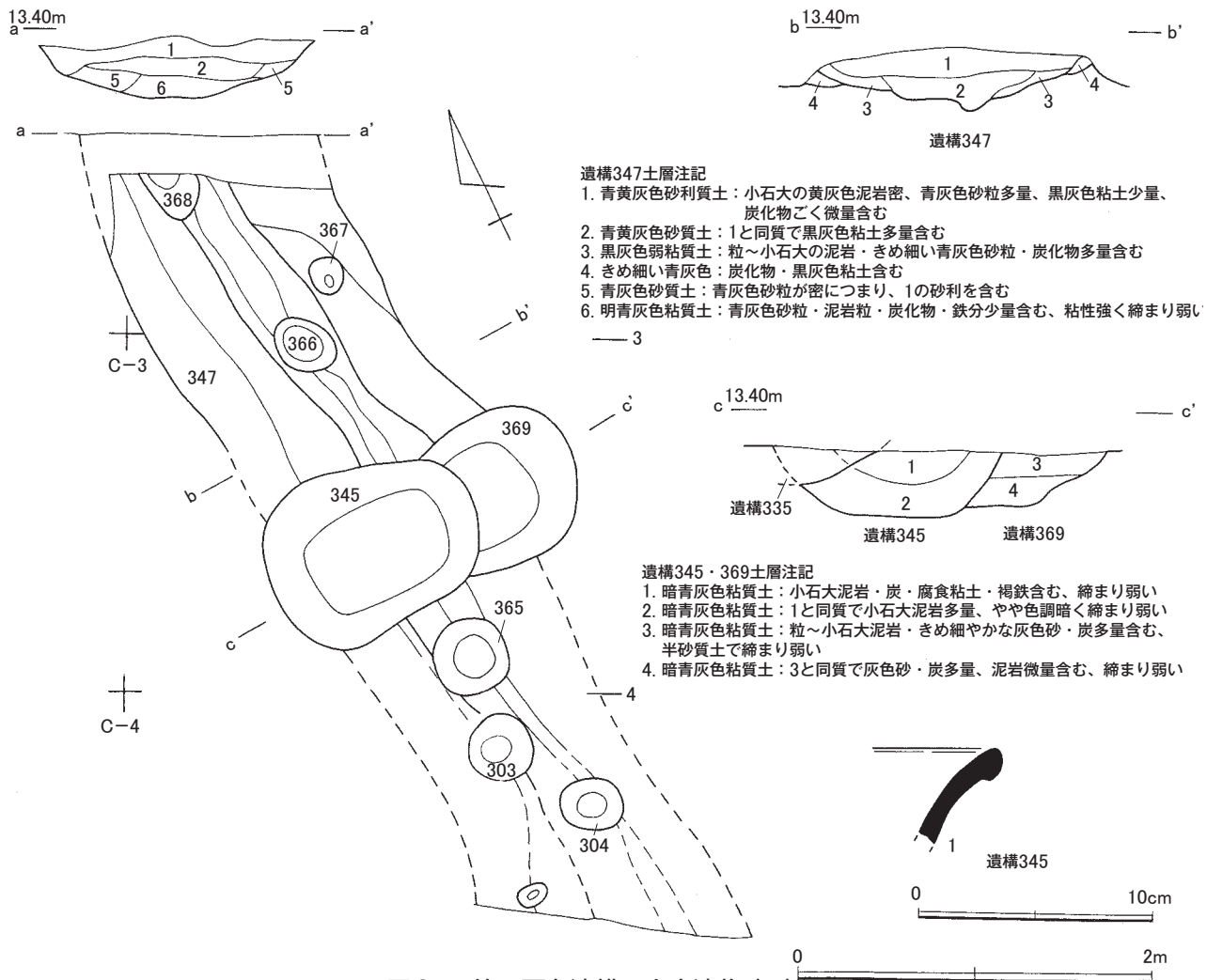


図34 第5面各遺構・出土遺物(1)

## 5. 第5面の遺構と遺物 (図33～図36)

### ・第5a面 (図33～図36)

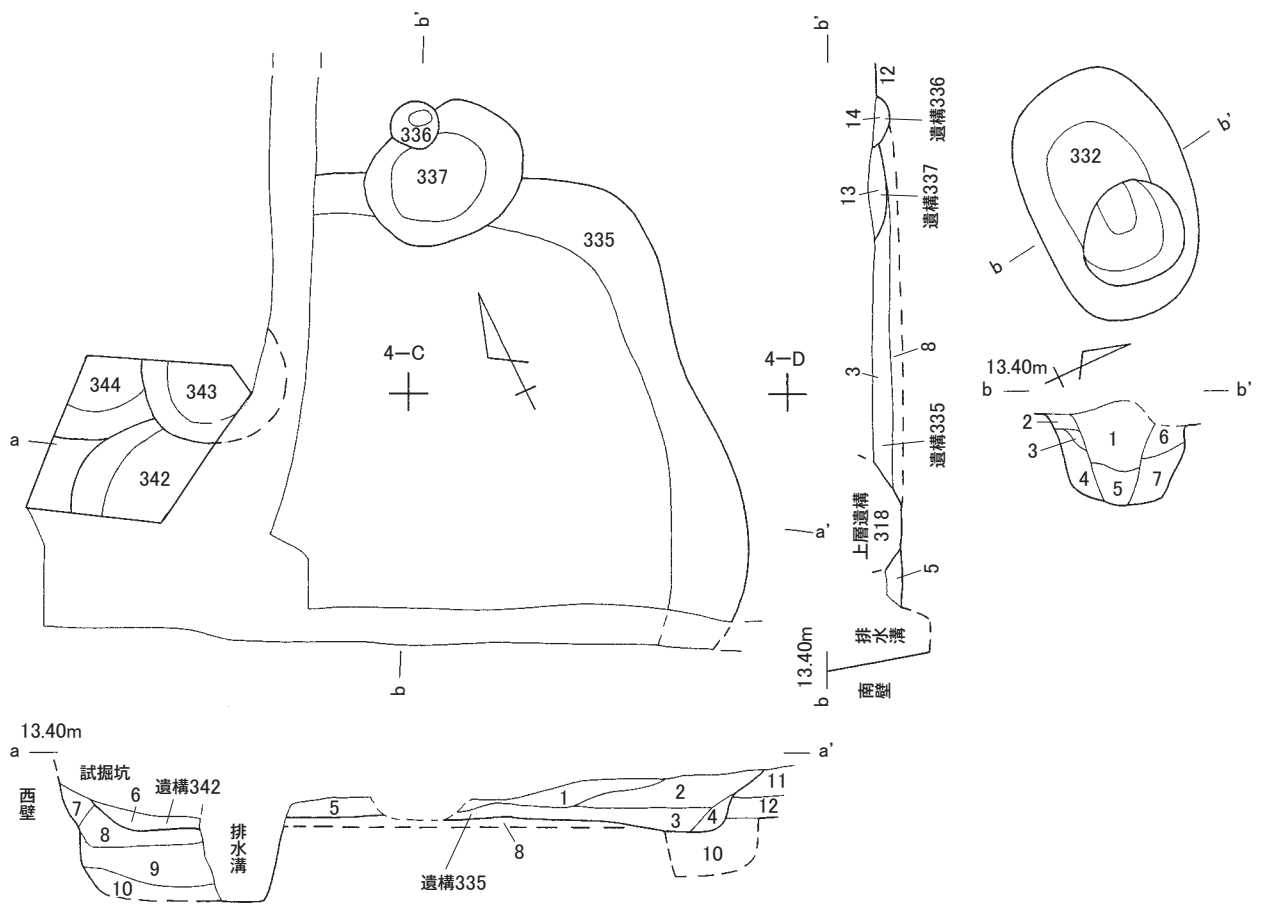
第5面は褐鉄を多く含む黒褐色粘質土上で確認した。遺構確認レベルは海拔13,30m。第5面も遺構の切り合いからa・bの2期に分けている。第5a面で発見した遺構は溝状遺構1条・土坑5基・ピット32穴。3時期の遺構の切りあいを確認した。第5a面では調査区南東部に泥岩・泥岩粒・炭化物・砂礫を含む青灰色砂質土の地業層が一部遺存していたが、同期に示した溝状遺構(遺構347)を埋める形で地業層が堆積している。第5面構成土上層は青灰色弱粘質土。褐鉄を多く含む堅く締まった粘土質の層が堆積していたが、下層は玉石・礫を多く含み、川砂に似た土質であった。

### 遺構345 (図33・図34)

隅丸方形の土坑である。幅123cm×92cm。深さ40cm。遺構347・369を切る。覆土は暗青灰色粘質土・有機質土・青灰色砂質土・砂礫・炭化物・泥岩粒・泥岩を多くを含む。出土遺物は須恵器甕。その他に破片で土師器坏・土師器甕が出土している。

### 遺構347 (図33・図34)

溝状遺構である。遺構北側は調査区外に延び、南側は上層の地業によって壊されてしまっていたために規模は不明。残存値で長さ(495)cm。幅130cm。深さ約40cm。覆土は暗青灰色弱粘質土・褐色砂質土・

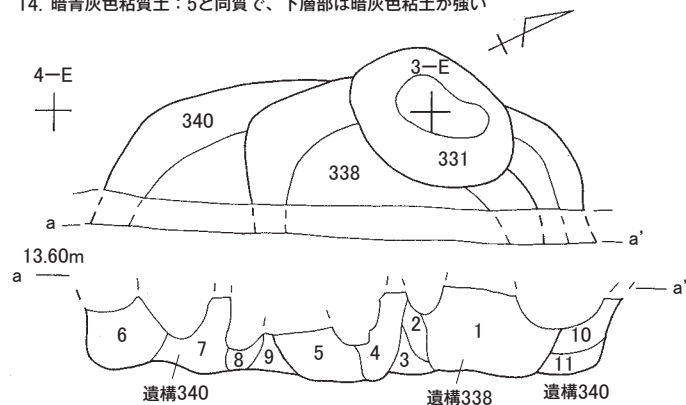


遺構335・336・337土層注記

1. 暗青灰色粘質土：炭化物多量、粒～小石大の泥岩少量含む、山砂・腐食土含み締まり弱い
2. 暗青灰色粘質土：1と同質で炭化物少なく、締まりあり
3. 明青灰色粘質土：粒～小石大の泥岩・炭化物少量含む、締まりややあり
4. 青灰色砂質土：11と同質で小石大泥岩・破碎砂岩・炭化物つまる
5. 暗青灰色粘質土：2と同質で含有物微量含む
6. 暗青灰色弱粘質土：きめ細かい青灰色砂粒・粒～小石大の泥岩・炭化物・腐食粘土多量含む
7. 暗灰色粘質土：泥岩粒・炭化物少量含む
8. 青灰色粘質土：6より粘性強い、黒灰色粘土多量、泥岩粒・炭化物・青灰色砂粒微量含む、締まりあり
9. 黒灰色粘質土：小石大の泥岩・青灰色砂粒微量含む、締まりあり
10. 黒灰色粘質土：固く締まる
11. 青灰色砂利地業土
12. 青灰色弱砂質土：きめ細かい青灰色砂粒多量、泥岩粒・炭化物少量含む
13. 明青灰色粘質土：3と同質で粒～小石大の泥岩多量、炭化物・腐食粘土含む
14. 暗青灰色粘質土：5と同質で、下層部は暗灰色粘土が強い

遺構332土層注記

1. 暗灰褐色粘質土：上層鉄分化激しい、炭化物・黒色粘土塊・粒～小石大泥岩・腐食鉄分・焼土多量含む、締まりあり
2. 暗灰褐色粘質土：1と同質で、鉄分少なく締まり弱い
3. 暗灰褐色粘質土：焼土・炭化物多量、粒～小石大泥岩・鉄分含む
4. 暗灰褐色粘質土：3と同質で炭化物・遺物片多量、焼土・鉄分微量含む、やや締まりあり
5. 黒灰褐色粘質土：1より黒色粘土塊多い、小石大泥岩・炭化物多量含む、鉄分化少なくやや締まりあり
6. 暗灰褐色粘質土：1と同質で鉄分化激しい、粒～小石大泥岩・炭化物・腐食鉄分多量含む、締まりあり
7. 暗灰褐色粘質土：6と同質で鉄分化・炭化物多量含む、粘性強くやや締まりあり



遺構338・340土層注記

1. 黒茶灰色粘質土：小石大泥岩・炭化物・腐食粘土少量含む、一部褐鉄化激しく締まりあり
2. 黒灰色粘質土：炭化物・腐食鉄分多量含む、締まり弱い
3. 黒茶灰色粘質土：1と同質
4. 黒褐色粘質土：灰色砂・泥岩粒多量、小石大泥岩・遺物片微量含む、褐鉄化激しく締まりあり
5. 黒茶灰色粘質土：1・3と同質で、鉄分多く固く締まる
6. 黒褐色粘質土：鉄分・泥岩粒・灰色砂・暗茶灰色砂利多量含む、底部褐鉄化激しく締まりあり

7. 黒茶灰色粘質土：炭化物・灰色砂・泥岩粒多量、焼土微量、拳大泥岩数点含む、締まりあり
8. 黒茶灰色粘質土：灰色砂・腐食鉄分（一部褐鉄化）・炭化物多量含む
9. 茶褐色粘質土：小石大泥岩・炭化物・泥岩粒微量含む、褐鉄化激しく固く締まる
10. 黒灰色粘質土：茶灰色粘土・灰色砂やや多量、炭化物・小石大泥岩微量含む、締まりあり
11. 黒茶灰色弱粘質土：小石大泥岩・灰色砂・炭化物多量含む

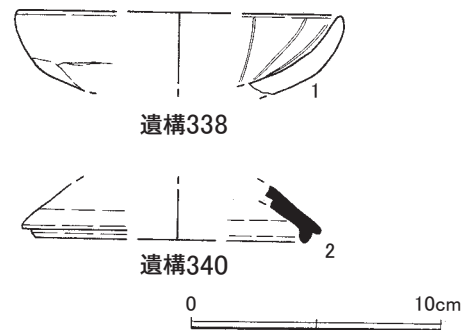


図35 第5面各遺構・出土遺物(2)

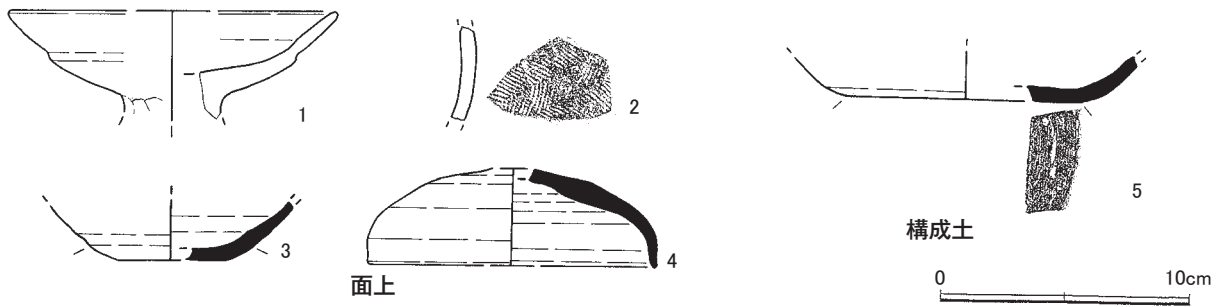


図36 第5面面上・構成土出土遺物

炭化物・泥岩粒・褐鉄・茶色有機質土を含む。下層に細粒子の青灰色砂が堆積。破片で土師器甕が出土している。自然流路か。

#### 遺構365 (図33・図34)

円形のピットである。径42cm。深さ15cm。覆土は暗の褐色粘質土・泥岩粒を含む。前述した遺構347に付属する遺構の可能性もある。溝状遺構347中央では遺構365の他に、北から遺構368・366・365・304のピットを確認している。遺構366と365の間は、上層の遺構345に切られて不明となってしまったが、それぞれのピットの芯芯間距離は、約115cmと規則的であった。柱穴であった可能性も考えている。遺構365を含む、それぞれのピットから出土遺物はない。

#### 遺構366 (図33・図34)

楕円形のピットである。幅35cm×30cm。深さ5cm。覆土は暗褐色粘質土・泥岩粒を含む。遺構365と同様に遺構347に付属する遺構と考えている。出土遺物はない。

#### 遺構369 (図33・図34)

楕円形の土坑である。溝状遺構347を切っている。また遺構345に切られ規模不明。残存値で幅(88)cm×(56)cm。深さ35cm。覆土は青灰色粘質土・炭化物・褐鉄・泥岩粒を含む。出土遺物はない。

### ・第5b面 (図33～図36)

第5b面で発見した遺構は土坑6基・ピット7穴。2時期の遺構の切りあいを確認した。褐鉄・砂礫を含む暗青褐色粘質土上で検出した。発見した土坑は不整形な、やや大型の土坑が主となる。

#### 遺構332 (図33・図35)

楕円形の土坑である。幅132cm×885cm。深さ64cm。覆土は暗灰褐色粘質土・褐鉄を多く含み、炭化物・茶色有機質土を含む。破片で手づくね・土師器坏・土師器甕が出土している。

#### 遺構335 (図33・図35)

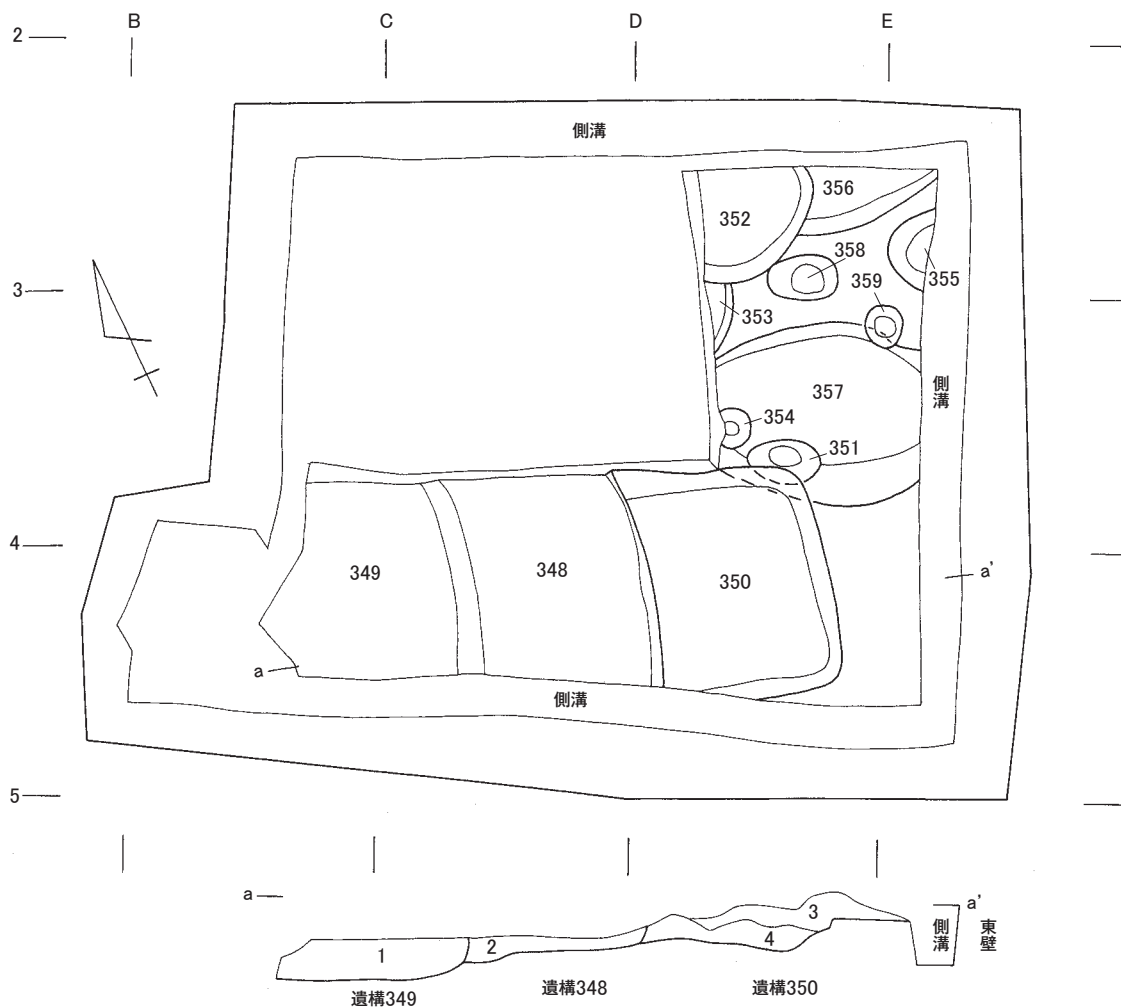
方形の土坑である。調査区外に遺構が延びており正確な形状不明。残存値で幅232cm×230cm。深さ35cm。遺構337に切られる。覆土は暗青灰色粘質土・多量の炭化物・泥岩粒・茶色有機質土を含む。出土遺物はない。

#### 遺構336 (図33・図35)

円形のピットである。幅25cm×25cm。深さ30cm。覆土は明青灰色粘質土・泥岩粒・炭化物を含む。下層に暗青灰色有機質土が堆積。出土遺物はない。

#### 遺構337 (図33・図35)

楕円形のピットである。幅88cm×67cm。深さ11cm。覆土は明青灰色粘質土・泥岩粒・炭化物・茶色有機質土を含む。出土遺物はない。



遺構348・349・350土層注記

1. 暗青灰色弱粘質土 0.1~0.3cm大の泥岩少量、青灰色砂混じる、粘性なし、締まりややあり  
 2. 暗青灰色弱粘質土 1と同質で砂・泥岩粒多い、粘性なし、締まりややあり  
 3. 暗灰色砂質土 0.1~0.3cm大の泥岩・褐鉄少量  
 4. 暗青灰色弱粘質土 0.1cm大の泥岩少量、粘性なし、締まりあり

図37 第6面全測図



遺構338 (図33・図35)

調査区外に遺構が延びてしまっているため正確な形状・規模は不明。残存値で幅(152)cm×(68)cm。深さ49cm。土坑である。覆土は黒褐色粘質土・焼土・褐鉄・泥岩粒・炭化物を含む。報告した土師器坏(図35-1)は遺構底面で発見した。その他に破片で土師器坏・土師器甕が出土している。

遺構339 (図33・図34)

遺構332に切られる。円形のピットである。径44cm。深さ22cm。覆土は暗茶褐色粘質土・褐鉄・黒色粘土を含む。破片で土師器坏・土師器甕・須恵器壺甕瓶類が出土している。

遺構340 (図33・図35)

調査区外に遺構が延びており、正確な形状・規模は不明。残存値で幅(256)cm×(64)cm。深さ40cm。土坑である。覆土は黒褐色粘質土・泥岩粒・焼土を含む。出土遺物は須恵器坏蓋。見受けかえり部を有する7世紀中葉頃の湖西窯。その他に破片で土師器坏・土師器甕が出土している。

・第5面面上出土遺物 (図36)

灰茶褐色粘質土上で発見した。1は古墳時代後期の土師器高坏。内面に赤彩が施される。3は7世紀

前葉頃の須恵器坏。4は須恵器坏蓋。陵や段のない摘みを有しないタイプで、6世紀後葉～7世紀前葉頃の湖西窯と推定される。出土遺物はかわらけ(小)の破片が9個・その他に破片で土師器坏・土師器甕・須恵器坏身・須恵器坏蓋・須恵器瓶類が出土している。遺構、面上を合わせても出土遺物量は減少する。

#### ・第5面構成土出土遺物(図36)

第5面構成土は砂礫・玉石・砂を多く含み、河底の堆積土に近似する。5は須恵器坏。底部は全面もしくは周縁回転ヘラケズリ調整、胎土に白色針状物質を含む。Ma2号窯式と推定される。構成土からの遺物出土は破片で出土した遺物を加えても僅少であった。破片で土師器坏・土師器甕が出土している。

### 6. 第6面(図37)

調査の過程で生じた廃土の処理を調査地内で行うことが難しくなったことと、調査区底面からの湧水が激しく全域を掘り下げての作業に危険が伴うようになったため、調査区南壁と東壁に沿ってL字状に掘り下げ、黒褐色粘質土上で遺構を確認し第6面とした。遺構確認レベルは海拔13,00m。発見した遺構は土坑7基・ピット5穴である。調査区北東部では、不正円形の土坑が切りあって発見されたが、遺構覆土は泥岩粒・少量の炭化物・褐鉄を含む暗茶褐色粘質土であり、それぞれの遺構覆土は近似していた。調査区南部では調査区壁に沿って段状に西に向かって下がっていく様子を確認した。図面上では、遺構348・遺構349・遺構350と分けて報告しているが、遺構ではなく緩やかな斜面堆積の痕跡であったと捉えている。第6面では面上・遺構・構成土からの出土遺物はない。構成土は黒褐色粘質土・褐鉄・砂礫・堅く締まった黒色粘土を含む。

また、同一図面上に報告したが、遺構357は第6面構成土下層の明青灰色砂質土上(堆積土層図93層)で発見した土坑である。覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩粒を含む。調査には至らなかったが、第6面下層にも生活層があったことを示唆する遺構である。

#### ・試掘坑・表採出土遺物(図38)

調査地表採遺物と、試掘坑から出土した遺物はまとめて、図38と観察表に報告している。

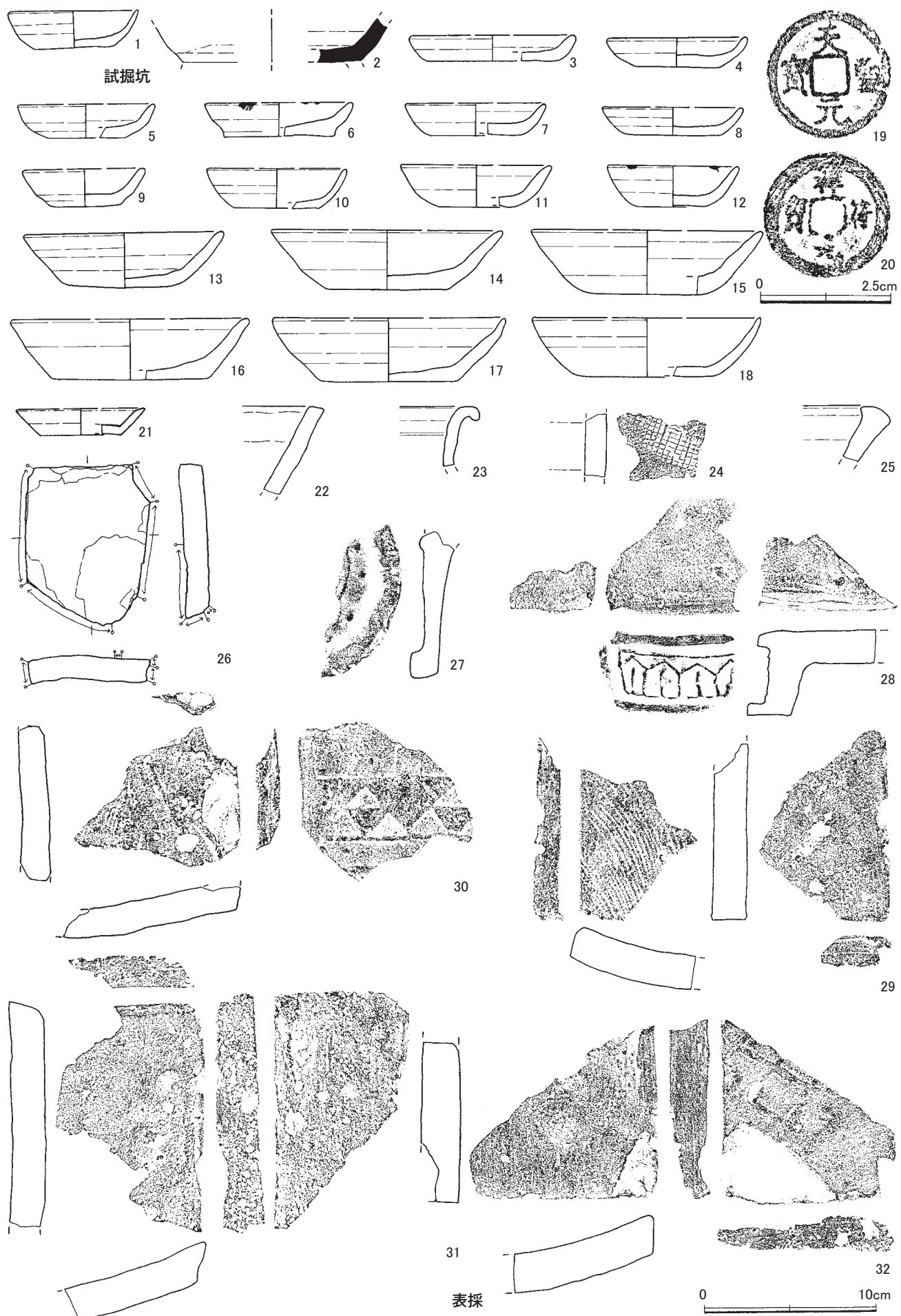


図38 試掘坑・表採出土遺物

### 第三章 まとめ

調査地北側の天神山、山腹には荏柄天神社が建ち、社殿を下る石段下西側に本調査地は位置する。遺跡地前には南北に天神社参道が六浦道（県道金沢鎌倉線）まで延びている。昭和11年（1936）荏柄天神社下西側の民家の井戸掘り作業中に、地表下3mの深さの砂層から諸磯b式・阿玉台式の土器片や打製石斧・凹石・獣骨片等が出土した記録から、本調査地周辺には縄文前期・中期に古鎌倉湾の海浜上の遺跡地があったと考えられている。

以下検出した遺構・遺物について簡単なまとめを行いたい。

#### 検出した遺構と遺物

約70cmの厚さで堆積していた表土を取り除き、泥岩・泥岩粒を含む堅く締まった暗茶褐色弱粘質土上で第1面を確認した。本報告では遺構検出面を6面に分け、またそれぞれの面をa・bの2期に分けて報告しているが、それぞれの確認面で複数回の生活面造り替えが行われ、繁雑に遺構が切りあって発見された。

第1 a面は海拔14, 20mで確認した。発見した遺構は溝1条・土坑4基・ピット31穴である。調査区の西半分は大きく現代埋土によって削平を受け、調査区東側のみの確認となった。調査区東側で硬く締まった地業を発見している。調査区外に地業が延びてしまっていたために規模は不明となったが、遺存値で南北方向に約500cm・東西方向に約120cmを測る。地業の西に平行した溝状遺構（遺構82）と、地業に沿った形で不整形ではあるが凝灰岩が遺存していたことや、地業表面が比較的丁寧に突き固められていたこと等から道路地業であった可能性も考えた。発見した遺構は地業を掘りこむ形で確認している。出土遺物の遺物は、かわらけの他に瓦の出土量が多く、男瓦・女瓦・鍔瓦・宇瓦・鬼瓦・雁振瓦・道具瓦と種類も多いが、瓦の年代は永福寺I期～永福寺III期に比定される瓦と鶴岡八幡宮境内出土瓦と同様の瓦が混在しており、年代に幅がある。

第1 b面で発見した遺構は土坑5基・ピット37穴である。遺構内に根固めに使用したと思われる泥岩を含むピット・土坑を検出したが、確認面積が狭小なため建物は推定できなかった。第1 a面では2時期の、第1 b面では4時期の生活面造り替えを、遺構の切りあい・覆土の観察から確認した。出土遺物の観察から第1面は概ね14世紀代の年代が与えられるが、第1面構成土中から器壁が厚く、側壁が外反するタイプのかかわらけが1点出土しており、15世紀代まで下る可能性もある。中世以降の攪乱や削平によって遺物の年代に混乱が起きたのかもしれない。

第2 a面は海拔14, 10mで確認した。発見した遺構は基壇状遺構・溝状遺構1条・方形土坑8基・ピット6穴である。基壇状遺構は上層の遺構に壊され一部しか遺存していなかったが、調査区東壁・南壁の土層堆積で基壇状に破碎泥岩を含む堅く締まった地業が盛り上がることを確認した。基壇状遺構の西側には、数基の方形土坑が検出された。方形土坑からの出土遺物はかわらけが中心であり、遺物から遺構の性格を測ることは出来なかった。調査区西端に方形土坑を切る形で、杭を伴う側壁が遺存する溝状の遺構を発見しているが、遺構の大半は調査区外に延びており、正確な形状・規模は不明である。

第2 b面で発見した遺構は土坑2基・ピット4穴である。第2 a面で検出した方形土坑底面に、一部ではあるが破碎泥岩を含む薄い地業が遺存していた。第2 a面で報告した基壇状の遺構に伴う地業であった可能性もある。第2 a面・第2 b面は、それぞれ2時期の遺構の切りあいを確認した。第1面と



同様に第2面でも瓦が多く出土しているが、同じく永福寺Ⅰ期～Ⅲ期と幅広い年代が与えられる瓦が混在している。出土遺物から第2面は14世紀初頭の年代が与えられる。

第3 a面は地業上の痕跡はないが、泥岩粒・褐鉄を含む硬く締まった黒褐色粘質土上で遺構を確認している。確認レベルは海拔13, 80 m。発見した遺構は土坑7基・ピット21穴である。遺構136(図22)のように礎板を検出し、覆土内に木質痕が残るピットを確認したが、調査区の東側に遺構が延びており、建物址を推定することはできなかった。

第3 b面で発見した遺構は建物址・土坑7基・ピット7穴である。調査区北側で発見した建物址(遺構162)は、覆土内に礎板・礎板状の板材を検出したこと等から柱建ての建物だったと考えているが、調査区外に遺構が延びてしまっていることや、上層の遺構に大きく削平されていたため正確な形状・規模等に不安が残る。覆土内からは、報告した以外に多くの木製品破片が出土している。出土した木製品は、箸・折敷・漆器椀・漆器皿・草履などで生活痕を感じさせる。第3 a面・第3 b面ではそれぞれ2時期の生活面の造り替えを、遺構の切りあい・覆土の観察から確認した。出土遺物の観察から第3面は13世紀第4四半期の年代が与えられる。

第4 a面は明茶褐色粘質土上で確認した。確認レベルは海拔13, 50 m。第4 a面で発見した遺構は土坑4基・ピット71穴。第4 b面で発見した遺構は土坑6基・ピット50穴である。第4面は繁雑にピットが切りあい第3面と大きく遺構の検出状況が異なる。また出土遺物量は大幅に減少し、中世遺物はかわらけが面上・遺構出土の破片を入れても僅か10点の出土であり、古代遺物が中心となる。第4 a面・第4 b面では、遺構覆土内に柱痕と思われる有機質土を確認したピットを検出しているが、建物の推定は出来なかった。また、それぞれ3時期の生活面の造り替えを、遺構の切りあい・覆土の観察から確認した。出土遺物の観察から第4面は13世紀前半の年代が与えられる。

第5面は海拔13, 30 mで確認した。第5 a面は褐鉄を多く含む堅く締まった暗茶褐色粘質土上で、地業・南北に走る溝状土坑1基・土坑5基・ピット32穴を発見した。地業は調査区南でわずかに残り、自然流路と考えている溝状土坑(遺構347)を埋めている。第5 b面は第5 a面の構成土下層、暗青褐色粘質土上で確認した。発見した遺構は土坑6基・ピット7穴である。出土遺物は調査区東側で確認した遺構332で手づくね大型13個・小型2個が破片で出土しているが、第4面と同様に古代遺物の出土が中心となり、出土量はさらに減少する。第5 a面では3時期の、第5 b面は2時期の生活面の造り替えを、遺構の切りあい・覆土の観察から確認した。出土遺物の観察から第5面は13世紀初頭の年代が与えられる。

第6面は調査区東壁と南壁に沿ってL字状に掘り下げて黒灰色粘質土上で確認した。確認したレベルは海拔13, 00メートルである。土坑7基・ピット5穴を発見したが、調査区南壁側で発見した方形の土坑3基は、遺構ではなく緩やかな斜面堆積の痕跡と考えている。調査区東側で、土坑・ピットなどの遺構を確認することは出来たが、面上・遺構・構成土のいずれからも出土遺物がないために年代の比定が難しい。

調査区東壁側で確認した遺構359は、第6面構成土下層に堆積する明青灰色砂質土上で発見した土坑である。第6面下層にも生活層があったと考えられる。

第6面検出後、調査区壁東南角を深掘りして、中世の地山層と思われる青灰色砂・灰色粘土・砂礫を含む明青灰色砂質土を確認した。確認レベルは海拔12, 60 m。第6面検出面から、地山層までの間に出土遺物はない。

## まとめにかえて

遺構の変遷を遡ると、中世地山層と考えている海拔12, 60 mの土層から、第6面とした生活面までの間に出土遺物がなく年代を比定する資料に不安がのこるが、第5面の出土遺物に古代遺物が中心ではあるが、遺構覆土から手づくね破片がまとまって出土していることから、第6面は13世紀初頭を遡らないと判断した。13世紀前半の早い時期(第5面)に調査地には生活痕が残され、第4面の13世紀半ばごろには短期間で複数回の建物、あるいは場の造り直しを行い、遺跡地の活発な営みを感じさせる。第3面の13世紀後半になると調査区の様相は大きく変わり、第4面で柱穴と考えるピットが、煩雑に切りあっていた場に方形の土坑が並び、出土遺物も多種になり量も増加する。場としての営みが活発となり、明らかに前代とは異なる使われ方をしているようである。また、その様相も14世紀前半になると地業を重ね、柵列を伴う溝が作られ、泥岩を根固めに持つピットが煩雑に切りあい、何度かの建物址の造り替えが行われる。出土遺物からは多種・多量の瓦の出土を見、調査地を含む周辺に寺社の存在を窺わせた。第1面とした土層上層には、遺構の確認は出来なかったが、近世遺物を含む薄い堆積層が観察された。

## 引用・参考文献

- 日本歴史大系第14巻 平凡社 1984年刊  
鎌倉市史 考古編 吉川弘文館 昭和42年刊  
鎌倉市史 社寺編 吉川弘文館 昭和54年刊  
鎌倉廃寺事典 貫達人 川副竹胤 有隣堂 平凡社1984年刊  
鎌倉事典 白井永二 平成4年刊  
愛知県史(別編 窯業2 中世・近世 瀬戸系) 愛知県史編さん委員会 愛知県 平成19年刊  
愛知県史(別編 窯業3 中世・近世 常滑系) 愛知県史編さん委員会 愛知県 平成19年刊  
大宰府条坊跡XV(陶磁器分類編) 大宰府市教育委員会 平成12年刊  
永福寺跡-遺物編・考察編-(国指定史跡永福寺跡環境整備事業に係る発掘調査報告書) 鎌倉市教育委員会 平成14年刊  
宮久保遺跡Ⅲ(県立綾瀬西高等学校建設に伴う調査) 國平健三、他 神奈川県立埋蔵文化財センター 1990年刊

出土遺物観察表

図版番号	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
			単位: cm/( ) : 復元値			
図7-1	第1a面 遺構82	かわらけ	(8.8)	5.0	1.8	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含むやや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好
2		かわらけ	7.4	4.9	1.7	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒・礫を含む砂質粗土 色調: 橙色 焼成: 良好
3		かわらけ	(7.4)	(5.1)	2.0	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・土丹粒を含む粉質気味やや粗土 色調: 橙色 焼成: 良好
4		かわらけ	(7.8)	(5.7)	1.9	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含む砂質気味粗土 色調: 橙色 焼成: 良好
5		かわらけ	(7.0)	(4.6)	1.9	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・土丹粒を含む粉質気味やや粗土 色調: 橙色 焼成: 良好
6		かわらけ	6.8	4.2	2.2	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨芯・土丹粒を含む粉質気味やや粗土 色調: 橙色 焼成: 良好
7		かわらけ	(7.3)	(4.1)	2.1	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂多・赤色粒・黒色粒・土丹粒・礫を含む砂質粗土 色調: 橙色 焼成: 良好
8		かわらけ	(11.5)	(6.8)	2.9	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土: 微砂・雲母・赤色粒を含む粉質良土 色調: 橙色 焼成: 良好
9		かわらけ	(11.8)	(7.7)	3.2	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含む粉質粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好 備考: 口唇部に煤付着・灯明皿
10		かわらけ	(13.4)	8.7	3.8	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含む砂質やや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好 備考: 口唇部に煤付着・灯明皿
11		かわらけ	(13.6)	(7.6)	3.0	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含むやや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好
12		瓦質燭台	軸のみ: 残長8.9×最大径3.5			縦方向のミガキと黒色処理 胎土: 灰桃色 黒色粒・白色粒・赤色粒の粗砂交じり 色調: 黒灰色 焼成: 軟質 備考: 軸上部に雷文を配す
13		備前窯転用 摩耗陶片?	口縁部片			輪積み成形 胎土: 灰褐色 微砂・白色粒・礫を含む 色調: 明茶褐色 焼成: 良好・硬質 備考: 15c代の製品か? 口縁部に自然降灰・内外面へ断面摩耗
14		巴剣頭文 鏡瓦	瓦当径(13.0)			外区内縁に剣頭文を配した右廻り巴文・瓦当面に離れ砂 胎土: 灰白色 粗砂を含むやや粗土 色調: 灰色～黒灰色 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅲ期以降
15		巴文 鏡瓦	瓦当径(10.0)			外区内縁に小さな珠文を配し圈線を伴う右廻り巴文 胎土: 灰色～黄褐色 粗砂を含むやや粗土 色調: 黄褐色 焼成: 甘く・やや軟質 備考: 瓦当径が小振り・永福寺Ⅲ期以降
16		剣頭文 字瓦	瓦当部幅3.7×内区幅1.8			陽刻の上向き剣頭文・界線は上のみ・瓦当面に離れ砂 胎土: 灰白色 粗砂・小石粒を含む粗土 色調: 黒灰色 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅲ期以降
17		男瓦			2.5	凸面は縄目叩き・凹面は布目痕 胎土: 精良 色調: 暗灰色 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅰ期
18		女瓦			2.4	凸面は横線と何かの組み合わせ文? →凹凸面共に不規則ナデ+離れ砂付着 胎土: 灰白色 粗砂・小石粒・気泡を含む粗土 色調: 黒灰色 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅱ期
19		女瓦			2.3	凸面は斜格子文・凹凸面共にナデ+離れ砂 胎土: 色調と共に淡灰色 粗砂・小石粒・気泡を含む粗土 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅱ期
20		女瓦			2.3	凸面は斜格子文+「大」・凹面縦位ナデ→凹凸面共に離れ砂 胎土: 灰白色 粗砂・小石粒・気泡を含む粗土 色調: 灰色 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅱ期
21		女瓦			2.1	凸面は凹線の枠と何かの組み合わせ文? →凸凹面共に離れ砂 胎土: 色調と共に灰褐色 粗砂・小石・気泡を含む粗土 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅱ～Ⅲ期
22		女瓦			1.7	凸面は横線と何かの組み合わせ文? ・凹面にナデ→凹凸面共に離れ砂 胎土: 色調と共に灰褐色 粗砂・小石・気泡を含む粗土 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅲ期
23		女瓦			1.9	凸面は斜格子文・凹面に不規則ナデ→凹凸面共に離れ砂 胎土: 灰白色 粗砂・小石・気泡を含む粗土 色調: 黒灰色 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅲ期
図8-1	第1a面 遺構82	女瓦			1.9	凸面は斜格子文+花菱文・凹面縦位ナデ→凹凸面共に離れ砂 胎土: 灰白色 粗砂・小石・気泡を含む粗土 色調: 黒灰色 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅲ期
2		女瓦			1.7	凸面は斜格子文・凹面に不規則ナデ→凹凸面共に離れ砂 胎土: 灰色 粗砂・小石粒・気泡を含む粗土 色調: 黒灰色 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅲ期
3		女瓦			1.7	凹凸面共に不規則ナデ→離れ砂 胎土: 灰褐色 粗砂・小石・気泡を含む粗土 色調: 灰色 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅲ期
4		女瓦			1.5	凸面は斜格子文+花菱文・凹面縦位ナデ→凹凸面共に離れ砂 胎土: 灰褐色 粗砂・小石・気泡を含む粗土 色調: 黒灰色 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅲ期
5	第1a面 遺構87	かわらけ	12.9	(8.5)	3.7	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯を含む砂質気味良土 色調: 橙色 焼成: 良好
6		特大かわらけ	(16.5)	7.0	4.8	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯を含む粉質精良土 色調: 橙色 焼成: 良好 備考: 内面口縁部～外面体部に煤付着
7	第1a面 遺構88	かわらけ	(13.9)	3.0	3.4	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土: 微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含む砂質土 色調: 黄褐色 焼成: 良好 備考: 全体的に摩耗
図9-1	第1a面 遺構6	瀬戸 小壺		(3.0)		ロクロ成形・外底回転糸切痕 胎土: 灰色 黒色砂粒を含む良土 色調: 灰緑色～茶褐色の灰釉を薄くツケ掛け 焼成: 良好・堅緻 備考: 藤澤編年前Ⅱ～Ⅲ期
2	第1a面 遺構8	須恵器 坏	口縁部片			ロクロ成形 胎土: 色調と共に黒灰色 微砂・白色粒を含む緻密土 焼成: 良好 備考: 内外面口唇部に降灰あり
3	第1a面 遺構9	かわらけ	13.2	7.0	3.7	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒多・海綿骨芯・土丹粒を含むやや粗土 色調: 黄褐色 焼成: 良好
4		特大かわらけ	15.2	8.4	4.4	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含む良土 色調: 橙色 焼成: 良好 備考: 内面口縁部～外面体部に煤付着
5	第1a面 遺構10	石製品 砥石・中砥	残長7.5	6.2	4.2	砥面は上下2面使用・側面は破損の為不明 材質: 流紋粗粒凝灰岩 色調: 赤味を帯びた灰黄色 表面は水分を含み黒く変色 備考: 天草産
6	第1a面 遺構62	かわらけ	(13.9)	(8.0)	3.2	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含むやや粗土 色調: 橙色 焼成: 良好
7		瀬戸 卸皿	(13.3)			ロクロ成形 胎土: 淡黄色 混入物少ない良土 色調: 淡黄灰緑色の灰釉を薄く刷毛塗り 焼成: 良好・堅緻 備考: 藤澤編年中前期半
8		女瓦			2.0	凸面は斜格子文・凹面は凸面の斜格子文が写り込む→不規則なナデ 胎土: 色調と共に灰桃色 粗砂・小石粒・気泡を含む粗土 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅱ～Ⅲ期
9		鬼瓦			3.45	一部范の手作りで文様部分は型作りの連珠を貼付・裏面は切り離し調整痕顕著 胎土: 色調と共に灰褐色 粗砂・小石粒・気泡を含む粗土 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅱ期
図10-1	第1b面 遺構18	かわらけ転用 円盤状土製品	径3.15～3.2×厚さ0.7			かわらけ底部を転用し・円盤状に加工を施す 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯を含む粉質良土 色調: 橙色 焼成: 良好

図版番号	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ 底径/幅 器高/厚さ			観察内容	
			単位: cm/( ) : 復元値				
図10-2	第1b面 遺構21	男瓦			2.0	凸面は縦位ナデ調整・凹面は不明 胎土: 灰褐色 粗砂・小石粒・気泡を含む粗土 色調: 黒灰色～灰色 釉調: 硬質 備考: 永福寺Ⅲ期	
3	第1b面 遺構90	女瓦			2.1	凸面は斜格子・凹面は不規則ナデ→凹凸面共に離れ砂 胎土: 灰白色 粗砂・小石粒・気泡を含む粗土 色調: 灰色 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅱ～Ⅲ期	
4	第1b面 遺構29	かわらけ	(8.4)	(6.4)	1.65	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含むやや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	
5		かわらけ	8.1	4.0	2.35	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含む砂質気味やや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	
6		青白磁 梅瓶	(3.5)			ロクロ成形 素地: 灰白色 黒色粒を含む緻密土 焼成: 堅緻 釉調: 半透明な淡水青色釉を内面頸部～外面施釉	
7	第1b面 遺構40	かわらけ	7.8	4.9	1.95	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土: 微砂多・雲母・海綿骨芯・土丹粒を含む砂質やや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	
8	第1b面 遺構47	かわらけ	(7.8)	(4.2)	2.1	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・礫を含む砂質粗土 色調: 淡橙色 焼成: 良好	
9		かわらけ	9.5	5.9	2.55	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土: 微砂・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含む砂質気味粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	
10		かわらけ	11.3	5.9	3.25	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含む砂質気味良土 色調: 淡橙色 焼成: 良好	
11		かわらけ	13.2	7.4	3.45	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂多・雲母・海綿骨芯・土丹粒を含む砂質気味やや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	
12	第1b面 遺構49	男瓦			1.9	凸面は縄目叩き→不規則なナデ・凹面は不規則なナデ→離れ砂 胎土: 灰白色 精良 色調: 黒灰色 焼成: 硬質 備考: 13c後半の八幡宮タイプ	
13	第1b面 遺構59	かわらけ	(7.5)	(5.0)	1.85	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土: 微砂・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含む砂質気味粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	
14	第1b面 遺構92	かわらけ	11.7	7.2	2.75	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含む砂質気味やや粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	
15	第1b面 遺構103	かわらけ	7.8	5.0	2.3	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒多を含む砂質気味良土 色調: 橙色 焼成: 良好	
図11-1	第1面 面上	かわらけ	(7.6)	(6.0)	1.0	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯を含む良土 色調: 橙色 焼成: 良好	
2		かわらけ	(7.2)	(5.1)	1.5	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含む砂質粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	
3		かわらけ	(7.7)	(4.2)	1.7	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含む砂質やや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	
4		かわらけ	(7.8)	(4.0)	2.0	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土: 微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含むやや砂質土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	
5		かわらけ	(6.5)	(3.6)	1.8	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・土丹粒を含むやや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	
6		かわらけ	(6.3)	(4.0)	2.0	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含むやや粉質土 色調: 橙色 焼成: 良好	
7		青白磁 梅瓶	底部片				ロクロ成形 素地: 灰白色 精良緻密 釉調: 半透明な淡水色を高台置付け～外底面をのぞき外面施釉・気泡あり 焼成: 堅緻
8		瀬戸 折縁深皿	口縁部片				ロクロ成形 胎土: 黄灰色 微砂・白色粒を含む良土 釉調: 黄灰緑色の灰釉を薄く刷毛掛け焼成: 良好 堅緻 備考: 二次焼成、藤澤編年中期
9		魚住 捏鉢	口縁部片				輪積み成形 胎土: 色調と共に灰色 微砂・白色粒を含む 焼成: 良好
10		常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片				輪積み成形 胎土: 黒灰色 微砂・長石・石英を含む 色調: 暗赤褐色 焼成: 良好 備考: 中野編年6a型式
11		常滑 甕	口縁部片				輪積み成形 胎土: 色調と共に黒灰色 微砂・長石・石英を含む 焼成: 良好 備考: 内外面口縁部～外面頸部自然降灰あり、中野編年6a型式
12		常滑 甕	胴部片				輪積み成形 胎土: 色調と共に灰色 微砂・長石を含む 焼成: 良好 備考: 胴部外面に一斜線縦長格子のスタンプ文
13		石製品 砥石・中砥	残長4.5	2.6	2.0		砥面は4面使用 材質: 流紋粗粒凝灰岩 色調: 白っぽい黄色 備考: 伊予産
14		鉄釘	残長4.4	0.5	0.4		備考全体が錆で覆われている
15	銅銭	外径2.4 内径1.9				紹聖元寶? 初鑄年1094 北宋 篆書	
16	巴文 鏡瓦	瓦当部片				外区内縁に珠文を配す巴文一瓦当面離れ砂附着 胎土: 灰褐色 粗砂・小石粒・気泡を含む粗土 色調: 黒灰色 焼成: やや軟質 備考: 永福寺Ⅲ期?	
17	剣頭文 字瓦	瓦当部片				陽刻の上向き剣頭文・界線は恐らく四方、瓦当面に離れ砂 胎土: 灰白色 粗砂・小石粒を含む粗土 色調: 黒灰色 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅲ期以降	
18	剣頭文 字瓦	瓦当部片				陽刻の上向き剣頭文・界線は上のみ、瓦当面に離れ砂 胎土: 灰白色 粗砂・小石粒を含む粗土 色調: 灰色 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅲ期以降	
19	男瓦			2.7		凸面はナデ・凹面は布目痕+糸切り痕 胎土: 色調と共に灰色 粗砂・小石粒を含む粗土 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅱ期	
20	女瓦			2.9		凸面は三鱗文・凹面は横位ナデ 胎土: 灰白色 粗砂・小石粒・気泡を含む粗土 色調: 黒灰色 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅱ期	
図12-1	第1面 面上	女瓦			2.2	凸凹面共に不規則ナデ 胎土: 灰白色 粗砂・小石粒・気泡を含む粗土 色調: 灰色 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅱ期	
2		女瓦			2.1	凸面は斜格子+花菱文・凹面は不規則ナデ→凹凸面共に離れ砂 胎土: 灰褐色 粗砂・小石粒・気泡を含む粗土 色調: 黒灰色 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅱ期	
3		女瓦			2.3	凸面は斜格子文・凹面は不規則ナデ→凹凸面共に離れ砂 胎土: 色調と共に灰色 粗砂・小石粒・気泡を含む粗土 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅱ期	
4		女瓦			2.4	凸面は斜格子+花菱文・凹面は不規則ナデ→凹凸面共に離れ砂 胎土: 灰白色 粗砂・小石粒・気泡を含む粗土 色調: 灰色 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅱ期	
5		女瓦			1.8	凸面は斜格子文+横線・凹面ナデ→凹凸面共に離れ砂 胎土: 色調と共に灰色 粗砂・小石粒・気泡を含む粗土 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅲ期	
6		女瓦			1.7	凸面は斜格子+花菱文・凹面は不規則ナデ→凹凸面共に離れ砂 胎土: 色調と共に灰褐色 粗砂・小石粒・気泡を含む粗土 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅲ期	

図版番号	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
			単位: cm/( ): 復元値			
図13-1	第1面 構成土	極小内折れ かわらけ	3.2	3.0	0.5	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土: 微砂・雲母・赤色粒多を含む良土 色調: 橙色 焼成: 良好
2		かわらけ	(8.0)	(5.7)	1.7	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・土丹粒を含むやや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好
3		かわらけ	(7.7)	(5.2)	1.7	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含む砂質粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好
4		かわらけ	(8.7)	(6.9)	1.6	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土: 微砂多・雲母・海綿骨芯・土丹粒を含む粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好
5		かわらけ	(8.0)	(5.0)	2.0	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒を含む粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好
6		かわらけ	7.8	5.0	2.2	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含む砂質粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好
7		かわらけ	7.9	4.5	1.8	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒を含むやや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好
8		かわらけ	(7.9)	(4.5)	2.0	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯を含む良土 色調: 黄橙色 焼成: 良好
9		かわらけ	7.8	4.5	2.1	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒多を含む砂質粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好
10		かわらけ	(7.4)	(4.2)	2.35	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯を含む粉質良土 色調: 橙色 焼成: 良好
11		かわらけ	7.5	4.9	2.2	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯を含む粉質良土 色調: 橙色 焼成: 良好
12		かわらけ	(10.7)	(6.0)	2.7	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯を含む良土 色調: 淡橙色 焼成: 良好
13		かわらけ	(11.8)	(5.7)	2.9	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒を含む良土 色調: 淡橙色 焼成: 良好
14		かわらけ	(11.7)	(6.9)	3.5	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土: 微砂・雲母・赤色粒を含む粉質良土 色調: 淡橙色 焼成: 良好
15		かわらけ	(12.6)	(6.4)	3.5	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒多・海綿骨芯を含む良土 色調: 淡橙色 焼成: 良好
16		かわらけ	(12.1)	(7.0)	3.5	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土: 微砂多・雲母・赤色粒多を含むやや砂質土 色調: 橙色 焼成: 良好
17		かわらけ	12.6	7.3	3.2	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含む砂質粗土 色調: 淡橙色 焼成: 良好
18		かわらけ	(13.8)	(8.8)	3.5	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯を含む粉質精良土 色調: 橙色 焼成: 良好
19		かわらけ	12.4	7.2	3.4	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・土丹粒を含む粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好
20		かわらけ	(10.8)	6.0	3.5	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含む粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好
21		竜泉窯青磁 鑄蓮弁文碗		高台径 4.2		ロクロ成形 素地: 灰色 精良緻密土 釉調: 青灰色不透明釉を内面～高台脇までやや厚く施釉 気泡・貫入あり 焼成: 堅緻 備考: 内底面に蓮華文を線刻
22		竜泉窯青磁 鑄蓮弁文碗		口縁部片		ロクロ成形 素地: 灰白色 若干の黒色粒子を含む精良緻密土 釉調: 明灰緑色半透明釉をやや厚く施釉 貫入あり 焼成: 堅緻
23		竜泉窯青磁 蓮弁文折縁鉢		口縁部片		ロクロ成形 素地: 灰白色 若干の黒色粒子を含む精良緻密土 釉調: 青緑色半透明釉をやや厚く施釉 貫入あり 焼成: 堅緻
24		白磁 口元碗	(12.5)			ロクロ成形 素地: 灰白色 若干の黒色粒子を含む精良緻密土 釉調: 灰白色不透明釉を薄く施釉 口唇部露胎 焼成: 堅緻
25		青白磁 梅瓶		底部片		ロクロ成形 素地: 灰白色 若干の黒色粒子を含む精良緻密土 釉調: 水青色半透明釉を薄く施釉 焼成: 堅緻
26		瀬戸 仏具	4.6			ロクロ成形・外底回転糸切 胎土: 灰色 微砂を含む緻密土 釉調: 灰緑色の灰釉をツケ掛け 焼成: 良好 備考: 藤澤編年前Ⅲ期か? 破損断面は加工痕ありか?
27		常滑 片口鉢Ⅰ類		口縁部片		輪積み成形 胎土: 灰黄色 微砂・長石を含む 色調: 灰色 釉調: 内面口縁～体部に自然降灰あり 焼成: 良好 備考: 中野編年6a型式
28		常滑 甕		口縁部片		輪積み成形 胎土: 灰褐色 微砂・長石・石英を含む 色調: 黒褐色 焼成: 良好 備考: 外面口縁～頸部に自然降灰あり 中野編年6a型式
29		常滑 甕		口縁部片		輪積み成形 胎土: 黄褐色 長石・小石粒を含む 色調: 黒褐色 焼成: 良好 備考: 中野編年6a～6b型式
30		土器質 浅鉢型火鉢		口縁部片		輪積み成形 口縁部内外面横位ナデ、体部外面ナデ 胎土: 灰白色 微砂を含む 色調: 黄褐色 焼成: 軟質
31		石製品 硯	残長11.9	9.0	2.0	一部を残し、全体的に剥離 材質: 黒色粘板岩 色調: 黒色 備考: 鳴滝産
32		かわらけ転用 円盤状土製品	径2.7～2.8×厚さ0.4			かわらけ片を転用し、円盤状に磨り加工を施す 胎土: 微砂・雲母を含む良土 色調: 橙色 焼成: 良好
33		かわらけ転用 円盤状土製品	径3.7～4.0×厚さ0.8			ロクロ成形かわらけ底部片を転用し、円盤状に磨り加工を施す 胎土: 微砂・雲母・赤色粒を含む良土 色調: 橙色 焼成: 良好 備考: 中央に穿孔あり
34		銅銭	外径2.4 内径1.9			□□元寶(判読不能)
図14-1	第1面 構成土	女瓦			2.5	凸面は目目きき痕+不規則ナデ・凹面横位ナデ→凹凸面共に離れ砂付着 胎土: 色調と共に灰色 砂粒・白色粒を含む良土 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅰ期
2		女瓦			2.3	凸面は斜格子文・凹面は不規則ナデ→凹凸面共に離れ砂付着 胎土: 色調と共に橙色 砂粒・白色粒・赤色粒を含む良土 焼成: 軟質 備考: 永福寺Ⅱ期(埼玉県美里水殿瓦窯産)
3		女瓦			2.0	凸面は斜格子文+「大」、凹面は凸面の叩きが写り込む→内外面共に離れ砂付着 胎土: 色調と共に灰桃色 砂粒・白色粒・小石粒・気泡を含む粗土 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅲ期
4		女瓦			2.0	凸面は斜格子文・凹面は不規則ナデ→凹凸面共に離れ砂付着 胎土: 灰白色 砂粒・白色粒・赤色粒・小石粒・気泡を含む粗土 色調: 灰色 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅲ期
5		女瓦			1.8	凸面は斜格子文+花菱文・凹面は不規則ナデ→凹凸面共に離れ砂付着 胎土: 灰白色 黒色粒・白色粒・小石粒・気泡を含む粗土 色調: 灰黒色 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅲ期
6		女瓦			1.9	凸面は斜格子文+縦位ナデ・凹面は縦位ナデ→凹凸面共に離れ砂付着 胎土: 灰白色 黒色粒・白色粒・小石粒・気泡を含む粗土 色調: 灰黒色 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅲ期

図版番号	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ 底径/幅 器高/厚さ			観察内容
			単位: cm/( ): 復元値			
図14-7	第1面 構成土	女瓦			1.5	凸面は斜格子文・凹面は不規則ナデ→内外面共に離れ砂付着 胎土:色調と共に灰桃色 微砂・白色粒・赤色粒・小石粒・気泡を含む粗土 焼成:硬質 備考:永福寺Ⅲ期
		雁振瓦?				凸面はナデ、凹面は布目痕 胎土:淡灰色 砂粒・白色粒・赤色粒・小石粒を含むやや粗土 色調:灰黒色 焼成:硬質 備考:男瓦(永福寺Ⅱ期)をつぶして偽振瓦としている?
図17-1	第2a面 遺構107	かわらけ	7.8	4.2	2.0	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒を含むやや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好
		常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部片			輪積み成形 胎土:色調と共に灰色 微砂・長石・石英を含む 焼成:良好 備考:中野編年6a型式
3	第2a面 遺構109	かわらけ	(12.3)	(11.2)	3.6	手づくね成形・外底面指頭痕 胎土:微砂・雲母・赤色粒を含む粉質良土 色調:淡黄橙色 焼成:良好
4	第2a面 遺構110	かわらけ	(8.1)	(6.4)	1.3	手づくね成形・外底面指頭痕 胎土:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒を含む良土 色調:橙色 焼成:良好
5		かわらけ	(7.4)	(5.3)	1.7	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒を含む良土 色調:黄橙色焼成:良好
6		かわらけ	12.3	8.4	3.35	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒を含む粉質気味良土 色調:橙色 焼成:良好
7		常滑 片口鉢Ⅰ類	底部片			輪積み成形 胎土:色調と共に灰色 微砂・長石・石英を含む 焼成:良好 備考:中野編年6a型式 内面磨減あり
8	第2a面 遺構111	かわらけ	(13.2)	(7.7)	3.35	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒を含むやや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好
9		かわらけ質 火鉢?				輪積み成形 口縁部内外面横位ナデ、胴部に丸味をもつ浅鉢型 胎土:微砂・雲母・白色粒・赤色粒を含む赤橙色 色調:赤橙色 焼成:軟質
10	第2a面 遺構113	内折れ かわらけ	(6.8)	(8.0)	1.1	手づくね成形・外底面指頭痕 胎土:微砂・雲母・海綿骨芯を含む粉質良土 色調:黄橙色 焼成:良好
11		かわらけ	(7.9)	(5.6)	1.7	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒を含む粉質気味やや粗土 色調:橙色 焼成:良好
12		かわらけ	(13.5)	(7.6)	3.55	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土:微砂・雲母・赤色粒を含む良土 色調:橙色 焼成:良好
13		常滑 甕	口縁部片			輪積み成形 胎土:灰黒色 微砂・長石・石英を含む 色調:暗赤褐色 焼成:良好 備考:内面に自然降灰あり 中野編年7~8型式
14		女瓦			2.6	凸面は斜格子叩き目・凹面は不規則ナデ→凹凸面離れ砂付着 胎土:灰色 砂粒・白色粒・小石粒を含む良土 色調:灰黒色 焼成:軟質 備考:永福寺Ⅱ期(埼玉県美里水殿瓦窯産)
15		第2a面 遺構112a	かわらけ	(7.2)	(3.8)	2.0
16	かわらけ		(13.2)	(10.8)	2.85	手づくね成形・外底面指頭痕 胎土:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒を含む粉質やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好
17	かわらけ		(13.3)	(7.3)	3.3	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒を含む粉質やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好
18	かわらけ		13.6	7.1	3.3	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒を含む良土 色調:橙色焼成:良好
19	かわらけ		(13.3)	(6.4)	3.5	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒を含む粉質良土 色調:橙色焼成:良好
20	かわらけ		12.9	7.1	3.5	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒を含む粉質良土 色調:橙色 焼成:良好
21	常滑 片口鉢Ⅰ類		口縁部片			輪積み成形 胎土:色調と共に灰色 微砂・長石を含む 焼成:良好 備考:内面口縁部に自然降灰 中野編年5~6a型式
22	常滑 甕		口縁部片			輪積み成形 胎土:褐色 微砂・長石・小石粒を含む 色調:赤褐色 焼成:良好 備考:内外面口縁部・肩部に自然降灰 中野編年6b型式
23	すり瓦		残長8.7	残幅7.7	1.8	凸面縄目叩き痕・凹面布目痕瓦(永福寺Ⅰ期)の表面を擦り加工した転用品 胎土:器表と共に灰色 砂粒・白色粒を含む良土 焼成:硬質
24	石製品 砥石・中砥		残長8.8	残幅7.7	5.05	表裏3面を砥面として使用 材質:流紋岩質粗粒凝灰岩 色調:乳白色に赤褐色マーブル状 備考:天草産
25	第2a面 遺構112b		土丹加工 不明品	残長6.7	残幅7.7	1.9
26	第2a面 遺構114	白磁瓜型 水注?		(5.0)	八角形状で瓜型をあらわすのか? 素地:白色 黒色粒を含む精良緻密土 釉調:青味がかった乳白色不透明釉をやや薄く施釉 焼成:堅緻	
27	第2a面 遺構119	かわらけ	(10.8)	(6.7)	2.9	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土:微砂多・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒を含む砂質気味やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好
28		かわらけ	(12.7)	(8.0)	3.0	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土:微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒・礫を含むやや粗土 色調:黄灰色 焼成:やや甘い
29		かわらけ	13.3	6.7	3.6	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土:微砂多・雲母・海綿骨芯・赤色粒を含む砂質気味良土 色調:淡黄橙色 焼成:良好
30		かわらけ	(12.4)	(6.4)	3.45	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土:微砂多・雲母・海綿骨芯・赤色粒を含む砂質気味粗土 色調:淡黄橙色 焼成:良好
31		常滑 甕	胴部片			輪積み成形 胎土:灰黒色 微砂・長石・石英を含む 色調:茶褐色 焼成:良好 備考:胴部外面にス縦長正方形のスタンプ文
32	常滑 甕	胴部片			輪積み成形 胎土:黒褐色 微砂・長石を含む 色調:暗茶褐色 焼成:良好 備考:胴部外面に正方形のスタンプ文	
33		滑石製不明品	1.9	1.8	2.1	滑石をサイコロ状に加工し、両側面に貫通しない窪みあり
34	第2a面 遺構126	かわらけ	13.2	7.1	3.15	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土:微砂多・雲母・海綿骨芯・赤色粒多・土丹粒を含む砂質やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好
35		かわらけ	12.8	6.8	3.65	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土:微砂多・雲母・海綿骨芯・土丹粒を含む砂質気味やや粗土 色調:黄灰色 焼成:やや甘い
36		かわらけ	13.2	7.0	3.45	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土:微砂・雲母・赤色粒・土丹粒を含む粉質精良土 色調:橙色 焼成:良好
37		ロクロ土師器 高台付碗		(5.8)		ロクロ成形・内外面回転ナデ・外底回転糸切後ナデ調整? 貼付高台 胎土:灰褐色 微砂・雲母・白色粒を含む 焼成:良好 備考:全体的に火を受ける
図18-1	第2b面 遺構108	かわらけ	(10.4)	(6.2)	3.3	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土:微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒を含むやや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好

図版番号	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
			単位: cm/( ) : 復元値			
図18-2	第2b面 遺構108	かわらけ	(12.0)	(7.6)	3.1	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・白色粒・赤色粒・土丹粒を含むやや粗土 色調: 橙色 焼成: 良好
3		かわらけ	(12.3)	(9.1)	3.1	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂多・雲母・海綿骨芯・土丹粒を含むやや粗土 色調: 灰黄色 焼成: やや甘い
4		常滑 片口鉢I類	口縁部片			輪積み成形 胎土: 色調と共に淡灰色 微砂・長石・石英を含む 焼成: 良好 備考: 中野編年6a型式
5		常滑 甕	胴部片			輪積み成形 胎土: 色調と共に黄味灰色 微砂・長石を含む 色調: 灰色 焼成: 良好 備考: 胴部外面に山形・三角入子複合+縦線複合のスタンプ文
6	滑石製温石	残長14.8	残幅5.5	1.3	滑石鍋の口縁部を転用した温石片 外面鈹部分は削り取り、上方に径0.75cm程の穿孔あり	
7	女瓦			厚2.2	凸面は斜格子叩き目→離れ砂付着 凹面は不規則ナデ 胎土: 灰色 砂粒・白色粒を含む良土 色調: 灰色 焼成: 軟質 備考: 永福寺II期(埼玉県美里水殿瓦窯産)	
8	かわらけ	(9.4)	(7.9)	1.7	手づくね成形・外底指頭痕 胎土: 微砂多・雲母・海綿骨芯を含む砂質やや粗土 色調: 黄灰色 焼成: やや甘い 備考: 口唇部に削りあり	
9	かわらけ	(7.8)	(5.2)	2.4	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂多・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒を含む砂質気味やや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	
10	かわらけ	(7.6)	(4.6)	2.3	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒を含む粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	
11	かわらけ	(7.3)	(4.3)	3.2	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒を含む粉質気味良土 色調: 橙色 焼成: 良好	
12	かわらけ	(11.4)	(6.0)	3.05	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒を含むやや粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	
13	かわらけ	(13.2)	(7.8)	3.15	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒を含む粉質気味良土 色調: 橙色 焼成: 良好	
14	かわらけ	(13.1)	(6.3)	3.9	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒を含む良土 色調: 橙色 焼成: 良好	
15	かわらけ	(12.6)	(7.9)	3.6	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・土丹粒を含む粉質気味良土 色調: 橙色 焼成: 良好	
16	かわらけ	(12.9)	(7.6)	3.6	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒を含む粉質気味良土 色調: 橙色 焼成: 良好	
17	かわらけ	(13.1)	(6.4)	3.7	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒を含む良土 色調: 橙色 焼成: 良好	
18	かわらけ	(13.0)	(7.2)	3.9	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯を含む良土 色調: 橙色 焼成: 良好	
19	かわらけ転用 円盤状土製品	径3.1~3.2×厚さ0.85			ロクロ成形かわらけ底部片を転用し、円盤状に磨り加工を施す 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・土丹粒を含むやや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	
20	常滑 片口鉢I類	口縁部片			輪積み成形 胎土: 色調と共に灰色 微砂・長石・石英を含む 色調: 灰色 焼成: 良好 備考: 中野編年6a型式	
21	常滑 片口鉢I類	口縁部片			輪積み成形 胎土: 微砂・長石を含む灰色 色調: 灰色 焼成: 良好 備考: 中野編年6a型式	
22	常滑 片口鉢I類	口縁部~体部片			輪積み成形 胴下部回転ヘラ削り 胎土: 灰褐色 微砂・長石・石英を含む 色調: 灰色 焼成: 良好 備考: 内面口縁部~体部に自然降灰 5~6a型式	
23	常滑 片口鉢I類	口縁部片			輪積み成形 胎土: 灰褐色 微砂・長石・石英を含む 色調: 灰色 焼成: 良好 備考: 内外面口縁部に自然降灰 中野編年5~6a型式	
24	常滑 甕	胴部片			輪積み成形 胎土: 灰黒色 微砂・白色粒・長石を含む 色調: 褐色 焼成: 良好 備考: 胴部外面に矢羽根・樹枝状複合のスタンプ文	
25	常滑 甕	胴部片			輪積み成形 胎土: 黄味灰色 微砂・黒色粒・白色粒・長石を含む 色調: 淡灰色 焼成: 良好 備考: 胴部外面に縦位矢羽根・樹枝状+縦線の複合スタンプ文	
26	常滑 山茶碗		(6.4)		輪積み成形 底部外面糸切・貼付高台で粗殻痕あり 胎土: 色調と共に灰色 微砂・白色粒・長石を含む 焼成: 良好 備考: 内底面磨滅・部分的に自然降灰	
27	石製品 砥石・仕上砥	残長5.5	3.6	0.6	表裏2面を砥面として使用 材質: 頁岩(流紋岩質細粒凝灰岩) 色調: 黄色味 備考: 鳴滝産	
28	女瓦			1.6	凸面は縦位ナデ・凸面は布目痕→不規則ナデ 胎土: 色調と共に灰色 砂粒・白色粒を含む良土 焼成: やや軟質 備考: 八幡宮(国宝館)Eタイプと同質	
29	女瓦			2.1	凸面は不規則ナデ・凹面は縦位ナデ→離れ砂付着 胎土: 色調と共に灰色→灰褐色 砂粒・白色粒を含む良土 焼成: 軟質 備考: 永福寺II期(埼玉県美里水殿瓦窯産)	
30	女瓦			1.9	凹凸面は不規則なナデ→離れ砂付着 胎土: 色調と共に黄味淡灰色 砂粒・白色粒・赤色粒・小石粒・気泡を含む粗土 焼成: 硬質 備考: 永福寺III期	
31	女瓦			1.6	凸面は縦位ナデ・凸面は不規則ナデ→離れ砂付着 胎土: 色調と共に灰褐色 砂粒・白色粒を含む良土 焼成: 軟質 備考: 八幡宮(国宝館)Eタイプと同質	
図19-1	第2面 面上	内折れ 極小かわらけ	3.3	2.9	0.8	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒を含む良土 色調: 橙色 焼成: 良好
2		かわらけ	(8.3)	(7.0)	2.35	手づくね成形・外底指頭痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒を含む良土 色調: 橙色 焼成: 良好
3		かわらけ	(7.5)	(7.0)	1.8	手づくね成形・外底指頭痕 胎土: 微砂多・雲母・海綿骨芯・赤色粒を含む砂質やや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好
4		かわらけ	7.6	4.6	1.8	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒を含む粉質気味やや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好
5		かわらけ	(6.8)	(4.2)	1.8	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒を含むやや粗土 色調: 黄褐色 焼成: 良好
6		かわらけ	(7.8)	(4.2)	1.7	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂多・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒を含む砂質やや粗土 色調: 黄灰色 焼成: やや甘い
7		かわらけ	(7.2)	(4.5)	1.75	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂多・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒を含むやや粗土 色調: 黄褐色 焼成: 良好
8		穿孔かわらけ	(7.2)	(5.0)	2.2	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂多・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒を含むやや粗土 色調: 橙色 焼成: 良好
9		かわらけ	(10.8)	(7.0)	3.3	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒を含むやや粗土 色調: 黄褐色 焼成: 良好
10		かわらけ	(11.7)	(7.5)	3.0	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土: 微砂多・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒を含む粉質気味やや粗土 色調: 黄褐色 焼成: 良好

図版番号	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ 底径/幅 器高/厚さ			観察内容	
			単位: cm/( ): 復元値				
図19-11	第2面 面上	かわらけ	(11.5)	6.7	3.0	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂多・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒を含む砂質気味やや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	
12		かわらけ	(11.2)	(7.7)	2.9	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土: 微砂多・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒・礫を含むやや硬質な砂質気味粗土 色調: 淡黄橙色 焼成: 良好	
13		かわらけ	(13.2)	8.0	3.7	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土: 微砂・雲母・赤色粒を含む良土 色調: 橙色 焼成: 良好	
14		青白磁 花瓶	(9.8)			ロクロ成形 素地: 灰白色 黒色粒を含む精良緻密土 釉調: 水青色半透明釉を薄く施釉 焼成: 堅緻 備考: 外面に刻花文	
15		渥美 甕	口縁部片				輪積み成形 胎土: 暗灰色 微砂・長石・石英を含む 色調: 灰黒色 焼成: 良好 備考: 内面口縁部に自然降灰 中野編年2b型式
16		常滑 片口鉢Ⅰ類		口縁部片			輪積み成形 胎土: 色調と共に黄灰色 微砂・長石を含む 焼成: 良好 備考: 中野編年5型式
17		常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片			輪積み成形 胎土: 灰黒色 微砂・長石を含む 色調: 灰褐色 焼成: 良好 備考: 中野編年6b～7型式	
18		常滑 甕	口縁部片			輪積み成形 胎土: 灰黄色 微砂・長石・石英を含む 色調: 暗褐色 焼成: 良好 備考: 内外面口縁部に自然降灰 中野編年6a型式	
19		常滑 甕	肩部片				輪積み成形 胎土: 灰黒色 微砂・長石・石英を含む 色調: 黒褐色 焼成: 良好 備考: 外面に自然降灰・正方格子のスタンプ文
20		擦り常滑		残存長 6.6	8.5	1.3	常滑甕胴部転用品 胎土: 灰黒色 黒色粒・長石・石英を含む 色調: 黒褐色 焼成: 良好 備考: 断面のほぼ全体が使用により摩耗
21		土器質 浅鉢型火鉢	口縁部片				輪積み成形 口縁部内外面横位ナデ、体部内面指頭痕 胎土: 赤橙色 微砂・雲母・白色粒・赤色粒を含む 色調: 黄褐色 焼成: 軟質
22		かわらけ転用 円盤状土製品	径5.3×厚さ0.7				ロクロ成形かわらけ底部片を転用し、円盤状に磨り加工を施す 胎土: 微砂・雲母・白色粒・赤色粒を含む良土 色調: 橙色 焼成: 良好
23		かわらけ転用 円盤状土製品		径3.5～3.6×厚さ0.7			ロクロ成形かわらけ底部片を転用し、円盤状に磨り加工を施す 胎土: 微砂・雲母・白色粒・赤色粒を含む良土 色調: 橙色 焼成: 良好
24		かわらけ転用 円盤状土製品		径2.8～2.9×厚さ0.65			ロクロ成形かわらけ底部片を転用し、円盤状に磨り加工を施す 胎土: 微砂・雲母・白色粒・赤色粒を含む良土 色調: 橙色 焼成: 良好
25		巴文鏡瓦			1.9	外区内縁に小さな珠文を配す左廻り巴文→瓦当面離れ砂付着 男瓦部凸面縦位ケズリ、凹面糸切り痕→離れ砂付着 胎土: 淡灰桃色 砂粒・白色粒・赤色粒・小石粒を含む粗土 色調: 灰桃色 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅲ期以降	
26		道具瓦			2.1	凸面は不規則ナデ、凹面は布目痕 転用で破面割口は焼成前に刃物による切込面 胎土: 黄灰色 砂粒・白色粒・赤色粒を含む良土 色調: 黄灰色 焼成: 軟質 備考: 面戸瓦や棟瓦の可能性もあり	
27		男瓦			2.5	凸面は縦位ナデ、凹面は布目痕 胎土: 色調と共に灰～灰褐色 砂粒・白色粒を含む良土 焼成: 硬質 備考: 八幡宮(国宝館)タイプと同質	
図20-1		第2面 面上	女瓦			2.4	凸面は縄目吹き痕+横位ナデー凹凸面共に離れ砂付着 胎土: 灰色 砂粒・白色粒を含む良土 色調: 灰色 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅰ期
2			女瓦			1.7	凹凸面は不規則ナデー離れ砂付着 胎土: 色調と共に灰桃色 砂粒・白色粒・赤色粒・小石粒・気泡を含む粗土 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅲ期
3			女瓦			1.8	凹凸面は縦位ナデー離れ砂付着 胎土: 色調と共に灰褐色 砂粒・白色粒・赤色粒・小石粒・気泡を含む粗土 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅲ期
4			女瓦			1.7	凹凸面は縦位ナデー離れ砂付着 胎土: 色調と共に灰桃色 砂粒・白色粒・赤色粒・小石粒・気泡を含む粗土 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅲ期
5			女瓦			1.5	凸面は不規則ナデ、凹面は縦位ナデー共に離れ砂付着 胎土: 灰桃色 砂粒・白色粒・赤色粒・小石粒・気泡を含む粗土 色調: 灰色 焼成: 硬質 備考: 永福寺Ⅲ期
6			女瓦			1.7	凸面は斜格子+縦位ナデ、凹面は不規則ナデー共に離れ砂付着 胎土: 色調と共に灰褐色～橙色 砂粒・白色粒・赤色粒を含む良土 焼成: 軟質 備考: 八幡宮(国宝館)Eタイプと同質
7			女瓦			1.5	凸面は縦位ナデ、凹面は不規則ナデー共に離れ砂付着 胎土: 色調と共に灰褐色～橙色 砂粒・白色粒・赤色粒を含む良土 焼成: 軟質 備考: 八幡宮(国宝館)Eタイプと同質
図21-1	第2面 構成土	かわらけ	(7.5)	(4.0)	1.4	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土: 微砂多・雲母・赤色粒・土丹粒を含む砂質気味やや粗土 色調: 黄褐色 焼成: 良好	
2		かわらけ	(8.8)	(7.0)	1.9	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂多・雲母・赤色粒・土丹粒を含む砂質気味やや粗土 色調: 黄灰色 焼成: やや甘い	
3		かわらけ	(7.1)	4.0	2.2	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒多を含む粉質気味良土 色調: 橙色 焼成: 良好	
4		かわらけ	(7.8)	(5.0)	2.2	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・小石粒・土丹粒を含む粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	
5		かわらけ	(11.2)	6.1	2.8	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂多・雲母・赤色粒多・土丹粒を含む砂質良土 色調: 橙色 焼成: 良好 備考: 内底面磨減	
6		かわらけ	(11.3)	6.5	3.0	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒を含むやや粗土 色調: 黄褐色 焼成: 良好	
7		かわらけ	(11.5)	6.5	3.0	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・土丹粒を含むやや粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	
8		かわらけ	12.4	8.0	3.3	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂多・雲母・赤色粒多を含む砂質良土 色調: 淡褐色 焼成: 良好	
9		かわらけ	12.6	6.3	3.3	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂多・雲母・海綿骨芯・土丹粒多を含むやや粗土 色調: 黄灰色 焼成: やや甘い	
10		かわらけ	12.2	6.6	3.5	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒を含むやや粗土 色調: 黄褐色 焼成: 良好	
11		かわらけ	(12.7)	(7.4)	3.2	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒多・白色粒を含む砂質気味良土 色調: 橙色 焼成: 良好	
12		かわらけ	(13.6)	9.0	3.4	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒を含むやや粗土 色調: 黄褐色 焼成: 良好	
13		かわらけ	13.2	7.1	3.8	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒を含むやや粗土 色調: 黄褐色 焼成: 良好	
14		かわらけ	(14.6)	(9.4)	3.6	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒を含むやや粗土 色調: 黄褐色 焼成: 良好	
15		かわらけ	(14.3)	7.5	3.7	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒多・土丹粒を含む砂質気味粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	



図版番号	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
			単位：cm/( )：復元値			
図21-16	第2面 構成土	竜泉窯青磁 鎬連弁文鉢	口縁部片			ロクロ成形 素地：灰色 黒色粒を含む精良緻密土 釉調：淡灰緑色不透明釉をやや厚く施釉 焼成：堅緻
17		竜泉窯青磁 連弁文鉢	口縁部片			ロクロ成形 素地：灰白色 若干の黒色粒を含む精良緻密土 釉調：青緑色不透明釉を厚く施釉 貫入あり 焼成：堅緻 備考18と同一個体の可能性あり
18		竜泉窯青磁 連弁文鉢	底部片			ロクロ成形 素地：灰白色 若干の黒色粒を含む精良緻密土 釉調：青緑色不透明釉を厚く施釉 貫入あり 焼成：堅緻 備考17と同一個体の可能性あり
19		白磁 口兀皿	11.2			ロクロ成形 素地：白色 黒色粒を含む精良緻密土 釉調：乳白色不透明釉を薄く施釉 口唇部露胎 焼成：堅緻 備考：表面にキズあり
20		常滑 甕	口縁部片			輪積み成形 胎土：暗灰色 砂粒・長石・石英を含む 色調：暗褐色 焼成：良好 備考：内面口縁部・外面肩部に自然降灰 中野編年6a型式
21		常滑 甕	口縁部片			輪積み成形 胎土：灰色 黒色粒・白色粒・長石・石英を含む 色調：褐色 焼成：良好 備考：内外面口縁部に自然降灰 中野編年5型式
22		すり瓦	5.9	4.8	2.4	凸面縄目叩き痕瓦(永福寺I期)の表面を擦り加工した転用品 胎土：灰色 砂粒・白色粒を含む良土 色調：灰黒色 焼成：軟質
23		巴文 鏡瓦	瓦当径(12.8)			外区内縁に珠文を3個と2個が一単位となって交互に配される左廻り巴文 胎土：灰色 砂粒・白色粒・赤色粒・小石粒を含む粗土 色調：灰黒色 焼成：やや軟質 備考：八幡宮タイプ
24		瓦質 輪花型火鉢	口縁部片			輪積み成形 内面横位磨き・外面縦位ナデ 胎土：淡灰色 黒色粒・白色粒・雲母・小石粒を含む 色調：灰黒色 焼成：軟質 備考：胴部外面に菊花文スタンプ
25		鉄釘	残長5.0			両端欠損
図25-1	第3a面 遺構127	木製品 箸	20.2	0.55	0.55	多角形状に削り加工
2		木製品 箸	20.4	0.6	0.5	先端斜めに切断
3		木製品 棒状用途不明	残長16.0	0.85	0.3	両端欠損
4		木製品 棒状用途不明	残長14.7	0.8	0.6	両端欠損
5		木製品 経木折敷	17.3	0.45	0.1	柁目材使用
6		第3a面 遺構141	かわらけ	(7.6)	(5.2)	1.7
7	第3a面 遺構134	かわらけ	(7.1)	(4.8)	1.7	ロクロ成形・外底回転系切 胎土：微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒・礫を含むやや粗土 色調：黄灰色 焼成：やや甘い
8		木製品 箸	23.1	0.65	0.5	多角形状に削り加工
9		木製品 箸	23.2	0.5	0.55	多角形状に削り加工
10		木製品 箸	23.3	0.7	0.6	多角形状に削り加工
11		木製品 箸	23.3	0.5	0.6	多角形状に削り加工
12	第3a面 遺構150	かわらけ	(7.9)	(5.9)	1.6	ロクロ成形・外底回転系切 胎土：微砂・雲母・赤色粒・礫を含むやや粗土 色調：黄灰色 焼成：やや甘い
13		常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片			輪積み成形 胎土：灰色 微砂・長石・石英を含む 色調：茶褐色 焼成：良好 備考：中野編年7～8型式
14	第3a面 遺構147	かわらけ	(7.7)	(5.8)	1.3	ロクロ成形・外底回転系切・板状圧痕・内底面ロクロ成形痕顕著 胎土：微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒を含む良土 色調：橙色 焼成：良好
15		常滑 甕	口縁部片			輪積み成形 胎土：灰黒色 微砂・白色粒を含む 色調：暗茶褐色 焼成：硬質 備考：外面口縁部に自然降灰 中野編年5型式
16		木製品 草履芯	残長9.15	残幅3.7	0.3	板目材使用 繊維圧痕あり
17		木製品 草履芯	残長8.2	残幅4.2	0.3	板目材使用
18		第3a面 遺構143	かわらけ	7.4	5.0	1.6
19	かわらけ		(7.7)	(4.8)	2.2	ロクロ成形・外底回転系切・板状圧痕 胎土：微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒を含む良土 色調：淡橙色 焼成：良好
20	第3a面 遺構153	かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.45	ロクロ成形・外底回転系切・板状圧痕 胎土：微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒を含む良土 色調：橙色 焼成：良好
21	第3a面 遺構156	かわらけ	(8.8)	(7.7)	1.65	ロクロ成形・外底回転系切 胎土：微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒を含む良土 色調：橙色 焼成：良好
22	第3a面 遺構158	かわらけ	(7.8)	(4.8)	1.6	ロクロ成形・外底回転系切・板状圧痕 胎土：微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒を含む粗土 色調：黄灰色 焼成：やや甘い
23		かわらけ	(7.8)	(4.3)	2.15	ロクロ成形・外底回転系切 胎土：微砂・雲母・赤色粒を含むやや粗土 色調：黄灰色 焼成：やや甘い 備考：口唇部に煤付着・灯明皿
24		かわらけ	8.0	4.7	2.3	ロクロ成形・外底回転系切・板状圧痕 胎土：微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒を含むやや砂質良土 色調：黄橙色 焼成：良好
25		穿孔かわらけ		(6.9)		ロクロ成形・外底回転系切・板状圧痕 胎土：微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒を含むやや粗土 色調：橙色 焼成：良好 備考：底部に穿孔あり
図26-1		第3b面 遺構160	木製品 箸	残長15.7	0.6	0.5
2	木製品 箸		残長16.6	0.7	5.5	一端は三角形形状に削り、一端は欠損
3	木製品 箸		残長14.7	0.8	0.55	一端は四角形状に削り、一端は欠損
4	木製品 箸		残長14.5	0.9	0.5	両端欠損
5	木製品 箸		残長22.1	0.6	0.6	一端は三角形形状に削り、一端は欠損

図版番号	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
			単位: cm/( ): 復元値			
図26-6	第3b面 遺構161	かわらけ	(12.2)	(8.2)	4.0	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒を含むやや粗土 色調: 黄灰色 焼成: やや甘い 備考: 二重線の円形押印?が2箇所あり
7	第3b面 遺構162	常滑窯 甕	口縁部片			輪積み成形 胎土: 暗灰色 微砂・白色粒・長石を含む 色調: 黒褐色 焼成: 良好 備考: 外面口縁部に自然降灰 中野編年6b型式
8		かわらけ	(8.4)	(7.9)	2.4	手づくね・外底面指頭痕・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒を含む良土 色調: 黄橙色 焼成: 良好
9		穿孔かわらけ	7.7	5.7	1.6	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒を含む粉質気味やや粗土 色調: 黄灰色 焼成: やや甘い 備考: 底部に穿孔あり
10		かわらけ	(8.4)	(7.9)	2.4	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒を含むやや粗土 色調: 暗橙色 焼成: 良好
11		かわらけ	(7.4)	(4.8)	1.8	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒を含むやや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好
12		かわらけ	(6.7)	(5.1)	1.6	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒を含むやや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好
13		かわらけ	(7.2)	(4.4)	1.8	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒多を含む粗土 色調: 黄灰色 焼成: やや甘い
14		渥美 壺(四耳壺?)			(12.0)	輪積み成形 胎土: 色調と共に明灰色 微砂・白色粒を含む緻密土 焼成: やや良好
15		女瓦			1.4	凸面は離れ砂吹き締めで調整不明瞭、凹面はナデ→離れ砂付着 胎土: 灰色 微砂・白色粒・小石粒を含むやや良土 焼成: 軟質 備考: 八幡宮タイプ
16		女瓦			2.9	凸面は斜格子吹き目→離れ砂付着 凹面は縦位+横位ナデ 胎土: 灰褐色 砂粒・白色粒・小石粒を含む良土 色調: 灰褐色～灰黒色 焼成: 軟質 備考: 永福寺Ⅱ期(埼玉県美里水殿瓦窯産)
17		木製品 用途不明	残長9.2	残幅3.7	0.15	柁目材使用 板材を円板状に加工
18		木製品 曲物蓋?	残長12.8	残幅3.8	0.7	柁目材使用 平面に小孔2箇所あり
19		木製品 箸	21.25	0.6	0.45	多角形状に削り加工
20		木製品 箸	20.7	0.65	0.45	多角形状に削り加工
21	木製品 箸	20.3	0.65	0.55	四角形状に削り加工	
22	木製品 箸	21.85	0.5	0.5	多角形状に削り加工	
23	木製品 箸	20.0	0.7	0.6	一端は四角形状、一端は欠損	
24	木製品 箸	21.3	0.5	0.4	四角形状に削り加工	
25	木製品 箸	19.3	0.7	0.55	多角形状に削り加工	
26	木製品 箸	22.25	0.65	0.5	部分的に鉄分付着	
27	木製品 箸	残長20.0	0.6	0.6	一端は多角形状、一端は欠損	
28	木製品 箸	残長18.6	0.6	0.5	一端は四角形状、一端は欠損	
29	木製品 箸	残長17.5	0.6	0.45	一端は四角形状、一端は欠損	
30	木製品 箸	残長14.65	0.65	0.25	一端は多角形状、一端は欠損	
31	木製品 箸	残長15.7	0.6	0.45	一端は多角形状で鉄分付着、一端は欠損	
図27-1	第3b面 遺構162	木製品 経木折敷	17.65	残幅3.0	0.1	中央に直径0.3～0.4cmの小孔あり 柁目材使用
2		木製品 経木折敷	18.1	残幅3.45	0.1	柁目材使用
3		木製品 経木折敷	残長 15.4	残幅1.9	0.1	一辺に直径0.4～0.5cmの小孔あり 柁目材使用
4		木製品 経木折敷	17.9	残幅2.6	0.08	中央に直径0.3cmの小孔あり 柁目材使用
5		木製品 経木折敷	18.4	残幅4.3	0.1	柁目材使用
6		木製品 経木折敷	17.7	残幅2.15	0.5	柁目材使用
7		木製品 柄?	25.4	4.0	0.3	黒漆部分は紐状のもので黒漆漆髹2枚重ねとじ合わせ、それ以外は補強の為の漆加工か。
8		木製品 草履芯	23.85	9.2	0.3	繊維圧痕あり 柁目材使用
9		木製品 草履芯	24.5	9.35	0.3	繊維圧痕あり 柁目材使用
10		木製品 草履芯	残長 14.2	残幅4.75	0.45	柁目材使用
11		木製品 草履芯	残長 14.2	残幅4.7	0.35	繊維圧痕あり 柁目材使用
12		木製品 草履芯	残長 11.3	残幅4.9	0.35	小孔なし・繊維圧痕あり 表面部分的に鉄分付着 柁目材使用
13		木製品 人形代	残長 10.6	2.2	0.2	板状で烏帽子・頭部・胴部を切り込みで表現し、胴部中央に釘痕あり 経木折敷の転用品か?
14		木製品 毬杖の球	径4.2×厚4.1			胴部皮つき、自然木を輪切りにして両切り口を球状に整形

図版番号	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
			単位: cm/( ): 復元値			
図27-15	第3b面 遺構162	木製品 形代?	残長9.4	残幅2.0	0.1	長楕円形を呈する板状木製品 柾目材使用
16		木製品 用途不明	9.8	2.7	0.05	片端を斜めに切り込む 経木折敷の転用品か? 柾目材使用
17		木製品 用途不明	12.7	3.0	0.1	片端を斜めに切り込み、表面に刃物によるキズ痕あり 経木折敷の転用品か? 柾目材使用
18		木製品 用途不明	残長16.0	1.0	0.65	棒状木製品で片端に煤付着 柾目材使用
19		木製品 用途不明	21.85	4.8	0.4	一端を山型に削り、中央に0.6×0.7cm大の小孔あり 全体的に腐食食味 柾目材使用
20		木製品 用途不明	22.5	5.7	0.35	一端を鋭角に削り、片面に装飾的な加工を施す 転用品か? 柾目材使用
21		木製品 用途不明	残長16.5	4.8	1.75	一端を斜めに切り込み 柾目材使用
22		漆器 碗		高台内径 6.2		輪高台 内外面共黒漆塗りに笹・茫・菊等の植物文と御所車の器物文を朱漆手描きで配した 情景文
図29-1	第3面 面上	かわらけ	(8.5)	(6.8)	1.5	手づくね成形・外底面指頭痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯を含む良土 色調: 黄灰色 焼成: やや甘い
2		かわらけ	(7.7)	(5.0)	1.2	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒を含む粗土 色調: 黄灰色 焼成: やや甘い
3		かわらけ	(7.6)	(5.6)	1.4	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・土丹粒を含むやや粉質粗土 色調: 黄橙色 焼成: やや甘い
4		かわらけ	(7.2)	(4.9)	1.5	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂多・雲母多・赤色粒・土丹粒を含む砂質 粗土 色調: 橙色 焼成: 良好
5		かわらけ	(8.3)	(6.2)	1.8	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂多・雲母多・赤色粒・土丹粒を含む砂質 粗土 色調: 橙色 焼成: 良好
6		かわらけ	(7.8)	(5.5)	1.5	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海面骨芯・赤色粒・土丹粒を含 むやや粗土 色調: 淡橙色 焼成: 良好
7		かわらけ	(7.7)	(5.3)	1.6	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・白色粒・土丹粒を含むやや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好
8		かわらけ	(7.7)	(5.2)	1.6	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒を含むやや粗 土 色調: 黄橙色 焼成: 良好
9		かわらけ	(7.9)	(4.8)	1.9	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒を含むやや粗土 色調: 黄 灰色 焼成: やや甘い
10		かわらけ	7.7	5.0	1.8	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒を含むやや粗 土 色調: 黄橙色 焼成: 良好
11		かわらけ	(6.8)	(3.6)	1.8	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒を含 むやや粗土 色調: 黄灰色 焼成: やや甘い
12		かわらけ	(7.4)	(4.5)	2.1	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土: 微砂・雲母・赤色粒多を含む粉質良土 色調: 黄橙色 焼 成: 良好
13		かわらけ	(6.8)	(4.0)	2.0	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒多を含む砂質気味良土 色 調: 橙色 焼成: 良好
14		かわらけ	(7.9)	(4.9)	2.1	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒多・土丹粒を 含むやや粗土 色調: 淡橙色 焼成: 良好
15		かわらけ	(7.9)	(6.0)	1.75	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂多・雲母・赤色粒多を含むやや粗土 色調: 黄灰色 焼成: やや甘い
16		かわらけ	(13.8)	(11.8)	(3.0)	手づくね成形・外底面指頭痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯を含む良土 色調: 黄橙 色 焼成: 良好
17		かわらけ	(13.1)	(11.8)		手づくね成形・外底面指頭痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒を含む良土 色調: 黄灰色 焼成: やや甘い
18		穿孔かわらけ	12.8	6.8	3.2	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土: 微砂多・雲母・赤色粒多を含む良土 色調: 黄橙色 焼成: 良好
19		かわらけ	(12.7)	(7.0)	3.4	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・土丹粒を含 むやや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好
20		かわらけ	(12.7)	(7.3)	3.3	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂多・雲母・赤色粒・土丹粒を含む砂質粗 土 色調: 橙色 焼成: 良好
21		かわらけ	(12.7)	(7.5)	(3.6)	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂多・雲母・赤色粒を含む良土 色調: 橙色 焼成: 良好
22		かわらけ	(13.7)	(9.0)	3.6	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土: 微砂・雲母・赤色粒を含む良土 色調: 橙色 焼成: 良好
23		かわらけ	(13.9)	(8.7)	3.5	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒を含む良土 色調: 橙色 焼成: 良好
24		かわらけ		(7.0)	3.5	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・土丹粒を含むやや粗土 色調: 淡橙色 焼成: 良好 備考: 内底面ロクロ成形痕顕著
25		かわらけ	16.7	9.8	4.6	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土: 微砂多・雲母・赤色粒多を含むやや良土 色調: 橙色 焼成: 良好 備考特大かわらけ
26		白磁 四耳壺				ロクロ成形 素地: 灰白色 黒色粒を含む精良緻密土 釉調: 不透明な青味を帯びた乳白色 を内面一部～外面に施す 焼成: 堅緻
27		青磁 口元小碗	(8.4)			ロクロ成形 素地: 灰白色 黒色粒を含む精良緻密土 釉調: 青灰色不透明釉を厚く施釉、 口唇部露胎 焼成: 堅緻
28		常滑 片口鉢Ⅰ類		口縁部片		輪積み成形 胎土: 灰色 微砂・長石を含む 色調: 灰黒色 焼成: 良好 備考: 外面口唇 部～内面にかけて自然降灰 5型式
29		常滑 片口鉢Ⅰ類		口縁部片		輪積み成形 胎土: 色調と共に灰色 微砂・長石を含む 焼成: 良好 備考: 内面に自然降 灰 中野編年6a型式
30		常滑 甕		口縁部片		輪積み成形 胎土: 色調と共に灰黒色 微砂・長石を含む 焼成: 良好 備考: 内面口縁部 に自然降灰 中野編年5型式
31		常滑 甕		胴部片		輪積み成形 胎土: 灰黒色 微砂・長石を含む 色調: 暗赤褐色 焼成: 良好 備考: 線刻 あり 中野編年5型式
32		常滑 甕		胴部片		輪積み成形 胎土: 灰褐色 微砂・長石・小石粒を含む灰褐色 色調: 暗褐色 焼成: 良好 備考: 胴部外面に矢羽根・樹枝状複合のスタンプ文

図版番号	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ 底径/幅 器高/厚さ			観察内容
			単位: cm/( ) : 復元値			
図29-33	第3面 面上	瓦質 輪花型火鉢	口縁部片			輪積み成形 全体的に摩耗し調整不明瞭 胎土: 灰褐色 微砂・黒色粒・白色粒・雲母・小石粒を含む 色調: 灰黒色(黒色処理剥離気味) 焼成: やや軟質 備考: 胴部外面に菊花文スタンプ
34		かわらけ転用 円盤状土製品	径3.6~3.9×厚さ1.85			ロクロ成形かわらけ底部片を転用し、円盤状に磨り加工を施す 胎土: 微砂・雲母・白色粒・赤色粒を含む良土 色調: 橙色 焼成: 良好
35		剣頭文 字瓦	瓦当幅 3.7		1.4	陽刻の下向き剣頭文、中心に「大」を配すか? 胎土: 灰色 微砂・白色粒を含む良土 色調: 黒灰色 焼成: 軟質 備考: 八幡宮(13世紀後半)タイプ
36		女瓦				凸面は横方向縄目叩き痕・凹面は糸切り痕、内外面共に離れ砂付着 胎土: 色調と共に茶灰色 微砂・長石・石英を含む陶器質胎土 色調: 茶灰色 焼成: 硬質 備考: 永福寺1期(東海地方窯産)
37		灰釉陶器 壺				ロクロ成形・内外面回転ナデ 胎土: 色調と共に淡灰色 微砂・白色粒を含む緻密土 釉調: 淡灰緑色の灰釉を薄くハケ塗り 焼成: 良好 備考: K90号窯式
38		灰釉陶器 壺				ロクロ成形・内外面回転ナデ 胎土: 色調と共に淡灰色 微砂・白色粒を含む緻密土 釉調: 淡灰緑色の灰釉を薄くハケ塗り 焼成: 良好 備考: K90号窯式
39		灰釉陶器 壺				ロクロ成形・内外面回転ナデ・外底部回転糸切り無調整 胎土: 色調と共に灰色 微砂・白色粒・海綿骨芯を含む 焼成: やや良好 備考: K90号窯式
40	第3面 構成土	かわらけ	(12.8)	(8.2)	3.2	ロクロ成形・外底回転糸切り 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒を含む良土 色調: 黄橙色 焼成: 良好
41		かわらけ	(12.7)	(7.7)	4.0	ロクロ成形・外底回転糸切り・板状圧痕 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・土丹粒を含む良土 色調: 淡橙色 焼成: 良好
42		ロクロ土師器 杯		(5.2)		ロクロ成形・内外面回転ナデ・外底部回転糸切り無調整 胎土: 微砂・雲母・白色粒を含む橙色 色調: 橙色 焼成: 良好
43		須恵器 甕	口縁部片			ロクロ成形・内外面回転ナデ 胎土: 色調と共に暗灰色 微砂・雲母・白色粒を含む緻密土 焼成: 良好
図32-1	第4a面 遺構190	土師器 長胴甕		(5.8)		体部外面下位~底部ヘラケズリ・内面ナデ 胎土: 微砂・雲母・白色粒を含む 色調: 暗灰黄色 焼成: 良好
2		ロクロ土師器 杯		(6.6)		ロクロ成形・内外面回転ナデ・外底部回転糸切り無調整 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯を含む 色調: 橙色 焼成: 良好 備考: G 59号窯式指向
3	第4a面 遺構194	灰釉陶器 壺		(6.7)		ロクロ成形・内外面回転ナデ・外底部回転糸切りヘラケズリ 胎土: 微砂・白色粒を含むやや緻密土 色調: 淡灰色 d: 淡灰緑色の釉を漬け掛け 焼成: 堅緻 備考: O53号窯式
4	第4a面 遺構195	須恵器 長頸瓶	頸部径 (9.6)			ロクロ成形・内外面回転ナデ 胎土: 微砂・白色粒・小石粒を含む緻密土 色調: 暗褐色 焼成: 良好 備考: 南武蔵窯 小片の為、傾きに不安あり
5		常滑 片口鉢I類				輪積み成形 胎土: 色調と共に明茶褐色 微砂・長石・石英 焼成: 良好 備考: 外面口縁部下に強いナデ 中野編年5~6a型式
6	第4a面 遺構216	ロクロ土師器 杯	(12.4)	(6.4)	2.7	ロクロ成形・内外面回転ナデ・外底部回転糸切り無調整 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯 色調: 橙色 焼成: 良好 備考: G 59号窯式指向
7	第4b面 遺構192	須恵器 蓋	(4.6)			ロクロ成形・内外面回転ナデ・天井部回転ヘラケズリ 胎土: 微砂・雲母・白色粒を含むやや緻密 色調: 橙色 焼成: 酸化焰気味 備考: 陶邑Ⅲ-1(TK217)相当の東海系か。
8		土師器 長胴甕		(6.8)		体部外面ナデ・体部内面ハケメ・外底部木葉痕 胎土: 微砂・雲母・白色粒を含む 色調: 橙色 焼成: 良好 備考: 内面体部黒色処理 相模型(9c前葉~中葉頃)
9	第4b面 遺構250	須恵器 杯		(5.6)		ロクロ成形・内外面回転ナデ・外底部回転糸切り無調整 胎土: 色調と共に暗灰色 微砂・白色粒・海綿骨芯を含む 焼成: 良好 備考: 北武蔵窯G 59~25号窯式
10	第4b面 遺構256	須恵器 杯	(12.3)			外面口縁部ヨコナデ・体部下位指頭痕+ヘラケズリ・内面ナデ 胎土: 微砂・雲母・赤色粒・白色粒 色調: 橙色 焼成: 良好 備考: 粗雑なつくりとなる9c後葉頃の相模型最終形態に近いタイプ
11	第4b面 遺構264	土師器 壺か?	口縁部片			内外面口縁部ヨコナデ・内外面体部ハケ 胎土: 微砂・雲母・白色粒・小石粒 色調: 暗黄灰色 焼成: やや甘い 備考: 古墳時代前期
12	第4b面 遺構267	かわらけ	(7.9)	(6.1)	1.7	ロクロ成形・外底回転糸切り・板状圧痕 胎土: 微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯を含むやや粗土 色調: 黄褐色 焼成: 良好 備考: 器表面に鉄分付着
13		鉄釘	残長5.9	0.7	0.6	先端欠損
14	第4b面 遺構285	土師器 杯	(14.4)			内外面口縁部ヨコナデ・体部下位ヘラケズリ・内面ナデ 胎土: 微砂・雲母・赤色粒を含む 色調: 黄灰色 焼成: やや甘い 備考: 相模型(8c中葉~9c前葉頃)
15	第4面 面上	土師器 長胴甕	(19.7)			内外面口縁部ヨコナデ・外面頸部以下ヘラケズリ 胎土: 微砂・雲母・白色粒を含む 色調: 茶褐色 焼成: 良好 備考: 口縁断面形態が「コ」の字状を呈する9c中葉頃の武蔵型
16		土師器 壺特殊品	(6.2)			外面口縁部ヨコナデ・外面体部不明瞭・内面ナデ 胎土: 微砂・雲母・赤色粒を含む 色調: 黄褐色 焼成: 良好 備考: 相模型杯に近い胎土を呈する特殊品
17		灰釉陶器 壺				ロクロ成形・内外面回転ナデ 胎土: 色調と共に淡灰色 黒色粒を含む緻密土 釉調: 淡灰緑色の灰釉を呈する灰釉を薄くハケ塗り・気泡多 焼成: やや堅緻 備考: K90号窯式
18	第4面 構成土	土師器 杯	(13.9)			内外面口縁部ヨコナデ・外面体部下位ヘラケズリーナデ? 胎土: 微砂・雲母・白色粒を含む 色調: 赤灰色(全体的に二次焼成で黒く変色) 焼成: 良好 備考: 半球形状を呈する古墳時代後期
19		土師器 盤状杯				内外面口縁部ヨコナデ・外面体部下位ヘラケズリ・内面ナデ 胎土: 微砂・雲母・白色粒・海綿骨芯を含むやや緻密土 色調: 黄褐色 焼成: 良好 備考: 体部内面に斜放射状暗文あり
20		土師器 小型甕	(12.4)			外面口縁部ヨコナデ・外面体部ヘラケズリーナデ? 内面ナデ 胎土: 微砂・雲母・白色粒・小石粒を含む 色調: 暗褐色 焼成: 良好 備考: 古墳時代後期の系譜を引くヘラケズリ調整甕
21		土師器 甕		(5.0)		内面ナデ・外面体部ヘラケズリ・底部木葉痕 胎土: 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒を含む 色調: 橙色 焼成: 良好 備考: 武蔵型に近い胎土を呈する不明品
22		土師器 甕		(10.2)		外面体部~底部ヘラケズリーナデ? 内面ナデ 胎土: 微砂・雲母多・白色粒を含む橙色 色調: 橙色 焼成: 良好 備考: 武蔵型に近い胎土を呈する不明品
23		須恵器 杯		(3.8)		ロクロ成形・内外面回転ナデ・外底部回転糸切り無調整 胎土: 黄灰色 微砂・白色粒を含む緻密土 色調: 灰色 焼成: 良好 備考: 内面部分的に自然降灰あり 南武蔵窯G 5号窯式
24		須恵器 甕				ロクロ成形・内外面回転ナデ・外面櫛描波状文あり 胎土: 色調と共に灰黒色 微砂・白色粒を含む 焼成: 良好 備考: 内面に自然降灰あり
図32-25	第4面 構成土	灰釉陶器 壺				ロクロ成形・内外面回転ナデ 胎土: 色調と共に淡灰色 微砂・白色粒を含む 釉調: 淡灰緑色の灰釉を薄くハケ塗り 焼成: 良好 備考: K 90号窯式
26		灰釉陶器 壺				ロクロ成形・内外面回転ナデ・外底部回転ヘラケズリーナデ? 胎土: 色調と共に灰色 微砂・白色粒を含む 焼成: 良好 備考: 内底部に擦り・刻線・周辺に削り出しの痕跡あり O53号窯式に相当する駿河・遠江産か?

図版番号	出土位置 出土層位	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
			単位: cm/( ) : 復元値			
図34-1	第5面 遺構345	須恵器 甕				ロクロ成形・内外面ヨコナデ 胎土:暗褐色 微砂・白色粒を含む 色調:灰黒色 焼成:良好 備考:内面口縁部に自然降灰
図35-1	第5面 遺構338	土師器 坏	(13.0)			内面~外面口縁部ヨコナデ・外面下位へラケズリ 胎土:微砂・雲母・白色粒を含む 色調:橙色 焼成:良好 備考:内面に赤彩・放射状暗文のある古墳時代後期の畿内系土器
2	第5面 遺構340	須恵器 坏蓋	(11.2)			ロクロ成形・内外面回転ナデ 胎土:色調と共に暗灰色 微砂・白色粒を含む緻密土 焼成:良好 備考:見受けかえり部を有する7c中葉頃の湖西窯
図36-1	第5面 面上	土師器 高坏	(12.8)			内面~外面口縁部ヨコナデ・外面下位無調整~内面赤彩 胎土:微砂・雲母・白色粒を含む 色調:灰橙色 焼成:良好・硬質 備考:小片の為、傾きに不安あり 古墳時代後期
2		弥生式土器 壺甕類				内外面ナデー体部外面に波状縄文 胎土:微砂・雲母・赤色粒・白色粒を含む 色調:黄灰色 焼成:やや甘い
3		須恵器 坏?	(4.2)			ロクロ成形・内外面回転ナデー外面体部下位~底部回転へラケズリ調整 胎土:灰色 微砂を含む緻密土 色調:暗灰色 焼成:良好 備考:南武蔵窯?
4		須恵器 坏蓋	(11.2)		(3.3)	ロクロ成形・内外面回転ナデー天井部一部へラケズリか? 胎土:暗灰色 微砂・白色粒・小石粒を含む緻密土 色調:灰黒色 焼成:良好 備考:湖西窯(6c後葉~7c前葉頃)
5	第5面 構成土	須恵器 坏		(9.2)		ロクロ成形・内外面回転ナデー外底全面or周縁回転へラケズリ 胎土:色調と共に灰色 微砂・白色粒・白色針状物質を含む 焼成:良好 備考:北武蔵窯Ma2号窯式(8世紀後半)
図38-1	試掘坑	かわらけ	7.2	4.4	2.1	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土:微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯を含む砂質良土 色調:橙色 焼成:良好
2		須恵器 長頸瓶				胎土:微砂・白色粒・礫を含む灰褐色土 色調:外面体部下位まで自然降灰により茶褐色 焼成:良好 備考:高台欠損
3	表採	かわらけ	(9.2)	(7.5)	1.45	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土:微砂・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含むやや粗土 色調:橙色 焼成:やや甘い
4		かわらけ	7.8	4.8	1.65	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土:微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含む砂質気味やや粗土 色調:橙色 焼成:良好
5		かわらけ	(7.6)	(5.3)	1.9	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含むやや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好
6		かわらけ	(8.2)	(6.2)	2.0	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含む色調:淡黄橙色 焼成:良好 備考:灯明皿
7		かわらけ	(7.8)	(5.0)	1.85	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土:微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯を含む砂質気味良土 色調:黄橙色 焼成:良好
8		かわらけ	(7.9)	(5.4)	1.6	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土:微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯を含む砂質良土 色調:黄橙色 焼成:良好
9		かわらけ	(6.8)	(3.9)	2.2	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含むやや粗土 色調:橙色 焼成:良好
10		かわらけ	(7.8)	(4.8)	2.3	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土:微砂多・雲母多・赤色粒・土丹粒を含む砂質気味やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好
11		かわらけ	(8.4)	(4.5)	2.4	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含む粉質気味やや粗土 色調:橙色 焼成:良好
12		かわらけ	7.4	4.1	2.35	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土:微砂・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含むやや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好 備考:灯明皿
13		かわらけ	11.2	6.5	3.2	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土:微砂・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含む粉質気味やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好
14		かわらけ	(13.0)	(6.8)	3.5	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含む粉質やや粗土 色調:橙色 焼成:やや甘い
15		かわらけ	(13.0)	(6.9)	3.7	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土:微砂・雲母・海綿骨芯・土丹粒を含む粉質良土 色調:橙色 焼成:良好
16		かわらけ	(13.3)	(8.9)	3.5	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒・礫を含む粗土 色調:黄橙色 焼成:良好
17		かわらけ	(13.2)	(7.8)	3.7	ロクロ成形・外底回転糸切・板状圧痕 胎土:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒を含むやや粗土 色調:橙色 焼成:良好
18		かわらけ	(12.9)	(7.9)	3.4	ロクロ成形・外底回転糸切 胎土:微砂・雲母・赤色粒を含む粉質気味良土 色調:橙色 焼成:良好
19		銅銭	外径2.4	内径2.0		完形 天聖元寶 初鑄年1023 北宋 楷書
20		銅銭	外径2.4	内径1.85		完形 祥符元寶 初鑄年1008 北宋 行書
21		白磁 口兀皿		(4.5)	1.5	ロクロ成形 素地:白色 黒色粒を含む精良緻密土 釉調:青味灰白色半透明釉を薄く施釉、口唇部露胎 焼成:堅緻
22		常滑 片口鉢Ⅱ類		口縁部片		輪積み成形 胎土:黄褐色 黒色粒・白色粒・長石を含む 色調:褐色 焼成:良好
23		常滑 広口壺		口縁部片		輪積み成形 胎土:灰色 黒色粒・白色粒・長石・石英を含む 色調:黒灰色 焼成:良好
24		常滑 甕		胴部片		輪積み成形 胎土:灰色 黒色粒・白色粒 色調:内面褐色・外面自然降灰により灰褐色 焼成:良好 備考:胴部外面に正方格子のスタンプ文
25		土器質 浅鉢型火鉢		口縁部片		輪積み成形 内外面横位ナデ 胎土:橙色 微砂・赤色粒・白色粒・を含む器質 色調:灰黒色 焼成:軟質
26		すり瓦			1.5	内外面ナデー離れ砂付着 胎土:灰色 砂粒・黒色粒・白色小石粒を含む 色調:灰色 焼成:硬質 備考:互転用品
27		巴文鏡瓦		瓦当径(12.1)		外区内縁に珠文を配す左廻り巴文 胎土:灰橙色 砂粒・白色粒・良土 色調:灰色 焼成:軟質 備考:永福寺Ⅲ期以降
28		剣頭文字瓦		瓦当幅4.8		陽刻の上向き剣頭文・界線を設け、中心に左回りの巴文を配すか? 胎土:灰白色 小石粒が混じり、瓦当面に離れ砂付着 色調:灰黒色 焼成:硬質 備考:永福寺Ⅲ期以降(YN II 06)
29		女瓦			1.9	凸面は叩き目不明瞭 凹面は糸切り痕 内外面共に離れ砂付着 胎土:黄灰色 砂粒・小石粒・気泡を含む粗土 色調:灰色 焼成:硬質 備考:永福寺Ⅲ期
30		女瓦			1.7	凸面は三鱗文 離れ砂が叩き締めで打ち込まれている、凹面は糸切り痕~ナデ+離れ砂付着 胎土:灰色 砂粒・白色粒・小石粒を含む粗土 色調:灰黒色 焼成:硬質 備考:永福寺Ⅲ期
31		女瓦			1.9	凸凹面共にナデー離れ砂付着 胎土:赤褐色 砂粒・赤色粒・白色粒・小石粒を含む粗土 色調:灰褐色 焼成:硬質 備考:永福寺Ⅲ期
32		女瓦			2.2	凸面は斜格子叩き目、凹面は縦位ナデー内外面共に離れ砂付着 胎土:灰白色 砂粒・白色粒・小粒・気泡を含む粗土 色調:灰色 焼成:硬質 備考:永福寺Ⅱ期

出土遺物破片数表

遺構No.	かわらけ(大)	かわらけ(小)	手づくね(大)	手づくね(小)	手づくね・白かわらけ	青磁蓮弁文碗	瀬戸壺	渥美甃	常滑甃	常滑壺	常滑片口鉢I類	常滑片口鉢II類	山茶碗	男瓦	女瓦	字瓦	鎧瓦	役瓦	鬼瓦	火鉢	木製品	土師坏	土師甃	ロクロ土師器	須恵坏身	須恵坏蓋	須恵甃甃瓶類	灰釉陶器碗	灰釉陶器甃甃瓶類	緑釉陶器		
1															1																	
2														1	8		1															
11	1	2		1					11																							
18														1																		
19																1																
29															1																	
49	3								1																							
55															1																	
62															1																	
68	2					1																										
72															1																	
79														1	2																	
80															1																	
81														12	19	2	1			1												
82	118	16	14	1					26		1											1										
87															1																	
90	1		4	1											1																	
106															1																	
107	5		3																													
108															1																	
109	3		1	1					6																							
110	39	2	3	2					8																							
112	72	1	25	2					36				1	1									1									
113	21		6	1					9			1		1																		
116	3		1																													
117	2		1						1	1		1																				
119															1																	
120	1																															
126																									1							
132			1	2					1				1																			
137	2	1																														
140	10	7	3						10																							
142	2		1																													
147	27	20	6	3					10														2	3								
148																						5										
153	1	2							1																							
154									1																							
156	1				1																											
157	1								1																							
161																1																
162	7		5						7				1	2	1					1			2		1		3	1				
165	2		4	1					5															2								
172																							2	3								
174																							1	1			1					
175																							1									
180																							1									
185																							2	2								
187																							4									
188																							1	2								
192																							2			1						
195																							1	5			1					
197																								1								
198																							1									
200																							1	1								
201																							1									
202																								4								
203																								2								
204																							3									
205																								3								
206																								1								
207																								1								

出土遺物破片数表

遺構No.	かわらけ(大)	かわらけ(小)	手づくね(大)	手づくね(小)	手づくね・白かわらけ	青磁蓮弁文碗	瀬戸壺	渥美甕	常滑甕	常滑壺	常滑片口鉢I類	常滑片口鉢II類	山茶碗	男瓦	女瓦	宇瓦	鏡瓦	役瓦	鬼瓦	火鉢	木製品	土師杯	土師甕	ロクロ土師器	須恵坏身	須恵坏蓋	須恵甕甕瓶類	灰釉陶器碗	灰釉陶器甕甕瓶類	緑釉陶器
208																							3							
210																							5							
211																							1	1						
216																							3			1				
217																							1							
218																									3					
219																							2							
177																								1						
222																								2						
223																								2						
224																								2						
225																								1						
226																								2						
227																								11						
229																								1						
230																								1						
231																								2						
232																							2							
233																								2						
235																							4	1						
236																							1							
237																							1	4						
241																								1						
247																							1							
249																								2						
250																										4				
254	1																						3	1						
256																								2						
257																												1		
258																								3						
259																								1	1		1			
260																							1							
262																							3	8		1				
263																							2	12		2				
267		2																					2	4				1		
268																							1	6						
270																								2						
273		1																					1							
277																							2	4		1				
280																								1						
281																							2	1	1					
282																								1						
283	1																						1	4						
285																							1							
291																							1	3						
293																							1							
294																							1							
295																								1						
296																								1						
297																							1							
300																									1					
301																									1					
303																							2	1		1		1		
305																							1	2			1	1		
309																								2						
313																							1	4						
314																								3		1				
315																							1							
316																								1						
317																							3							
318																							1							

出土遺物破片数表

遺構No.	かわらけ(大)	かわらけ(小)	手づくね(大)	手づくね(小)	手づくね・白かわらけ	青磁蓮弁文碗	瀬戸壺	渥美甃	常滑甃	常滑壺	常滑片口鉢I類	常滑片口鉢II類	山茶碗	男瓦	女瓦	宇瓦	鎧瓦	役瓦	鬼瓦	火鉢	木製品	土師坏	土師甃	ロクロ土師器	須恵坏身	須恵坏蓋	須恵甃甃瓶類	灰釉陶器碗	灰釉陶器甃甃瓶類	緑釉陶器	
319																						1	1								
322																							1								
327																							1								
331																							4	6			2				
332			13	2																			16	37							
334																							1								
338																							10	27							
339																							4	12			2				
340																							1	1							
342																							2				1				
343																							1								
345																							2	2							
347																								3							
352																							1								
355																								1							
第1面 面上	103	21	11				3	37			4	18	48		5					2			1								
第1面 構成土	182	7	31	3			1	53			2	4	14	1	1	1							2								
第2面 面上	267	13	21	6	1			78			4	2	17														1		2		
第2面 構成土	13	4						6					2																		
基壇状 遺構	226	20	6	1			1	88		1	1		1	4									2				1				
第3面 面上	137	7	51	5				2	40		2		1	1									3				2				
第3面 構成土	6	4					2	8				2											7	2	4	1	4				
第4面 面上		2																					21	13		2	2				
第4面 構成土																							4	18			1			1	
第5面 面上		9																					29	46		1	2	1			
第5面 構成土																							4	6							
焼土部 精査時																								3							
試掘坑 深堀														1									2	2	1	1					
廃土山	3	3	1					12						3									2	3							





◀ 荏柄天神社

第1面全景(北から) ▶



◀ 第1面調査区東側遺構群(北から)

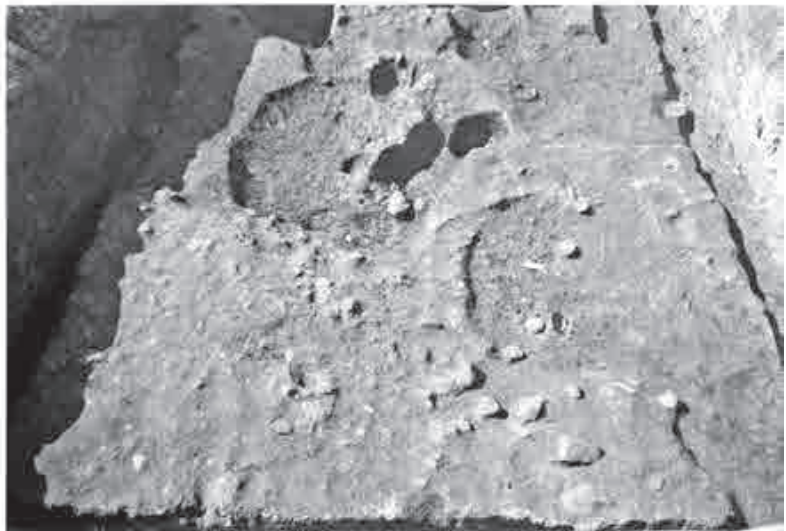


▲第1面遺構82 (南から)



▲第1面遺構62 鬼瓦出土状況 (西から)

第2面全景 (東から) ▶



◀第3面全景 (北から)



◀第3面全景（東から）

第3面遺構162 ▶  
完掘状況（北から）



◀第3面遺構162  
板草履出土状況（北から）

第3面遺構162 ▶  
南東隅検出束柱（西から）





◀ 第3面遺構 136  
礎板検出状況 (北から)

第4面全景 (北から) ▶



◀ 第5面全景 (北から)

第5面遺構 346 ▶  
完掘状況 (南から)





◀第5面遺構335  
完掘状況(南から)

第5面遺構331・338・340▶  
完掘状況(東から)

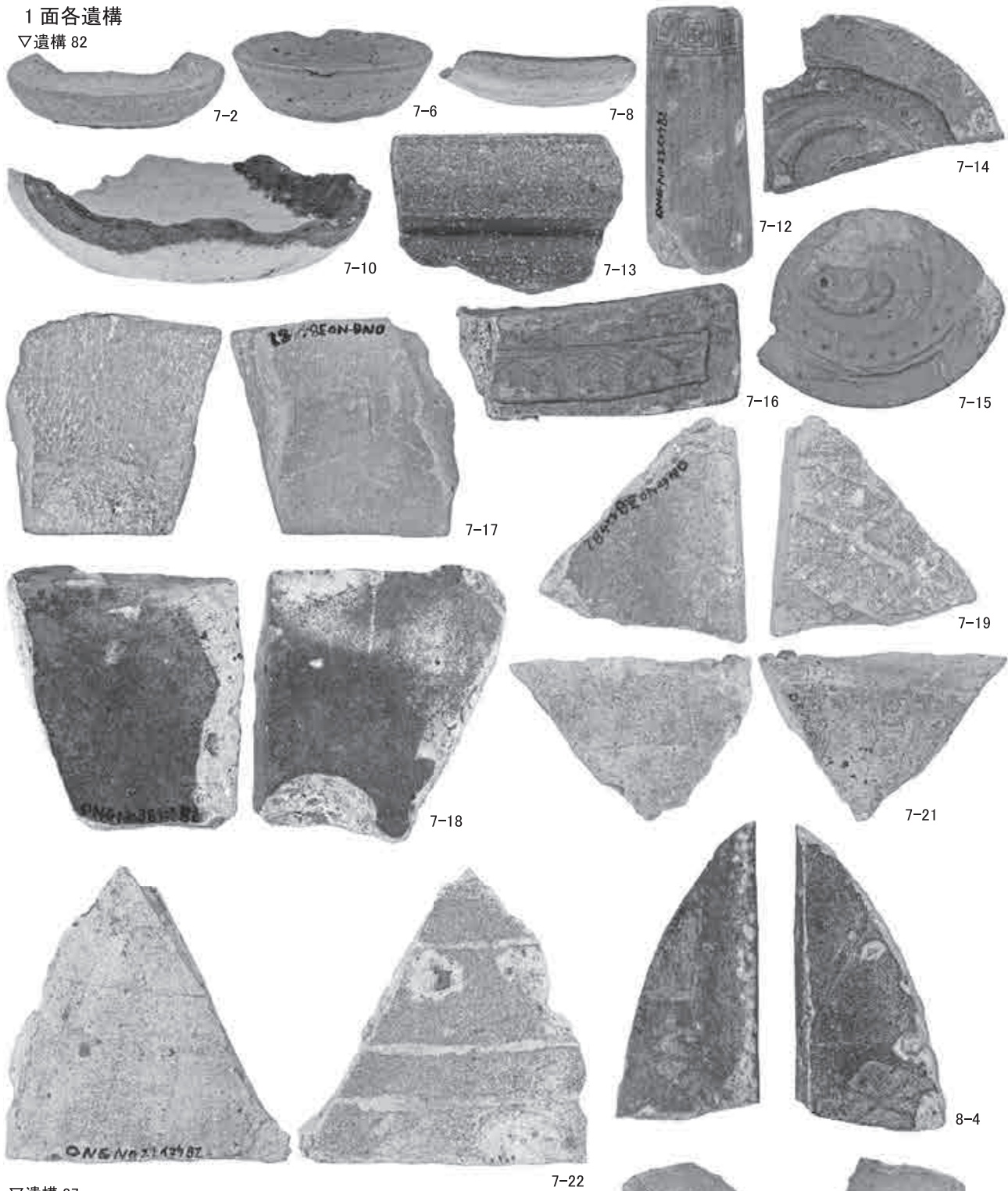


◀第6面全景(東から)

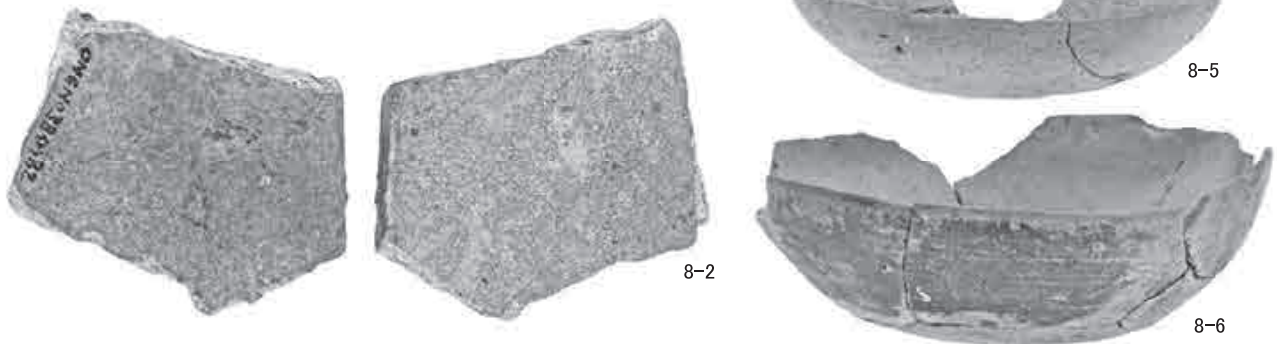
遺物写真図版 1

1 面各遺構

▽遺構 82



▽遺構 87



1 面各遺構

▽遺構 6



9-1

▽遺構 8

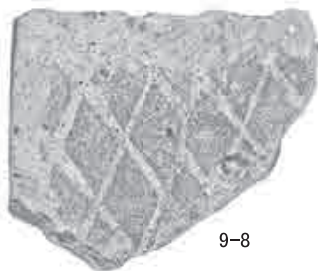


9-2

▽遺構 10



9-5



9-8

▽遺構 9



9-3



9-4

▽遺構 62



9-6



9-7



9-9

▽遺構 18



10-1

▽遺構 21



10-2

▽遺構 29



10-5



10-6

▽遺構 90



10-3



10-12



▽遺構 47



10-9



10-10



10-11

▽遺構 40



10-7

▽遺構 92



10-14

▽遺構 103

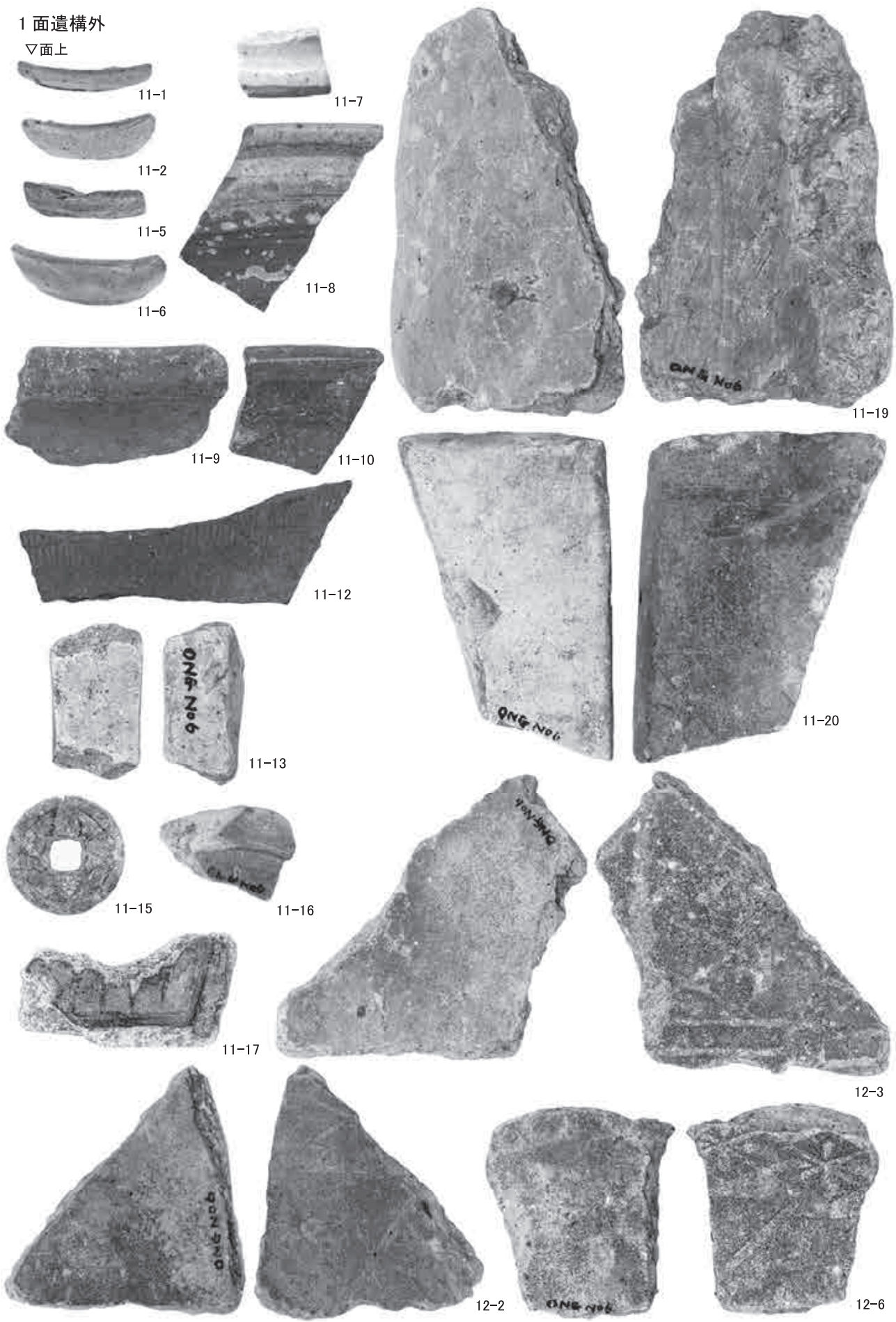


10-15

遺物写真図版3

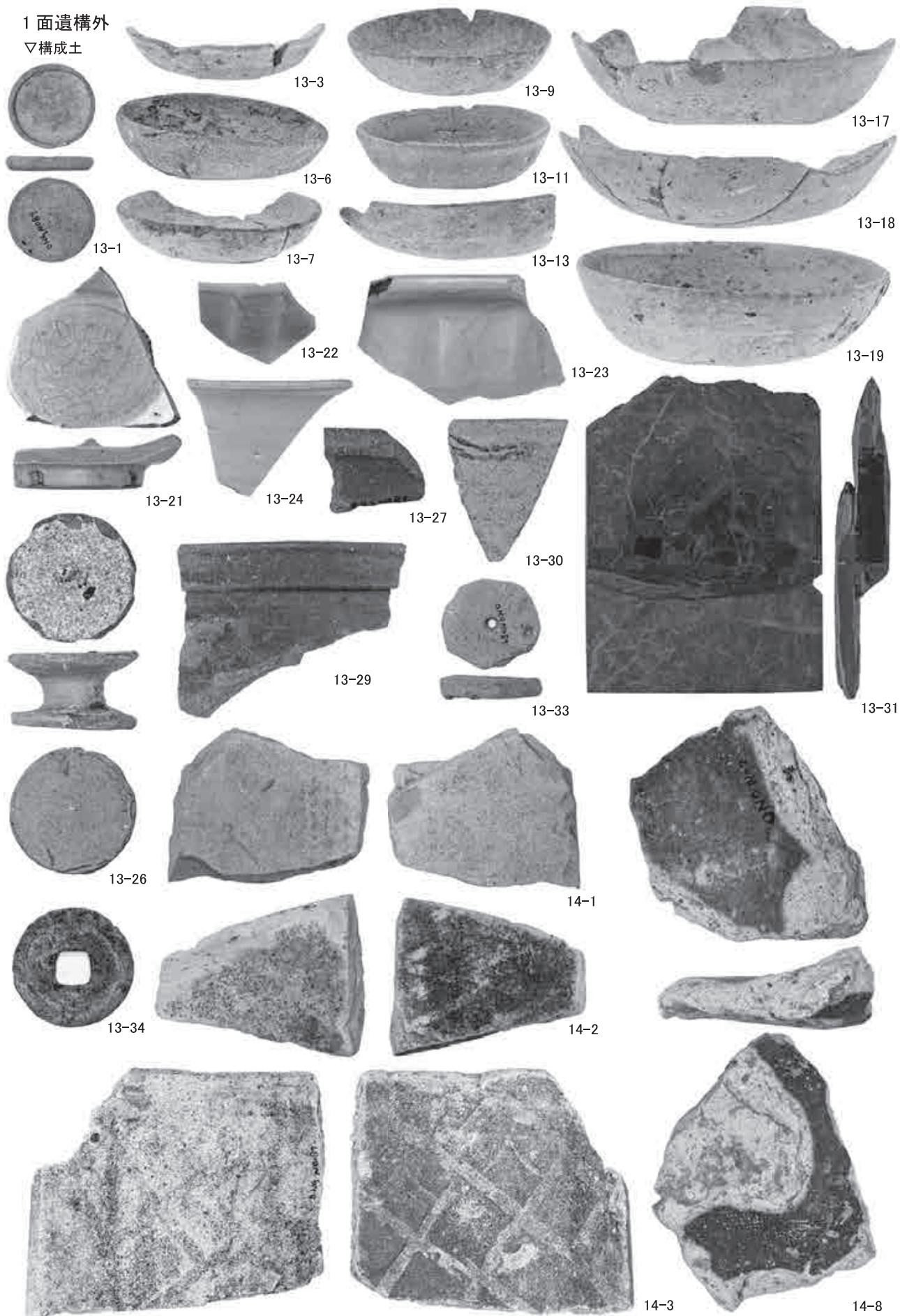
1面遺構外

▽面上





1 面遺構外  
▽構成土



遺物写真図版 5

2面各遺構

▽遺構 109



17-1



17-2



17-3

▽遺構 113



17-10



17-11

▽遺構 112a



17-15



17-16



17-18



17-19



17-20

▽遺構 126



17-34



17-35

▽遺構 110



17-4

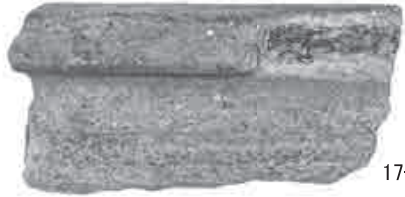


17-5



17-6

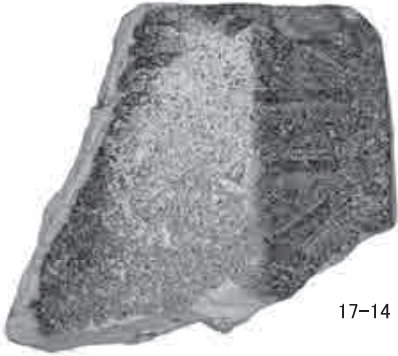
▽遺構 111



17-9



17-3



17-14

▽遺構 112b



17-21



17-22



17-25



17-23



17-24

▽遺構 114



17-26

▽遺構 119



17-27



17-29



17-31



17-30



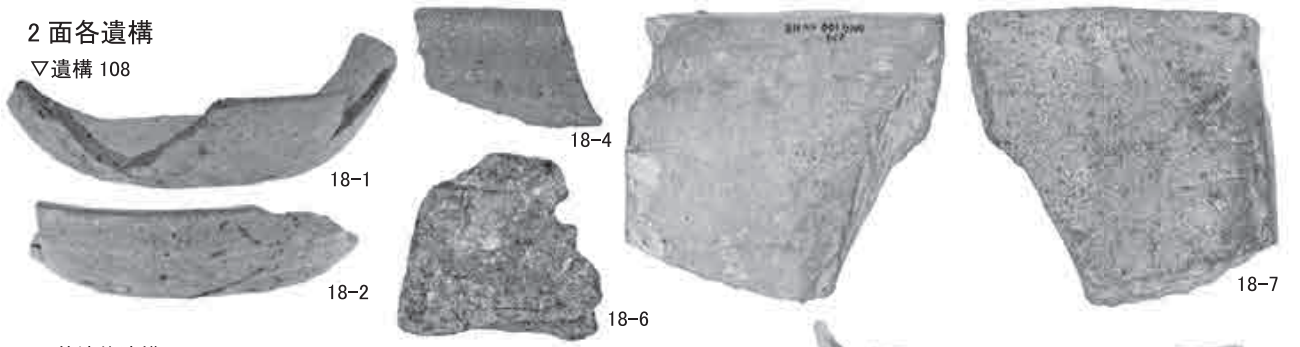
17-36



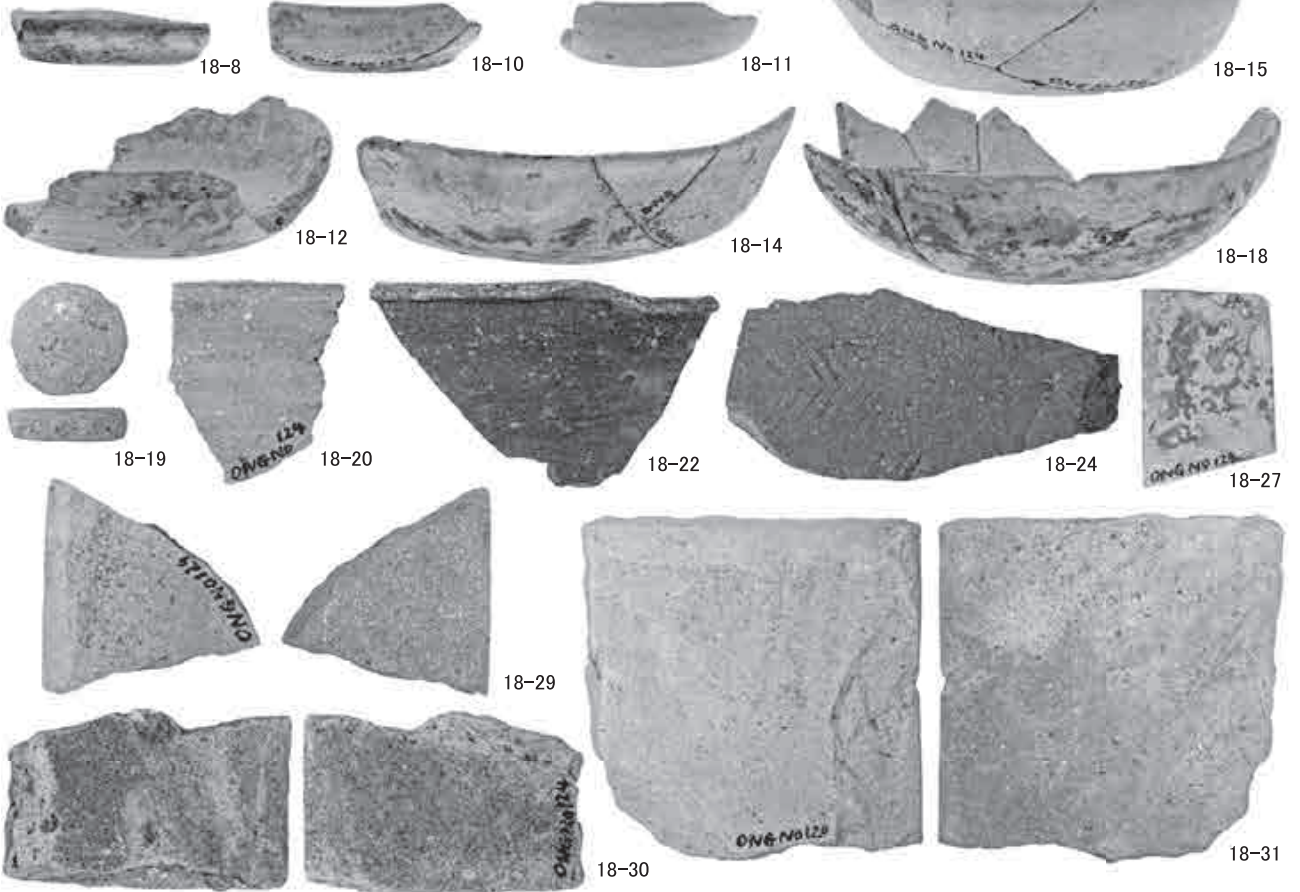
17-33

2面各遺構

▽遺構 108

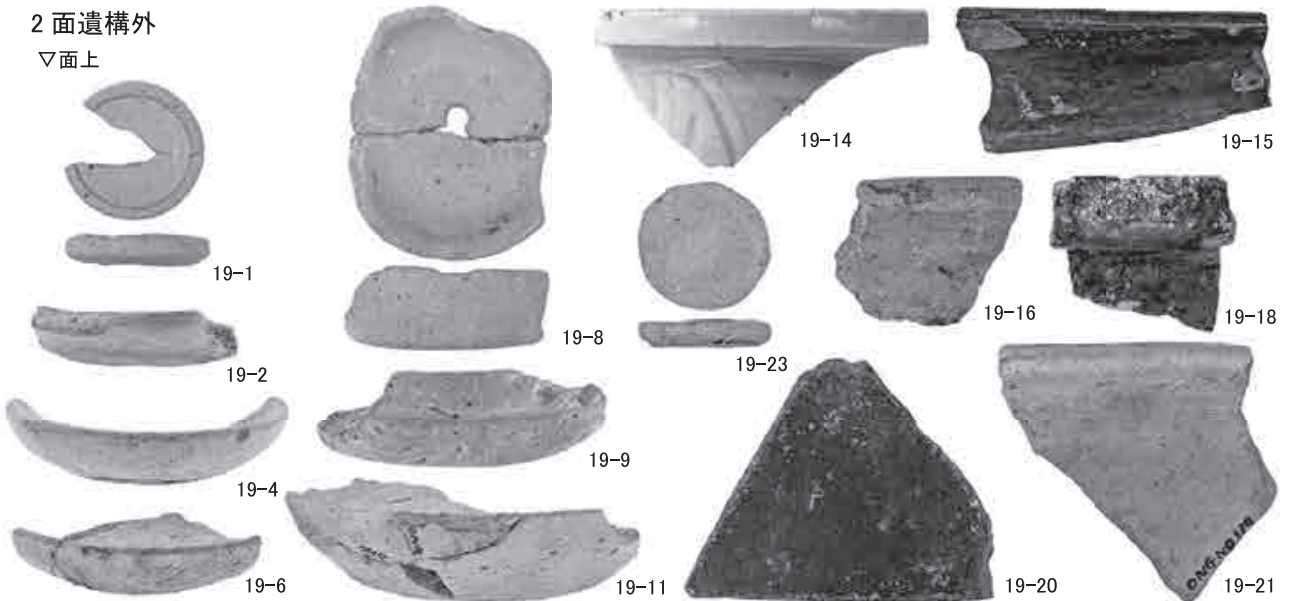


▽基壇状遺構



2面遺構外

▽面上

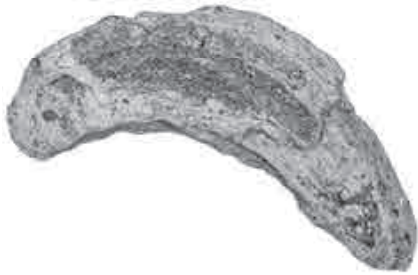


遺物写真図版 7

2面遺構外  
▽面上



19-26



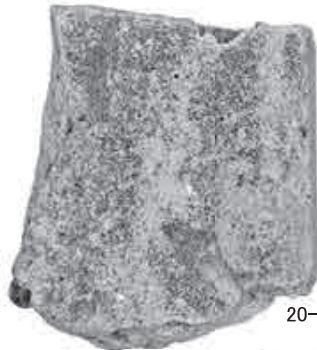
19-25



19-27



20-1



20-4



ONG No 119



20-6

▽構成土



21-1



21-3

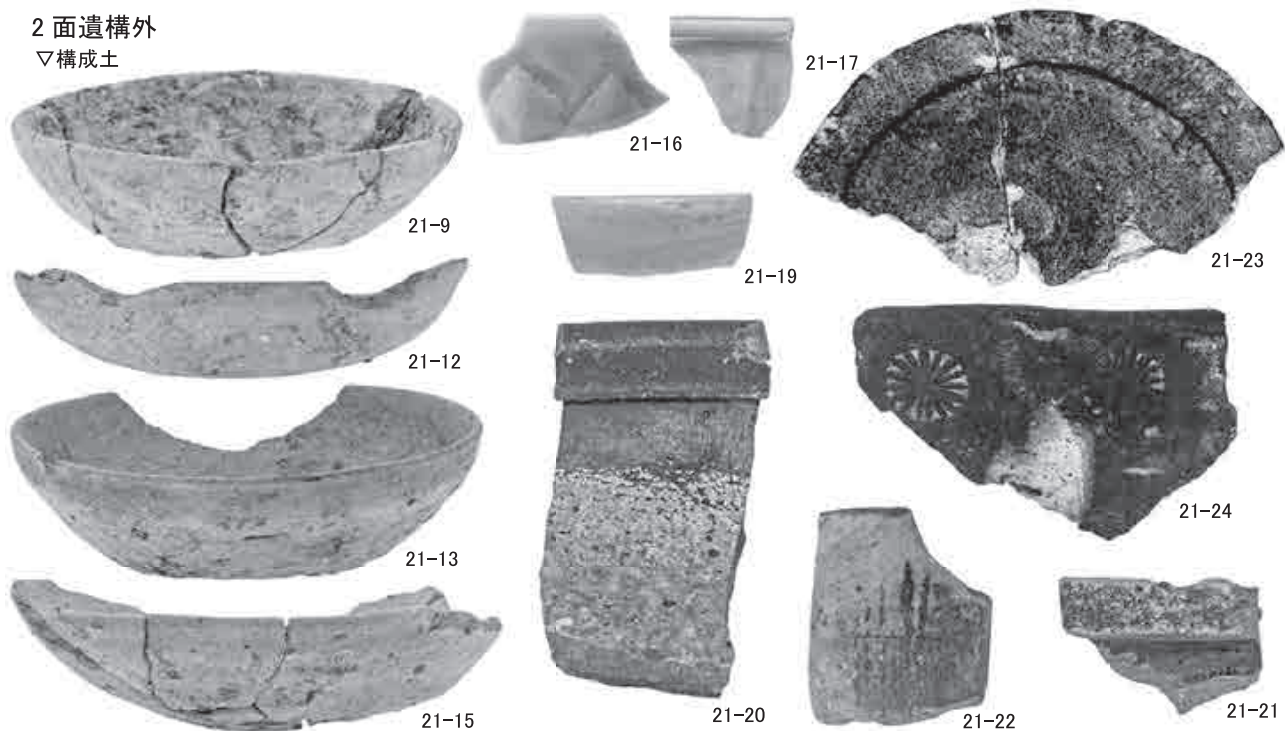


21-5

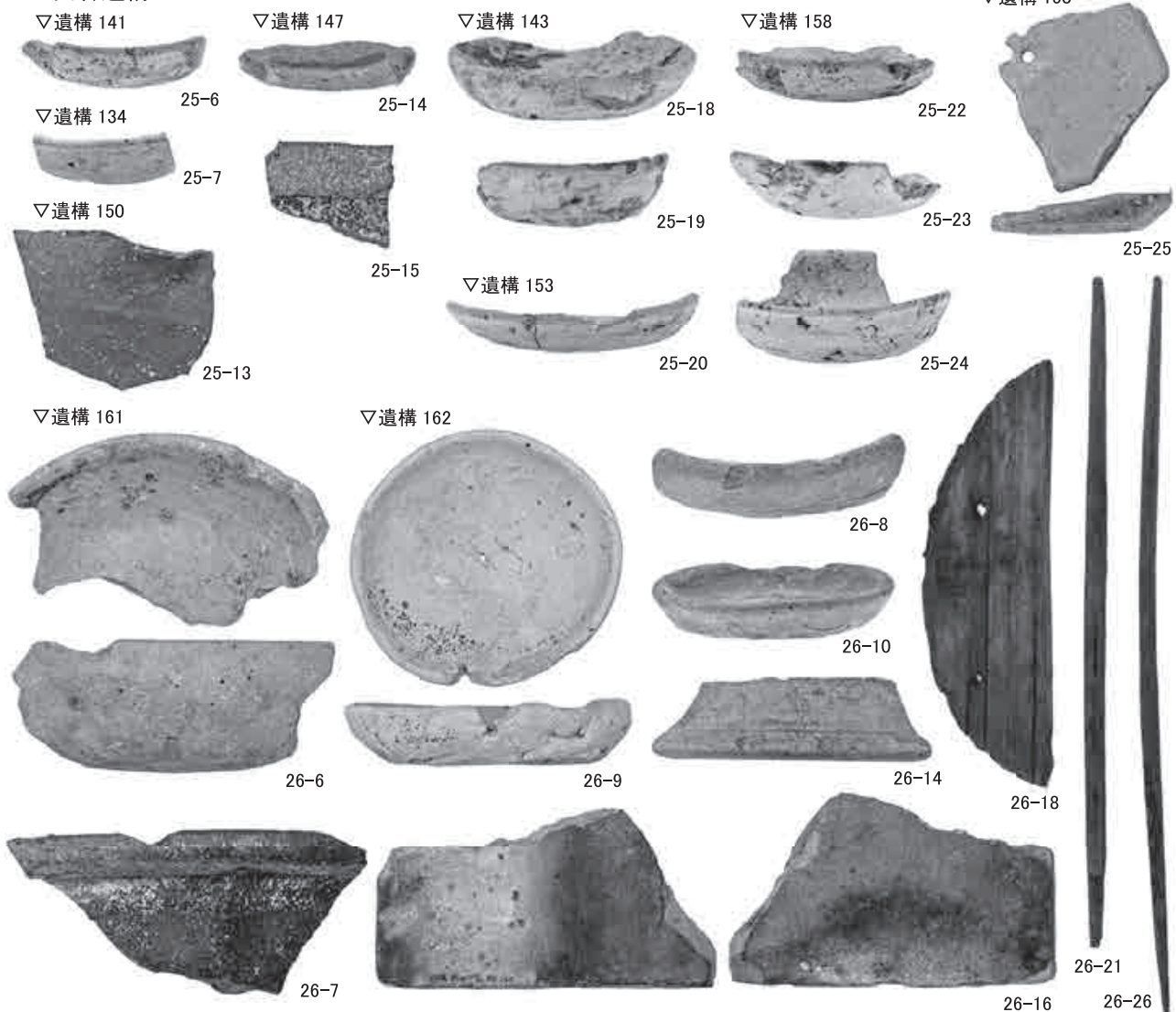


21-8

2面遺構外  
▽構成土



3面各遺構



遺物写真図版9

3面各遺構

▽遺構 162



▽遺構 170

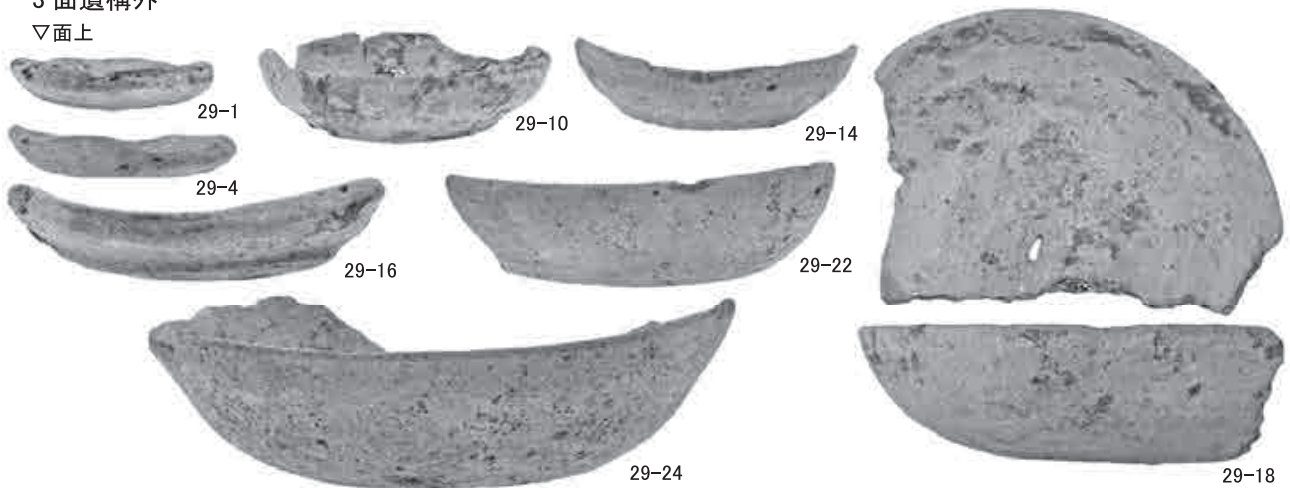


▽遺構 165

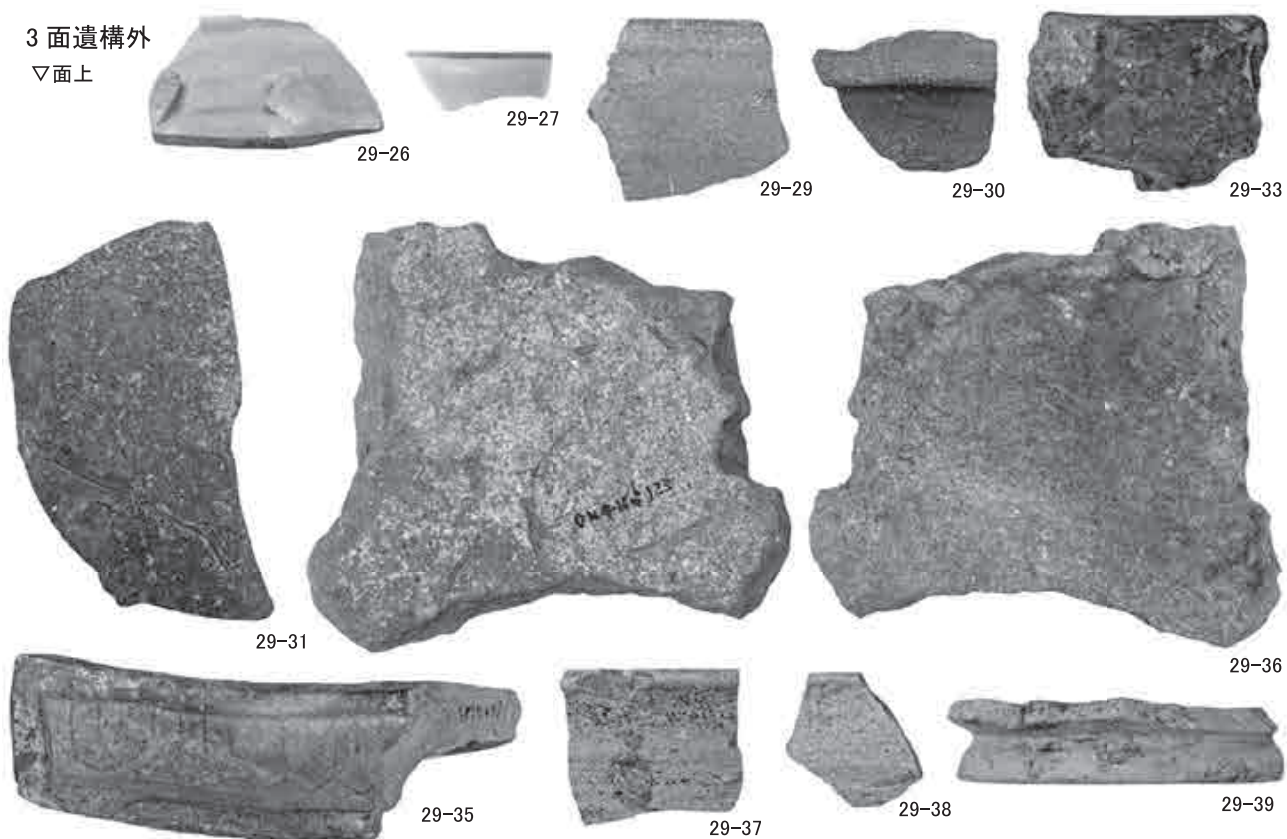


3面遺構外

▽面上



3面遺構外  
▽面上



▽構成土



4面各遺構

▽遺構 190



▽遺構 195



▽遺構 216



▽遺構 194



▽遺構 192



▽遺構 250



▽遺構 256



▽遺構 264



▽遺構 267



4面遺構外

▽面上



遺物写真図版 11

4面遺構外  
▽構成土



5面各遺構  
▽遺構 345



▽遺構 338



▽遺構 340



5面遺構外  
▽面上



▽構成土

▽試掘坑

